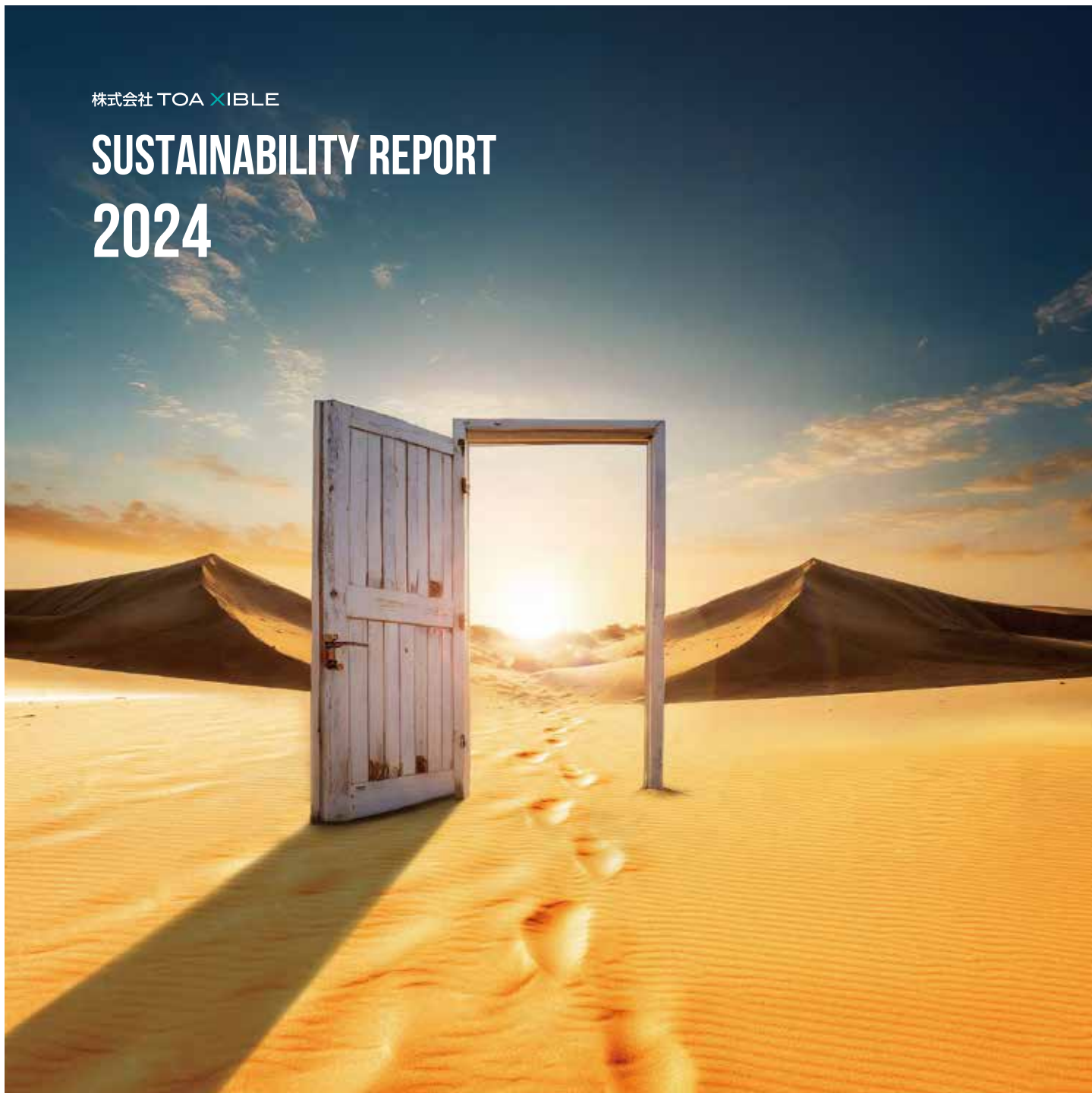


株式会社 TOA XIBLE

SUSTAINABILITY REPORT 2024



Top Message

ト ッ プ メ ッ セ ー ジ

革新と挑戦、未来を共に

日頃より当社の事業に多大なるご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。当社は、2025年3月で創業75周年を迎えることができました。75周年という長きに渡り事業を継続することができているのも、今まで当社の成長を支えていただいたお客様、社員、協力会社、株主、地域の方々、関係者など、すべての皆様のご協力の賜物と、心より感謝申し上げます。

創業から75年の歩みを経て、今、新たな挑戦のフェーズへと進もうとしています。

私たち廃棄物処理業者に求められているのは、単なる適正処理にとどまらず、カーボンニュートラルの実現を見据えた資源循環の担い手としての進化であると考えます。当社は廃棄物を「処分するもの」ではなく、「新たな価値を生む資源」と捉え、これまで循環型社会の構築に取り組んでまいりました。とりわけ地球規模での環境課題が深刻化する中、カーボンニュートラルの実現は、業界の枠を超えた共通の使命であると考えています。

今期においては、一般貨物運送業を営む「株式会社エナジートランスポーター」の全株式を取得いたしました。この連携により、効率的かつ環境負荷の少ない運搬体制の構築を目指します。従来は別々に行われていた運搬業務を統合し、ルートの最適化や車両の稼働効率の向上を実現。これにより、CO₂排出量の削減と運送コストの抑制という双方のメリットを生み出していきます。このような、地域企業同士の連携こそが、地方発のサステナブルなモデルとなりうると私たちは信じています。

財務インパクトの成果と今後の経営戦略

2024年度、TOAグループの連結売上高は43億円となり、グループとしての拡大とシナジー創出の成果を示す結果となりました。既存事業の見直しに加え、新たな挑戦として事業開発室を設置し、再生燃料の販路拡大や商品開発を加速させています。ラボの拡充と人員の配置強化により、さらなる技術革新と新規ビジネスの創出を推進します。来期は、廃棄物の受け入れ量を大幅に増加させる計画です。そのために、全社的に業務プロセスを見直し、現場で発生するムリ・ムダ・ムラを徹底的に排除。DX化の促進や、「利益の質」を重視した営業戦略の見直しにより、効率的かつ高付加価値な企業体質への転換を図ります。さらに、今期に設置した経営企画室を中心に、積極的なM&Aを展開。既存市場でのシェア拡大に加え、当社に不足していた技術・ノウハウ・人材を獲得し、持続可能な成長と競争優位性を強化していきます。

社会情勢が日々変化する中で、TOAグループは「スピード&チャレンジ」の精神を胸に、進化を続けます。私たちは目先の利益だけにとらわれず、未来世代のために、誰ひとり取り残さない社会の実現を目指し、諦めない心で挑戦を続けてまいります。

重要課題

2024年度(第51期)では、TOAグループが掲げる重点テーマ「限りある資源を大切に」「地球環境をクリーンに」「地域社会との共存共栄」「豊かな未来を創る組織の実現」「揺るがない経営基盤の確立」に基づき、以下の重点的な取り組みを推進しています。

“限りある資源を大切に”

廃棄物の適正処理体制を整備するとともに、設備改善や業務プロセスの見直しを進め、受け入れ処理数量の拡大に取り組んできました。今後は、大学や他団体との連携をさらに深め、再生燃料の新たな価値を見出す研究や商品開発を推進し、他社製品との差別化を図ります。これらの取り組みにより、再生燃料の取扱数量を拡大し、資源循環を加速させるとともに、温室効果ガス(GHG)の削減に貢献し、持続可能な社会の実現に寄与してまいります。

“地球環境をクリーンに”

CO₂削減対策や再生可能エネルギー利用率の向上を継続的に推進しています。来期はスコープ3の算出を実現し、温室効果ガス排出量の見える化を進めます。今期には自然資源保全の取組みを強化し、ネイチャーポジティブ宣言を表明しました。自然環境の保全は、すべての経済・社会活動の基盤であり、将来世代への責任でもあります。来期はその観点をさらに広げ、絶滅危惧種の保全活動を新たに開始し、多様な環境課題への対応を加速させ、持続可能で豊かな地球環境の実現を目指してまいります。

“地域社会との共存共栄”

子どもたちへの環境教育や、地域団体・行政との協働による環境保全活動を積極的に展開しています。社有地の緑化活動、地元学校との連携授業、近隣企業と連携した献血活動や清掃活動など、地域に根ざした活動を実施してまいりました。来期はさらに取組みを加速させ、活動の範囲や内容を広げるとともに、多様な世代や立場の方々に参加できる仕組みづくりを進めてまいります。

ESG経営の継続的な推進

ESG経営は、短期的な利益だけでなく、長期的な持続可能性と企業価値の向上を目指す重要な経営戦略と捉えております。そこで2025年度は、経営層自らが先頭に立ち、ESG経営の施策と、社員への教育・行動を促すために、人事の調整を図ります。当社では環境、安全、CSR推進という3つの委員会活動を軸に、2030年のGoalにむけて、全グループ社員がSDGsの実装を継続してまいります。そして、SNSなどを活用した広報戦略の推進を通して活動を外部に発信し、“人材と情報の循環”を強化することで、持続可能な成長のためのエンジンとします。SDGsゴール達成に向けた企業責任を果たしながら、経済的・社会的・環境的価値の好循環を創出してまいります。

人財の育成と組織力強化

企業活動全ての根幹にあるのが、「人」の力です。私たちの事業は、現場で働く一人ひとりの判断、技術、責任感によって支えられています。資源の選別、運搬、処理、地域との対話。そのすべてに人の知恵と情熱が欠かせません。だからこそ当社は、人的資本への投資を最も重要な経営課題の一つと位置づけています。社員一人ひとりが安全で誇りをもって働ける環境づくり。多様な人材が活躍し、学び、成長できる機会の提供。そして、現場から経営までが同じビジョンを共有できる風土の醸成。これらはすべて、持続可能な企業であるために欠かせない「未来への土台」です。当社は、定期新卒採用の継続・リファラル採用制度の活用により、多様な人材の採用をさらに推進させてまいります。また、今期より行ってきた評価制度の見直しにより、これまで以上に働きがいと働きやすさを両立させていきます。さらに積極的な部署間異動の実施や資格取得支援の強化教育プログラムの再構築により、未来の人材の育成を図ります。

“豊かな未来を創る組織の実現”

多様な人材が力を発揮できる環境づくりを進めています。職種や役割の制限を取り払い、女性が安心してキャリアを築ける制度整備を推進。現場・管理職の両面で女性の活躍が広がっています。さらに、柔軟な働き方の導入や育児支援、メンター制度の活用など、一人ひとりのライフステージに寄り添う仕組みを拡充。多様性を尊重し、互いの強みを活かし合うことで、社員が誇りとやりがいを持って働ける組織の実現を目指します。

“揺るがない経営基盤の確立”

内部統制の充実とコンプライアンス体制の強化に取り組んでいます。法令遵守はもちろん、企業活動に伴うリスクを適切に把握・管理するため、リスク管理の徹底を図っています。今後はコンプライアンス委員会やリスク委員会を中心に、各部門が連携しながら社内体制を整備してまいります。全役職員が一体となって行動規範を遵守し、社会からの信頼を揺るぎないものとするとともに、持続的な成長を支える経営基盤の強化に努めてまいります。

株式会社TOAシブル

代表取締役社長兼CEO

安池 慎一郎

75年の感謝を未来への力に

持続可能な社会の実現は、もはや企業活動の選択肢ではなく、存在意義そのものに関わる命題です。変化の激しい時代において、私たちが大切にしているのは、「情熱・誠実・感謝」の心。心をもつのは「人」です。人が変われば、現場が変わる。現場が変われば、社会が変わる。私たちは、「人」「地域」「地球」すべてに配慮した事業を展開し、未来世代に誇れる環境と社会を築いてまいります。100年企業を目指し、引き続き人が育ち、活躍し続ける企業として、そして地域とともに歩むパートナーとして、ステークホルダーの皆様との信頼を礎に、持続可能な未来の実現に向けて挑戦を続けてまいります。

私たちには後
どれ程の時間が残されているだろう？

私たちは時と共に様々なものを創造し、
そして、失ってしまった。

温暖化、気候変動、環境破壊、
生物多様性の損失…。

まるで砂時計の砂が落ちるように、
こぼれ落ちそうな地球の未来。
貴重な時間は刻々と過ぎ去っている。

資源再生、脱炭素、
地域社会の生態系の保護。
確かな一歩が、
地球の未来を大きく変える。

地球を守る。
未来を創る。
その力を私たちは持っている。

子どもたちが
笑顔で暮らせる未来のために。
美しい地球を次の世代へ。
決して、諦めない。
サステナブルな社会の実現を目指す。

フレキシブルな発想で、
インポッシブルをポッシブルに変える。

シブルな会社です！

Index

Our Story

企業情報

- 01 トップメッセージ
- 05 企業理念
- 07 TOAシブルのあゆみ
- 09 会社概要
- 10 財務ハイライト
- 11 TOAプロダクト
- 13 非財務ハイライト

Sustainable Managemnt

サステナビリティ経営

- 15 サステナビリティ経営
- 16 ステークホルダーエンゲージメント
- 17 経営理念とサステナビリティの位置づけ
- 19 価値創造モデル
- 22 5つの優先課題
- 23 外部環境分析
- 25 重要課題とバリューチェーンとの関わり
- 26 重要課題とSDGsへの貢献
- 27 外部からの評価・その他外部団体への加入状況
- 28 登録、積極的な関与をしている業界団体、
会員制団体、国内外の提言機関・認定を受けて
いる制度

Sustainable Initiatives

サステナビリティ活動（ESG）

- 環境（E）
 - 29 環境方針
 - 39 戦略的優先課題（環境汚染のコントロール・脱炭素社会の創造）

社会（S）

- 46 地域社会との共存共栄
- 52 豊かな未来を創る組織の実現

ガバナンス（G）

- 68 揺るがない経営基盤の確立

- 73 グループ会社紹介
- 89 GRIスタンダード対照表

編集方針

「TOAサステナビリティレポート」は、株式会社TOAシブルのサステナビリティに
対する考え方、中長期ビジョン、SDGsの取組み方針や事例、パフォーマンスデー
タを紹介しています。当社の包括的な取り組みについて知っていただくため、適切
な情報開示を推進してまいります。

対象期間

51期（2024年5月～2025年4月）

対象範囲

株式会社TOAシブルでの取組みと活動事例

発行時期

2025年9月 次回発行予定：2026年9月

参考ガイドライン

「GRI Standards」(GRI)、SDGコンパス
※この報告書は、GRIスタンダードを参照して作成されています。

報告内容の信頼性の確保について

サステナビリティレポートに記載した取組みの内容や実績データについては、担当
部署において適切な測定及び集計確保に努めるとともに、可能な限りその方法を
開示しています。

お問い合わせ窓口

〒276-0022 千葉県八千代市上高野 1728番地5
株式会社TOAシブル サステナビリティ推進室

Philosophy

企 業 理 念

「Keep Doing繋げよう未来へ」の
スローガンのもと、
持続可能な社会形成のため、
環境保全・安全への配慮など
自然との共生を基本方針とする
従来の理念を継承しつつ、
未来を繋ぐ企業として
益々社会の発展に貢献してまいります。

Mission

存在意義

わが社は、緑豊かな明日を創るため、廃棄物の再資源化並びに環境保全に向けた技術革新に取り組めます。また、豊かな人間性擁立のため、安全で健康な職場環境の形成につとめるとともに法令遵守を徹底し、広く地域・産業社会に貢献いたします。

Vision

実現したい未来

「自然と共に生きる未来を創造する」
～フレキシブルカンパニー TOA～

Value

強み・価値

- ・ 技術革新
- ・ 知識と見識
- ・ ホスピタリティマインド
- ・ 安全・安心

Credo

経営理念を実践する上で、
大切にすべき7つの精神を定めました

1. おもてなしの心で、最高のサービスを提供します。
2. 時代の変化を先取りし、新しいアイデアの創出に挑戦し続けます。
3. 人間力・技術力・創造力に磨きをかけ、主体的に行動します。
4. 自己研鑽を心掛け、努力を惜みず成長し続けます。
5. 情熱・誠実・感謝をもって行動します。
6. 多様性を尊重し、互いに助け合います。
7. 共に働く仲間と家族のため、常に安全と健康を最優先します。

History

TOA シブ ル の あ ゆ み



有限会社
東亜オイル興業所 設立

1968



東京都台東区において
廃油回収業を開始

1950



株式会社 東亜オイル興業所 設立
東京都中間処理業許可取得

1975



千葉県八千代市に工場を竣工

1980



大型焼却炉竣工工事

1990



コンクリート剥離剤の
製造販売を開始

1982



BWFプラント竣工

2009



アールズファクトリーの全株式を取得

2012



エマルジョンプラント竣工

2021



株式会社エナジートランスポートの
全株式を取得し、完全子会社化

2025



インドネシアでのNEDO実証実験

2015



環境省より中国での油性廃棄物
リサイクル事業の市場調査を受託

2010

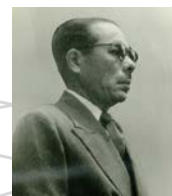


有限会社大池の全株式を取得し、
完全子会社化

2023



「TOAシブル」に社名変更



創業者

長谷川恵一

社長任期
創業～1973年12月



2代目

長谷川孝江

社長任期
1974年1月～1980年4月



3代目

長谷川信也

社長任期
1980年5月～2001年2月



4代目

長谷川純也

社長任期
2001年3月～2007年4月



5代目

碩 孝光

社長任期
2007年5月～2018年7月



6代目

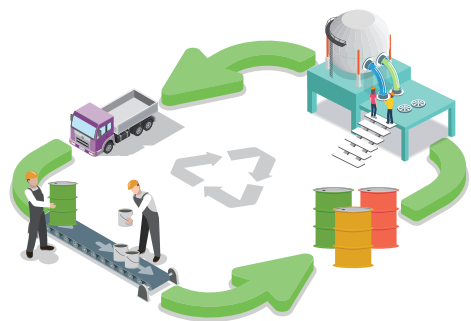
安池 慎一郎

社長任期
2018年8月～現在

Overview 会社概要

社名	株式会社TOAシブル TOA Xible Co., Ltd.	創業	1950年(昭和25年)3月
代表者	安池 慎一郎	創立	1968年(昭和43年)12月
所在地	本社・工場:千葉県八千代市上高野1728-5 北関東営業所:栃木県佐野市朝日町790-1	資本金	8,000万円
事業内容	産業廃棄物の収集運搬及び中間処理 再生重油の製造・販売 エマルジョン燃料の製造・販売 メンテナンス事業	グループ会社	株式会社アールズファクトリー 株式会社大池 株式会社エナジートランスポーター
		従業員数	114人(2025年4月現在)
		売上高	43億円(51期:2024年5月～2025年4月)※連結売上

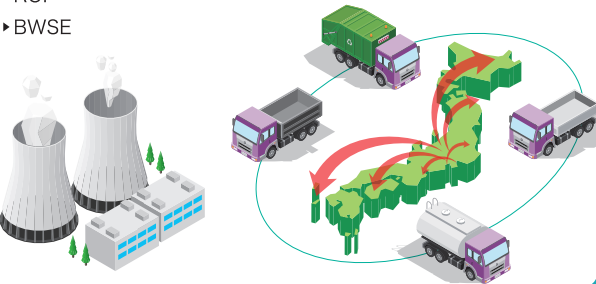
再資源化事業



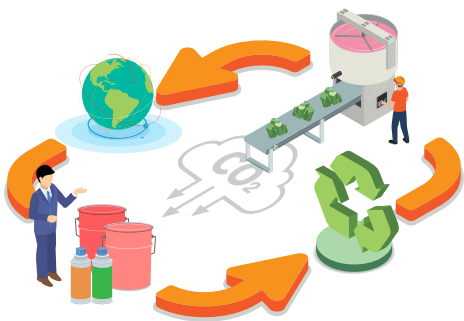
中間処理・リサイクル事業

- ▶BWF
- ▶MOF
- ▶ROF
- ▶BWSE

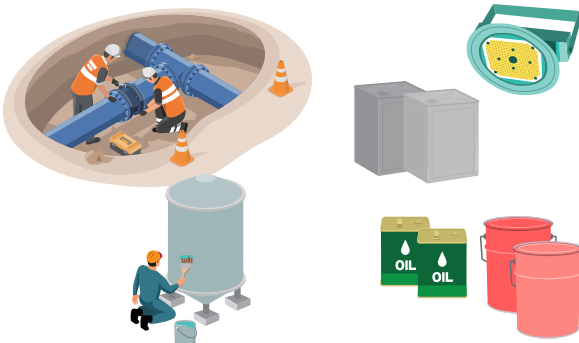
収集運搬事業



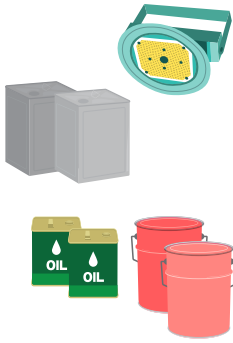
環境保全事業



メンテナンスサービス



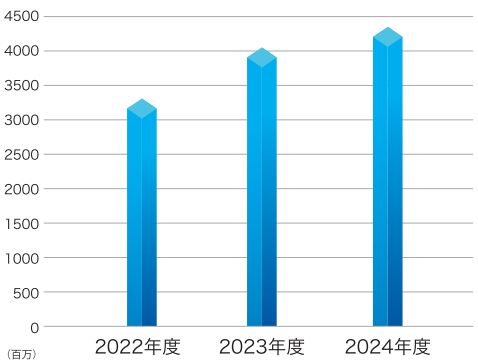
環境商品販売サービス



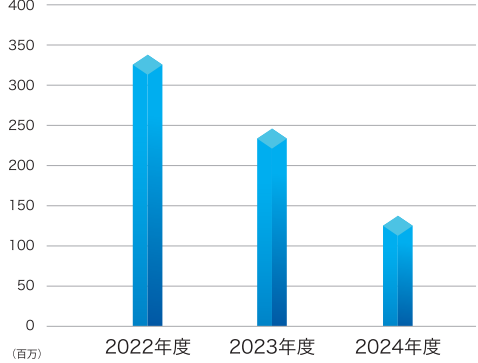
Financial Highlights 財務ハイライト

財務ハイライト

グループ連結売上高



グループ連結営業利益





製 品：再生固形燃料
処理方法：セメント固化



その製造技術は特許を取得(特許番号:5078628号)



製 品：エマルジョン燃料
処理方法：混合



特別管理産業廃棄物の処理が可能 2021年製造開始の新商品



製 品：再生重油
処理方法：油水分離



当社で一番歴史の古い再生燃料 JIS規格を超える高品質製品



Birther Waste Steam Electric
【 BWSE 】

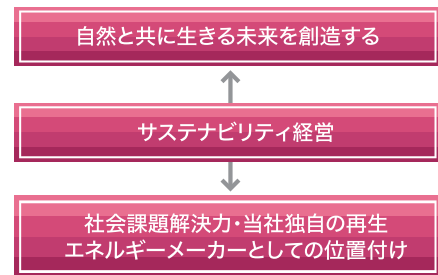
製 品：電気・蒸気
処理方法：焼却



電気と蒸気を生み出す適正処理と有効活用



サステナビリティ経営

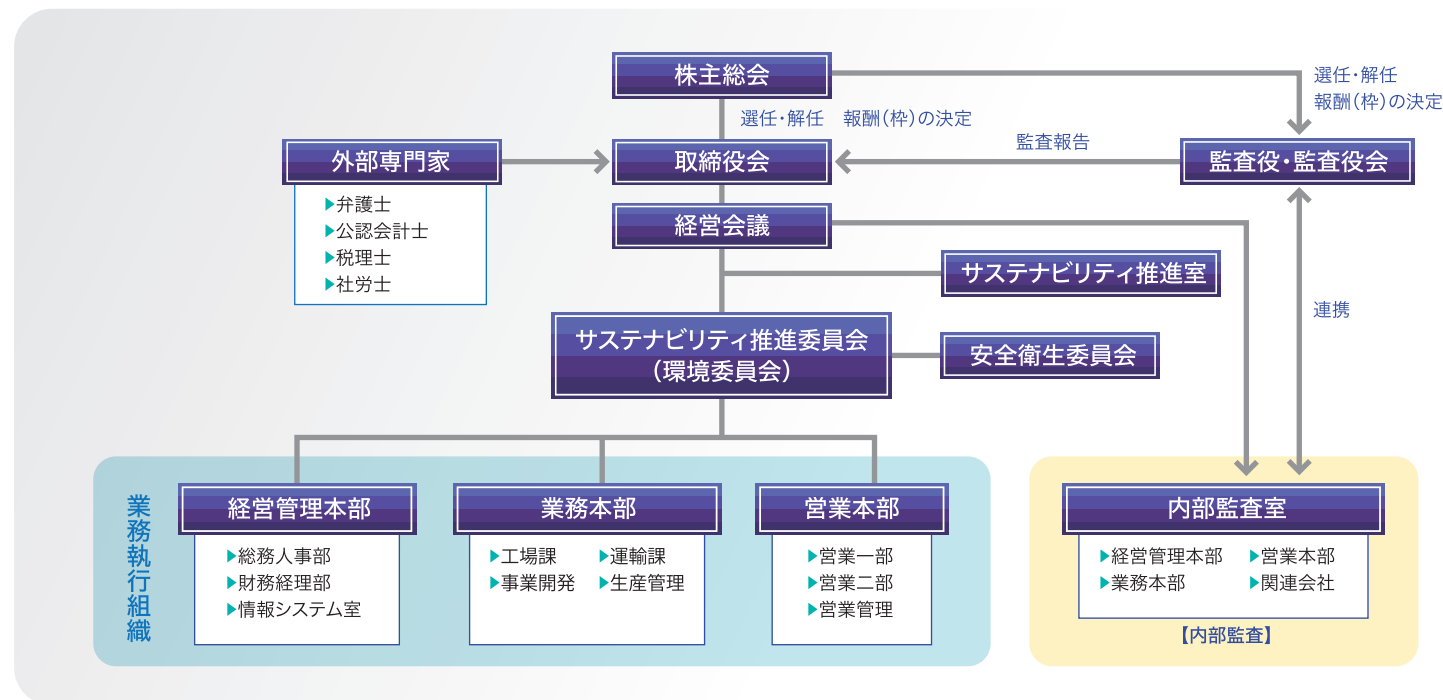


サステナビリティ基本方針

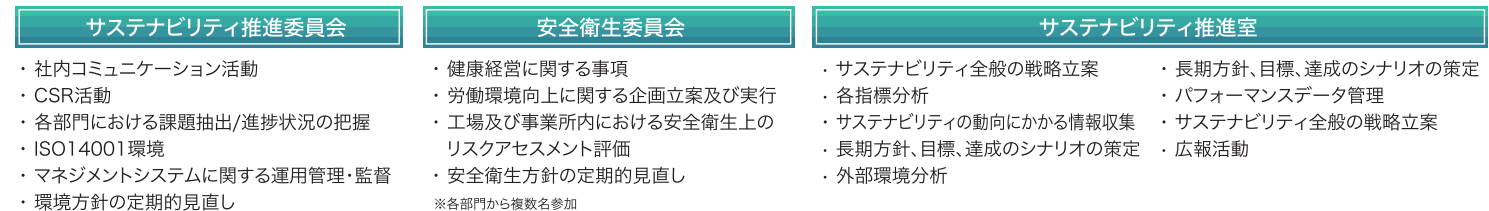
TOAシブルは、当社のVISIONである「自然と共に生きる未来を創造する」ために、経済的・環境的・社会的な各側面に配慮して事業活動を行い、さまざまなステークホルダーとよりよい信頼関係を構築し、サステナブルな社会の実現に貢献することを基本方針とする。

サステナビリティ推進体制

当社のサステナビリティ推進体制として、下図のように各部署、各委員会が自社の課題を顕在化し、解決方法や今後の方向性について連携しています。特にCSR活動や外部環境分析を行っているサステナビリティ推進委員会、ISO 14001を運用・管理する環境委員会(サステナビリティ推進委員会内)、社員の安全・健康を守るための安全衛生委員会を設置し、社員全員でサステナビリティ推進体制を構築しています。当社は「緑豊かな明日を創るため」、そして「環境保全に向けた技術革新」の実現を目指すため、事業活動を通じ、社会課題の解決に取り組むことにより、企業価値の向上を図ります。



サステナビリティ推進における役割



※各部門から複数名参加

ステークホルダーエンゲージメント

当社が応えるべき、ステークホルダーの皆様からの期待を毎年確認しております。それを糧に更なる価値の提供へ邁進しております。

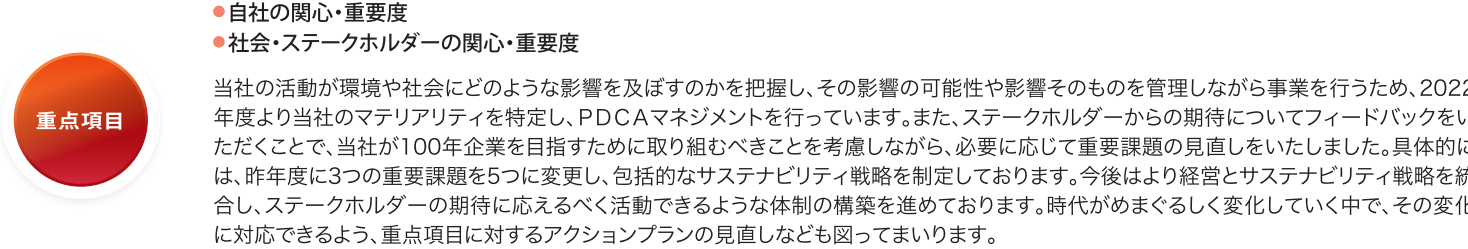
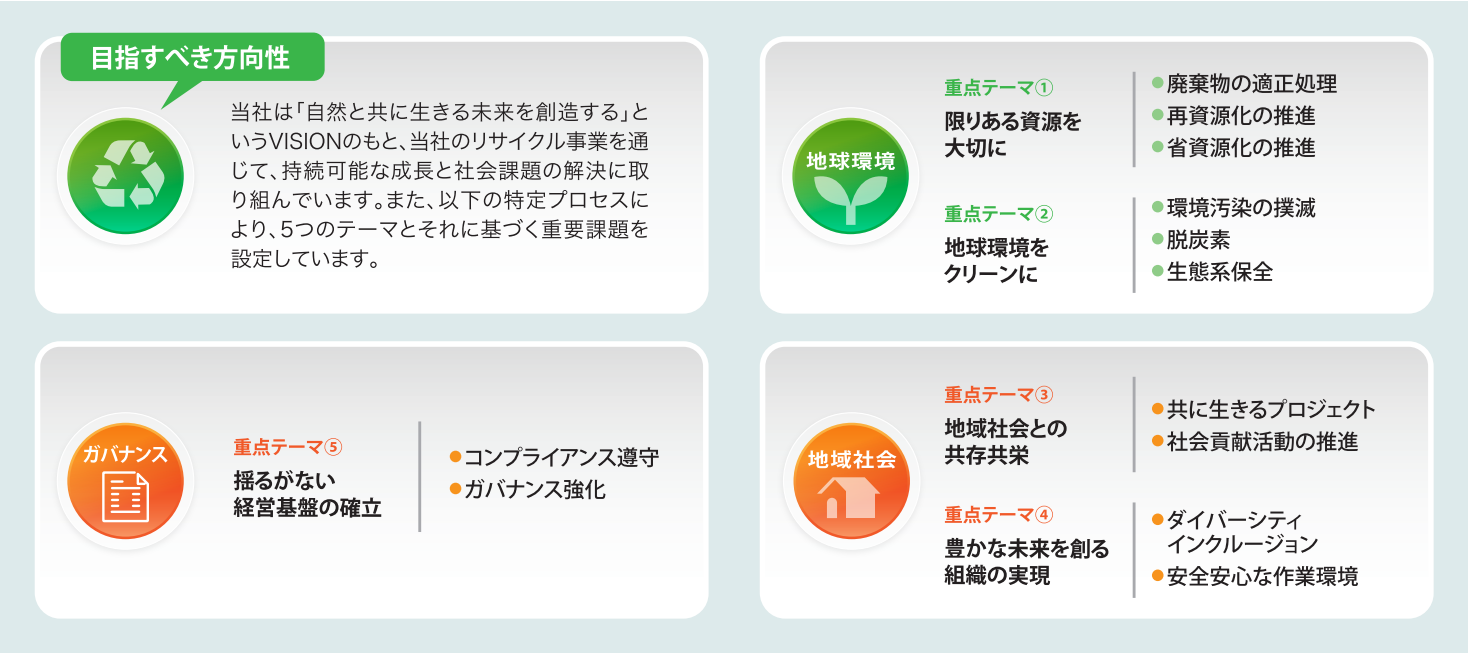
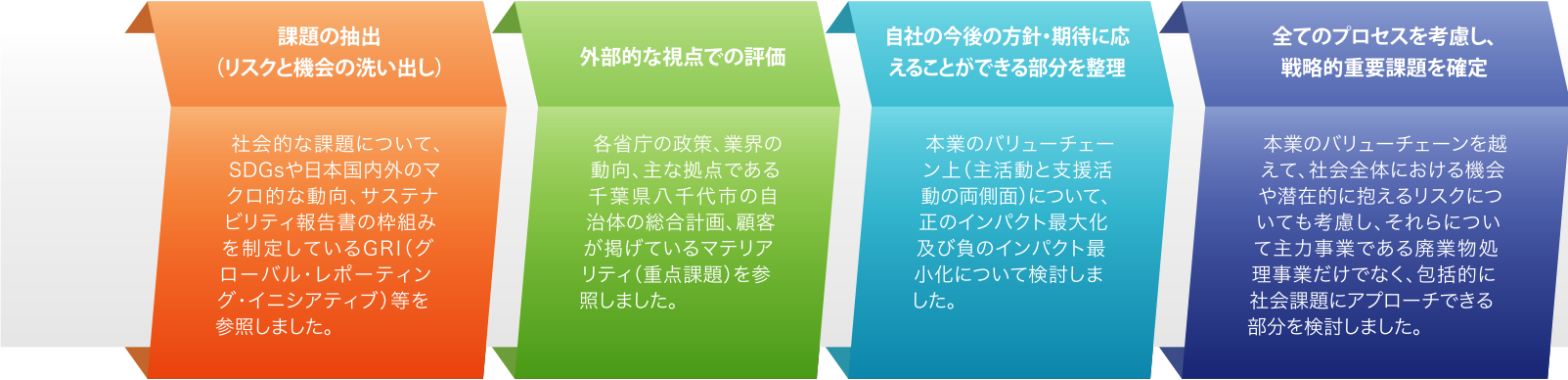
ステークホルダー	主なコミュニケーション方法・頻度		
お客様	● 営業活動(随時) 営業活動の遂行において、お客様からの要望を確認 ● お客様相談窓口(随時) お電話や、問合せ窓口においてお客様からのご提案、ご意見を集約 ● 自社ホームページ、SNS、Activity Report等(随時)、サステナビリティレポート 自社の事業内容や具体的な活動についての発信、「産廃情報ネット」による企業情報の開示		
お取引様 金融機関	● SDGsをテーマとしたセミナー等での情報発信(随時) 関連する業界団体や取引先が参加するセミナーにて、持続可能な取組みを共有、意見交換 ● ミーティング(随時) 自社の事業に関する情報発信の実施、意見交換		
地域の方々	● 近隣住民へ事業説明会(随時) 自社の事業への理解促進、情報発信の実施 ● 普及啓発活動(随時) 近隣学校への環境教育実施・SDGsカードゲームの実施 ● 地域交流(随時) イベントへの招待、季節毎のご挨拶の実施		
社会(広域)	● NGO、NPOとの協働 社会のニーズを把握した上で、SDGsに資する取り組みについて連携		
地球環境	● 業界団体への参加(随時) 関連する団体にて情報開示の対応や意見交換 ● 工場見学会実施(随時) 工場見学の受け入れを実施		
一緒に働く仲間	● ミーティング(随時) 社名変更やSDGs実装等、会社の重要な情報が開示される場合には、必ず研修会を実施 ● 社員総会(年1回) 決算報告や今後の事業戦略について全従業員に周知。部門間での意見交換や相互理解を促進		

TOAシブルのこれまでの社内SDGs浸透に向けた取り組み



経営理念とサステナビリティの位置づけ

経営理念を体現化するために社会的責任を自覚し、企業としてそれに向き合う必要があると考えております。事業活動を通じて、持続可能な社会の実現に貢献する取組みを推進していくことで、より多くの価値創出を図り、これまで以上に皆様から信頼され信用される企業であり続けるために成長してまいります。



価値創造モデル

INPUT

価値創造の源

財務資本

TOAシブルが保有する資産

人的資本

一緒に働く仲間たち

知的資本

廃棄物処理困難物や処理効率への探求

製造資本

廃棄物の適正処理やリサイクルを実行するために必要な設備

社会・関係資本

地域社会や行政との信頼関係をはじめTOAシブルがこれまで培ってきたステークホルダーからの理解とご支援

自然資本

事業活動をする上で必要な水資源やエネルギー

限りある資源を大切に

サーキュラーエコノミーの達成に意欲的に取り組み、廃棄物の適正処理継続によるリサイクル燃料の提供を通じ、マテリアルリサイクルの加速化を推進する会社の実現

地域社会との共存共栄

誰一人取り残さない地域共生社会の実現

豊かな未来を創る組織の実現

全ての社員が誇りをもって仕事に取組み、穏やかな生活を営むことができる会社の実現

揺るがない経営基盤の確立

常に安心安全を提供できる企業としてステークホルダーから認められる会社の実現

OUR VISION

地球環境をクリーンに
カーボンニュートラルの達成に
積極的に取り組み、イノベーションの継続的な
創出と共に、自社だけでなく
地域の課題解決を担う
会社の実現

TOAの強み・価値

安全・安心

ホスピタリティ
マインド

知識と見識

技術革新

財務資本・人的資本・知的資本

製造資本・社会・文化資本・自然資本

OUTCOME

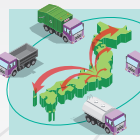
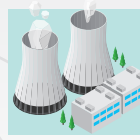
TOAのありたい姿

- ① 限りある資源を大切に
- ② 地球環境をクリーンに
- ③ 地域社会との共存共栄
- ④ 豊かな未来を創る組織の実現
- ⑤ 揺るがない経営基盤の確立

事業活動



再資源化事業



中間処理・リサイクル事業

収集運搬事業



環境保全事業



メンテナンスサービス

環境商品販売サービス

SOCIETY

自社を取り巻く外部環境

環境

- ・気候変動対策の加速化
- ・サーキュラーエコノミー経済の浸透によるマテリアルリサイクルの加速化、化石燃料需要の減少
- ・地域の生態系保護に対するより一層の対応

経済

- ・インフレーション
- ・戦争
- ・技術革新によるビジネスモデルの変化

社会

- ・人口動態及び労働環境の変化
- ・パンデミック
- ・責任ある企業行動の遵守強化
- ・情報漏洩

地球環境をクリーンに

カーボンニュートラルの達成に積極的に取り組み、イノベーションの継続的な創出と共に、自社だけでなく地域の課題解決を担う会社の実現

5つの優先課題

	主なテーマ	今後 2 ～ 3 年の計画	2030 年のありたい姿
限りある資源を大切に	▶廃棄物の適正処理	・稼働率の向上を踏まえた設備改善と生産体制の構築 ・新たな技術開発による再資源化事業の拡大	サーキュラーエコノミーの達成に意欲的に取り組み、 廃棄物の適正処理継続によるリサイクル燃料の提供を通じ、 マテリアルリサイクルの加速化を推進する会社の実現
	▶再資源化の推進		
	▶省資源化の推進		
地球環境をクリーンに	▶環境汚染のコントロール ▶脱炭素社会の創造	・GHG排出量の算出と削減の明確化 ・生物多様性への取組拡大と地域の生態系調査実施	カーボンニュートラル達成に積極的に取り組み、 イノベーションの継続的な創出と共に、自社だけでなく、 地域の課題解決を担う会社の実現
	▶水資源の管理(守る・保守・保全) ▶生物多様性への貢献		
地域社会との共存共栄	▶共に生きるプロジェクト ▶社会貢献活動の推進	・環境教育等、SDGs普及活動の活発化 ・体験の機会の場合への認定・登録	誰一人取り残さない地域共生社会の実現
豊かな未来を創る組織の実現	▶有給取得率の向上 ▶残業時間の低減 ▶DXの推進 ▶社員の生活習慣病のリスク低減 ▶社員のメンタルヘルス不調の回避 ▶社員の事故ケガ発生による負傷の回避 ▶ダイバーシティインクルージョン ▶離職率の低減 ▶社員の成長	・女性職員の採用とそれに伴う職場環境改善 ・福利厚生サービスの充実 ・時間外労働の抑止と業務の平準化を目的としたシステムの導入	全ての社員が誇りを持って仕事に取り組み、 穏やかな生活を営むことができる会社の実現
揺るがない経営基盤の確立	▶環境におけるコンプライアンスの遵守 ▶社会面におけるコンプライアンスの遵守 ▶財務の健全性 ▶情報セキュリティの管理 ▶サプライチェーンマネジメント ▶コーポレートガバナンス体制の強化 ▶レジリエンス機能の強化	・全社員に対するコンプライアンス研修の定期実施 ・内部統制システムの構築	常に安心・安全を提供できる企業として ステークホルダーから認められる会社の実現

外部環境分析(環境)

気候変動対策の加速化	リスク(移行)	燃料費の高騰により、エネルギー調達コストの増加に伴い、財務を圧迫する恐れがある。
		環境への取り組みに後る向きな姿勢は、レピュテーションリスクを生じさせ、企業ブランド価値の低下に繋がる恐れがある。
		炭素税(カーボンプライシング)等、温室効果ガス排出を抑制する政策導入・規制強化が今後想定されることから、対処方針を検討しておかないとオペレーションコストの増加につながる恐れがある。
		カーボンニュートラルが進行していく中で、中長期的に廃棄物の焼却による非エネルギー起源の二酸化炭素に向き合うタイミングが発生し、その対策コストが発生する恐れがある。
		サイクロンや洪水などの極端な気象事象の過酷さの増加により、労働安全衛生の強化やBCP強化への対応が求められる。
サーキュラーエコノミー経済の浸透によるマテリアルリサイクルの加速化、化石燃料需要の減少	機会	再資源化された製品の需要の増加が見込まれ、収益の増加が見込まれる。ただし、再生重油については今後の世界の評価を考慮する必要がある。
		施設の省エネルギー推進によるエネルギーコストの低減が期待され、更なる二酸化炭素排出量削減行動をとることによって、同業他社との差別化につながり、新規顧客獲得機会の増加を見込むことができる。
		再生可能エネルギー事業への需要増大により、エネルギー供給から再資源事業まで、広範にわたる環境ビジネスの市場が拡大する。
地域の生態系保護に対するより一層の対応	リスク	マテリアルリサイクルの見直しでサーマルリサイクルのマテリアルバランスの減少が生じる可能性があり、中長期的に見ると搬入量が落ち込む可能性がある。
	機会	サーキュラーエコノミーに資する処理プロセスの技術開発に注力し、再資源市場を開拓していくことで、リスクで記載した収益の下振れを抑え、上振れへ転換していけるような収益構造を目指す。
	リスク	自然環境の悪化が進み、自社が活用する自然資本へのアクセスが難しくなると追加コストが発生する。また、生態系を守る政策から逆行した事業推進をするとステークホルダーの支持を得られなくなりレピュテーションリスクが発生する。
	機会	健全な水循環・物質循環と、それを取り巻く社会・経済活動における循環への貢献と企業価値向上につながる。生物多様性を軸に、地域単位で生態系保全の取組みを実施することで持続可能なまちづくりを進め、生物との共存共栄を図る。

外部環境分析(経済)

インフレーション	リスク	物価の高騰により、財務を圧迫する恐れがある。
	機会	生産プロセスを見直し資源投下を抑えることに成功することで、妥当な価格で製品やサービスを提供することを可能にし、市場を確保出来ることが想定される。
戦争	リスク	新施設導入のコスト増加。施設トラブルによる負傷リスクの増大。
	機会	自国におけるエネルギー等の安全保障の強化が求められており、万が一自国の資源調達難が発生した場合、自国内における資源確保の下支えに寄与することができる。
技術革新によるビジネスモデルの変化	リスク	SX(サステナビリティトランスフォーメーション)に向けた次世代技術や新技術を取り入れないと後れを取ってしまう可能性が高くなる。
	機会	革新的なサービスやビジネスモデルの創出・提供・新技術の活用による生産性の向上、サプライチェーン全体の最適化により財務内容の改善や向上につながる可能性がある。

外部環境分析(社会)

人口動態及び労働環境の変化	リスク	時代の潮流に即した労働環境の整備を講じなければサービスの質が低下し、顧客満足の低下につながる。
		働き方改革を進めないと特に過剰労働等による従業員の健康被害のリスクが増大する恐れがある。
		少子高齢化、労働人口不足、都市化が進むと人財の確保が難化する恐れがある。
	機会	仕組みや業務効率の見直し、ITなど仕事効率化技術・サービスの発展、残業時間削減の効果を目指すことで生産性向上につながる。 社員エンゲージメントの向上、ライフワークバランスの強化、様々な背景を抱える人が働きやすい職場への変革を通じて人財の確保及び離職率の抑止につながる。
パンデミック	リスク	適切な人員配置を敷くことができず、通常操業に影響を及ぼす恐れがある。
	機会	多様な働きに資する社内の仕組みを整備し、業務効率の見直しを図ることによって、レジリエンスを高めることができる。
責任ある企業行動の遵守強化	リスク	産廃区分の厳格化やリサイクルの徹底指導等により、処理対応が厳しくなる。また、コンプライアンス遵守が社内に浸透していないと、企業の信用の低下につながる。施設周辺の企業や住民と適切な関係を築けない場合、操業に対する反発が発生する恐れがある。
	機会	信頼できる業者を選定した委託の増加により、廃棄物適正処理の機会が増加することにつながる。地域密着型のCSR活動や環境教育などが、地域社会との信頼構築に貢献できる。
情報漏洩	リスク	個人情報や企業情報を適正に取り扱わないと、企業の信用低下につながる。また、サイバー攻撃の件数が増加している中で、情報流出を防ぐ対策を講じる必要がある。
	機会	信頼できる業者を選定した委託の増加により、廃棄物適正処理の機会が増加することにつながる。

重要課題とバリューチェーンとの関わり

重点取り組みのテーマ	主活動(主に企業において価値を提供する部分)				支援活動(バリューチェーンの主活動の基盤となる部分)			
	社会	収集運搬	中間処理	リサイクル埋立	調達活動	技術開発	人事・労務管理	全般管理
限りある資源を大切に								
廃棄物の適正処理		●	●	●		●		
再資源化の推進		●	●	●		●		
省資源化の推進		●	●	●	●	●	●	●
地球環境をクリーンに								
環境汚染の撲滅		●	●	●				
脱炭素	●	●	●	●	●	●	●	●
再生可能エネルギーの利用促進		●	●	●	●	●	●	●
水資源の管理		●	●	●				
生物多様性への貢献	●	●	●	●				
共に生きるプロジェクト	●							
地域社会との共存共栄								
社会貢献活動の推進	●							
有給取得率の向上							●	
残業時間の低減							●	
DXの推進		●	●	●	●	●	●	●
社員の生活習慣病のリスク低減							●	
社員のメンタルヘルス不調の回避							●	
社員の事故怪我発生による負傷の回避		●	●	●	●	●	●	●
豊かな未来を創る組織の実現								
ダイバーシティインクルージョン							●	
離職率の低減							●	
社員の成長							●	
揺るがない経営基盤の確立								
環境におけるコンプライアンスの遵守	●	●	●	●	●	●	●	●
社会面におけるコンプライアンスの遵守	●	●	●	●	●	●	●	●
財務の健全性	●	●	●	●	●	●	●	●
情報セキュリティの管理	●	●	●	●	●	●	●	●
サプライチェーンマネジメント	●	●	●	●	●	●	●	●
コーポレートガバナンス体制の強化	●	●	●	●	●	●	●	●
レジリエンス機能の強化	●	●	●	●	●	●	●	●

重要課題とSDGsへの貢献

重点取り組みのテーマ	SDGsのゴール																
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
限りある資源を大切に																	
廃棄物の適正処理												12.4 12.5					
再資源化の推進			3.9			6.3	7.3					12.4 12.5					
省資源化の推進							7.3					12.5	13.1				
地球環境をクリーンに																	
環境汚染の撲滅			3.9			6.3 6.4 6.6						12.4	13.1	14.3	15.2		
脱炭素							7.2										
再生可能エネルギーの利用促進			3.9									12.4	13.1	14.3	15.2		
水資源の管理						6.3 6.6						12.4		14.1			
生物多様性への貢献															15.5		
共に生きるプロジェクト			3.3 3.4 3.8	4.7							11.5	12.8		14.1			17.16
地域社会との共存共有																	
社会貢献活動の推進 ※文脈により貢献しうる				4							11						
有給取得率の向上					5.1 5.4			8.5									
残業時間の低減								8.5 8.8									
DXの推進								8.5 8.8									
社員の生活習慣病のリスク低減			3.4														
社員のメンタルヘルス不調の回避			3.4														
社員の事故怪我発生による負傷の回避			3					8									
豊かな未来を創る組織の実現																	
ダイバーシティインクルージョン					5.7			8.5 8.6		10.3							
離職率の低減					5.1			8.5 8.6		10.3							
社員の成長				4.3 4.4 4.5	5.1			8.2 8.5 8.8		10.3							
揺るがない経営基盤の確立 ※多岐に貢献するための基盤																	
環境におけるコンプライアンスの遵守	サステナビリティ領域におけるインパクトを発揮するための基盤																
社会面におけるコンプライアンスの遵守																	
財務の健全性																	
情報セキュリティの管理																	
サプライチェーンマネジメント																	
コーポレートガバナンス体制の強化																	
レジリエンス機能の強化																	

外部からの評価・その他外部団体への加入状況

1986年3月

「再資源化貢献企業賞」受賞
財団法人
クリーンジャパンセンターより

1993年6月

「地方優良事業所賞」受賞
社団法人
全国産業廃棄物連合会より

1996年6月

「優良事業所賞」受賞
社団法人
全国産業廃棄物連合会より

2008年1月

「循環型社会形成推進
功労者等賞環境大臣表彰」
環境省より

2012年10月

「3R推進協議会
会長賞」受賞
3R推進協議会より

2012年12月

「千葉県知事感謝状」受賞
「千葉県環境生活部長感謝状」受賞
千葉県廃棄物適正処理推進大会より

2023年4月

「やちよサービス大賞」
大賞受賞
千葉県八千代市より

2024年1月

千葉のちから「中小企業・小規模企業表彰」受賞
千葉県より
ESJ AWARD 2023 最優秀賞 受賞
エコスタッフ・ジャパンより

重要な役割を担う団体のリスト

団体・機関名	団体・機関の概要	団体・機関上の要職	名前	当社における所属・役職
一般社団法人 千葉県産業資源循環協会	産業廃棄物の適正処理及び再生利用の普及、拡大及び定着の促進、資源循環の推進による産業の健全な発展並びに公衆衛生の向上、生活環境の保全による循環型社会の構築	副会長	安池 慎一郎	代表取締役社長兼CEO
全国オイルリサイクル協同組合	再生重油の共同受注および相互融通の斡旋、再生重油等の原料の共同調達、斡旋、試験分析および新製品の共同開発 他	理事長	安池 慎一郎	代表取締役社長兼CEO
千葉県産業廃棄物処理業協同組合	産業廃棄物の適正処理支援・調査等	専務理事	安池 慎一郎	代表取締役社長兼CEO
エコスタッフ・ジャパン株式会社	廃棄物処理関連教育研修・検定実施・廃棄物適正処理支援・廃棄物コンサルティング(各種調査)	取締役	古澤 孝之	専務取締役兼COO
クリーントウキョウ協同組合	産業廃棄物処理支援・調査	理事	古澤 孝之	専務取締役兼COO
八千代市防災協会	防火・防災に関する講習、民間防火・防災組織の育成・活動推進	理事	佐野 元紀	生産本部 生産部 工場一課 課長
八千代市工場協議会	市内企業の地域間ネットワーク構築・課題解決	役員	安藤 大樹	常務取締役 (兼)CFO(兼)CHRO
上高野工業団地工場協議会	市内企業の地域間ネットワーク構築・課題解決	役員	安藤 大樹	常務取締役 (兼)CFO(兼)CHRO
一般社団法人 千葉県環境保全協議会	環境保全に関する知識と、技術の普及啓蒙、工場、事業場等公害防止、管理の円滑な遂行	理事	茂家 貴志	営業本部長

	登録、積極的な関与をしている 業界団体、会員制団体、国内外の提言機関	認定を受けている制度
限りある 資源を大切に	● 一般社団法人千葉県産業資源循環協会 ● 一般社団法人東京都産業資源循環協会 ● 首都圏廃棄物事業協同組合 ● エコスタッフ・ジャパン 認定企業 ● 全国オイルリサイクル協同組合 	● ISO14001 ● 産廃エキスパート  2022.4～2025.3 取組継続中 産廃 エキスパート 認定番号 5-21-A0075 産業廃棄物処分業許可優良認定 ● 特別管理産業廃棄物処分業許可優良認定 ● 産業廃棄物収集運搬業許可優良認定 ● 特別管理産業廃棄物収集運搬業許可優良認定
地球環境を クリーンに	● 30by30アライアンス登録 ● 生物多様性ちば企業ネットワーク ● ネイチャーポジティブ宣言 	● SBT イニシアチブ 「Business Ambition for 1.5°C」の認定 ● CO₂CO₂スマート宣言事業所登録 
地域社会との 共存共栄	● ちばSDGsパートナー登録 	● ESJ優良ドライバー認定(ブロンズ・シルバー) ● 千葉県「社員いきいき！ 元気な会社宣言企業」登録 ● ちば家庭・学校・地域応援企業登録制度 
豊かな未来を創る 組織の実現		● 経済産業省「健康経営優良法人」認定 
揺るがない 経営基盤の確立		● 経済産業省「事業継続力強化計画」認定 ● SECURITY ACTION(二つ星)登録 

環境方針

当社は、関東近郊にわたる産業廃棄物の収集運搬、中間処理の許可を有し、廃棄物の無害化処理やリサイクル製品の製造及び、環境配慮商品の流通を通じ持続可能な社会の形成に貢献しています。しかしながら、その過程においては、環境への負荷を与えていることを認識し、環境目標を定め直すとともに汚染の予防に努め、構築した環境マネジメントシステムを継続的に改善します。また、関連の法律、条令及び当社が同意するその他の要求事項を遵守します。

私たちは、以下の項目を重点テーマとして活動を行います。

- 1.環境保全に向けた更なる技術革新により、再生重油、再生混合燃料、再生固形燃料の製造などを主体とするリサイクル事業を発展させ、再資源化を推進します。
- 2.低炭素社会の構築のため、CO₂低減に役立つ製品の製造及び設備機器導入を促進することにより、CO₂の実質的削減を目指します。
- 3.当社の販売網を通して環境保護に貢献できる商品を積極的に情報収集し、仕入れ、販売を行います。
- 4.環境負荷を低減するための未然防止活動を通じて、事故・災害・苦情を撲滅します。

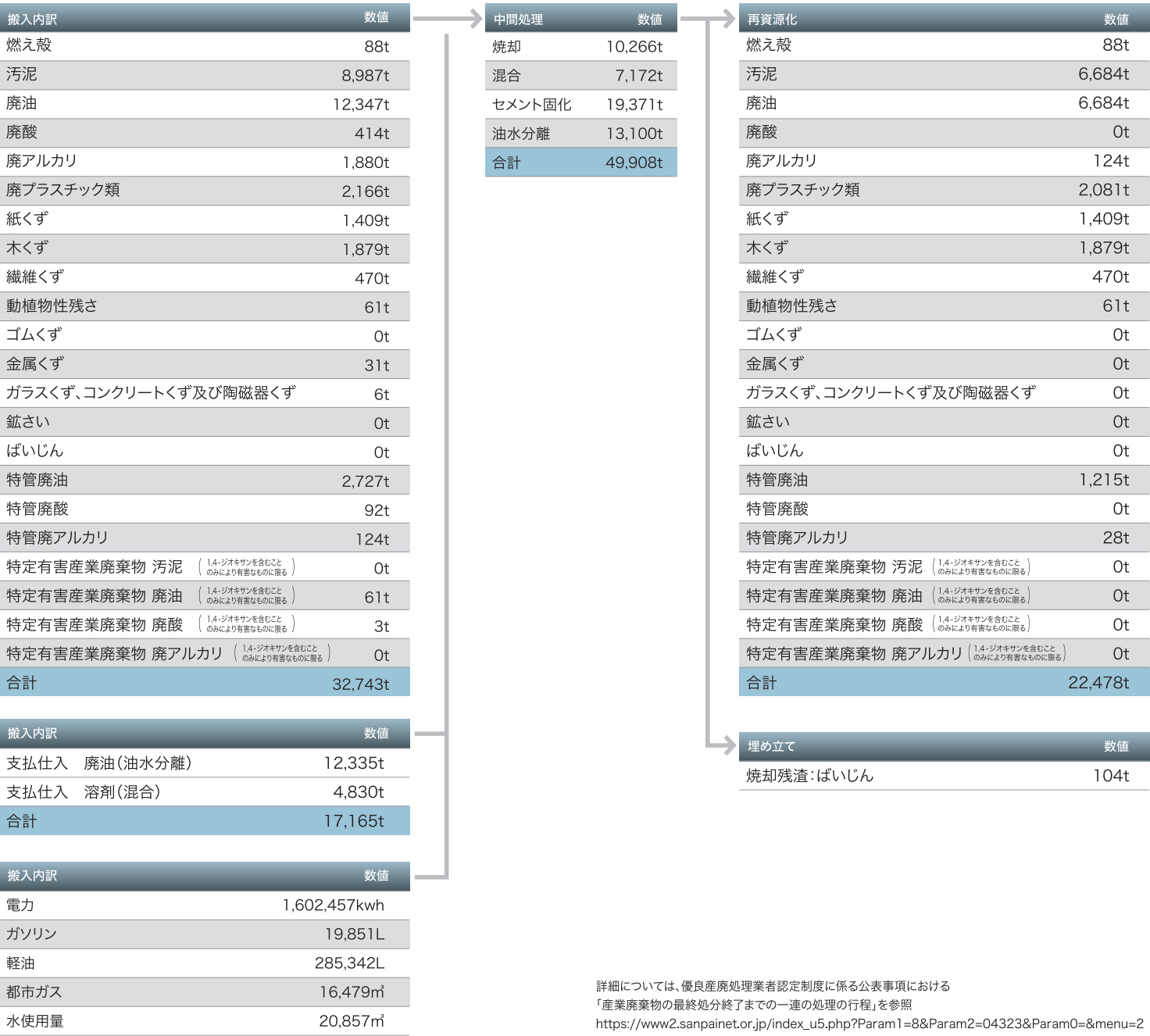
この環境方針は全従業員に周知するとともに、外部からの要求に応じて公表いたします。

サステナビリティ中期目標と実績(廃棄物の適正処理)

限りある資源を大切に

最も関連するSDGsのターゲット	TOAシプルの具体的なコミットメント	TOAシプルのコミットメントの解説	活用する数値	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	評価	ありたい姿
12 つくる責任 つかう責任 12.4/12.5	受け入れから処理までの管理	廃棄物処理量の増大	廃棄物の処理量(t)	産廃 29,144t/年 有価 15,778t/年 合計 44,923t/年	産廃 32,812t/年 有価 15,038t/年 合計 47,849t/年	産廃 31,627t/年 有価 16,306t/年 合計 47,933t/年	産廃 32,743(t/年) 有価 17,165t/年 合計 49,908t/年	○	予算達成に基づく数値
		廃棄物返品数量の削減	廃棄物返品数量(t)	産廃:47 t/年 有価:28 t/年 合計:75 t/年	産廃:20 t/年 有価:2 t/年 合計:22 t/年 禁忌品確認 1回/月実施 対象顧客への周知実施 社員教育実施中	産廃:45 t/年 有価:1 t/年 合計:46 t/年 禁忌品確認 1回/月実施 対象顧客への周知実施 社員教育実施中	産廃:27 t/年 有価:4 t/年 合計:31 t/年 禁忌品確認 1回/月実施 対象顧客への周知実施 社員教育実施中	○	返品なし (0t/年)
		処理工場稼働率の向上	稼働率	35% (44,841t/年)	38% (48,723t/年)	39% (50,397t/年)	42% (53,228t/年)	○	100% (127,684t/年)

戦略的優先課題(再資源化・省資源化)



2024年度の実績と今後の方針

廃棄物の適正処理

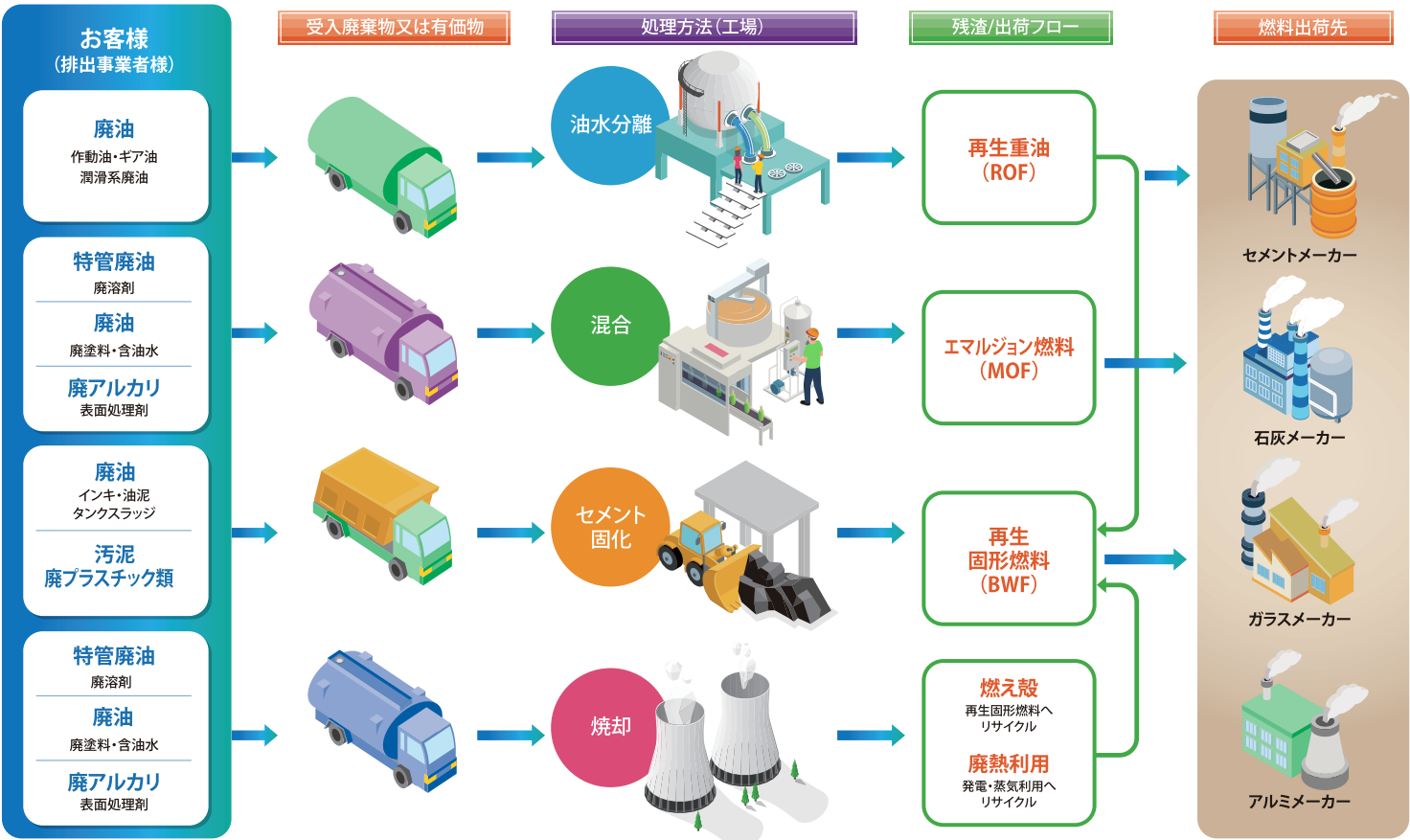
当社は中間処理業者として、責任と明瞭性を持って安心安全な適正処理を行い、リサイクル効率を更に改善することで循環型社会に貢献します。

当社にはリサイクル効率を向上させるために油水分離・混合・セメント固化・焼却の4つの施設があり、この4施設で全てリサイクルが可能となっております。焼却施設から排出される燃え殻、製品製造過程において排出されるスラッジや固形物等、自社でリサイクルし完結させることで再資源化率の向上と高いリサイクル率を実現していきます。廃棄物の返品数量削減を継続的に行っておりますが昨年よりも返品数量は増加してしまいました。

今後は、処理困難物の受入など受入数量増やす等取り組み、廃棄物処理量を増大し廃棄物を適正に処理することで更なる再資源化率の向上を目指します。



廃棄物処理における当社のビジネスモデル

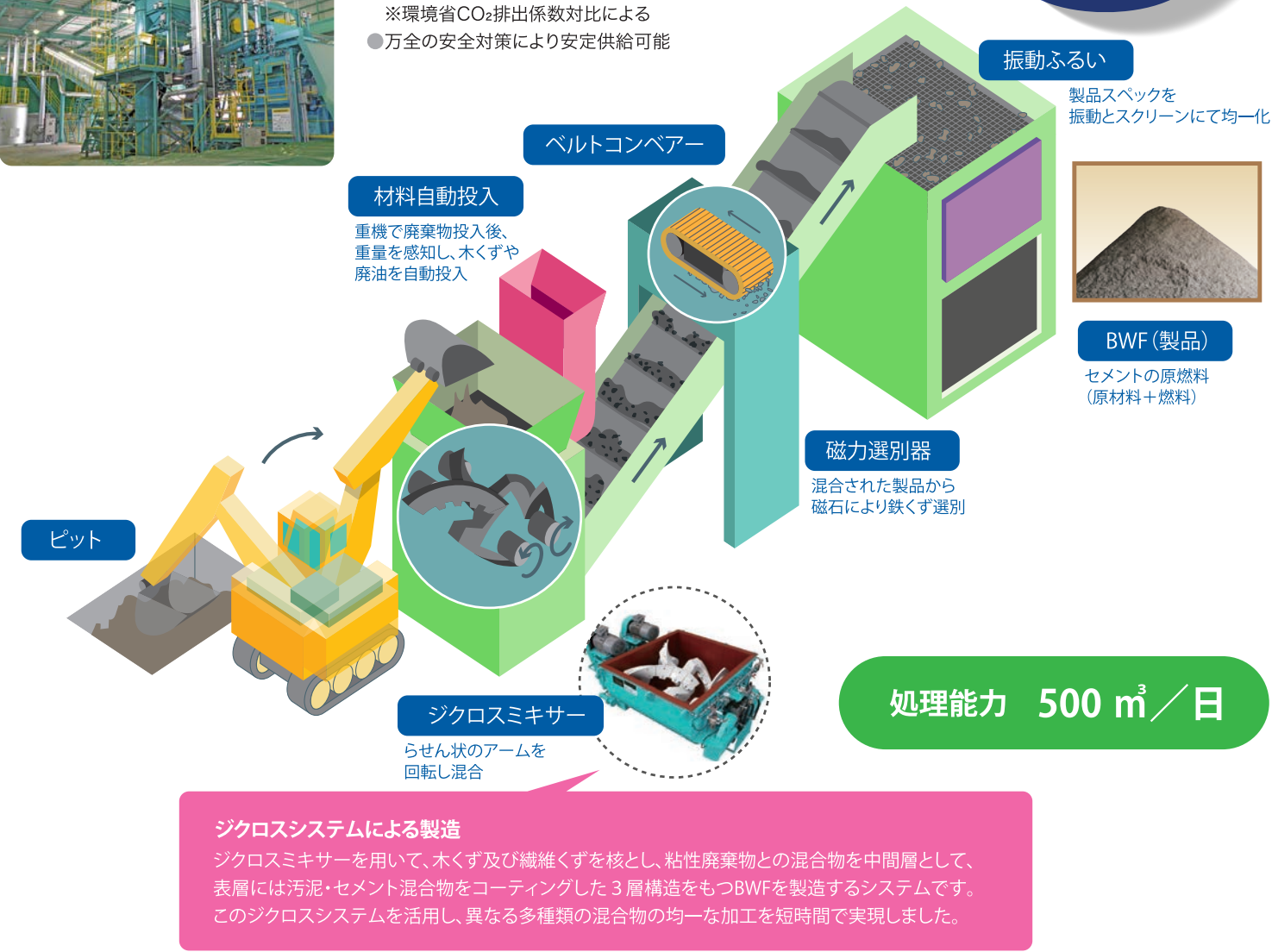


戦略的優先課題 (廃棄物の適性処理)

セメント固化



- カロリーや性状などお客様の利用環境に合わせた製品にカスタマイズ可
- 石炭の代替燃料として、石炭使用時より18%のCO₂排出量削減 ※環境省CO₂排出係数対比による
- 万全の安全対策により安定供給可能



Biomass Waste Fuel

戦略的優先課題(廃棄物の適正処理)

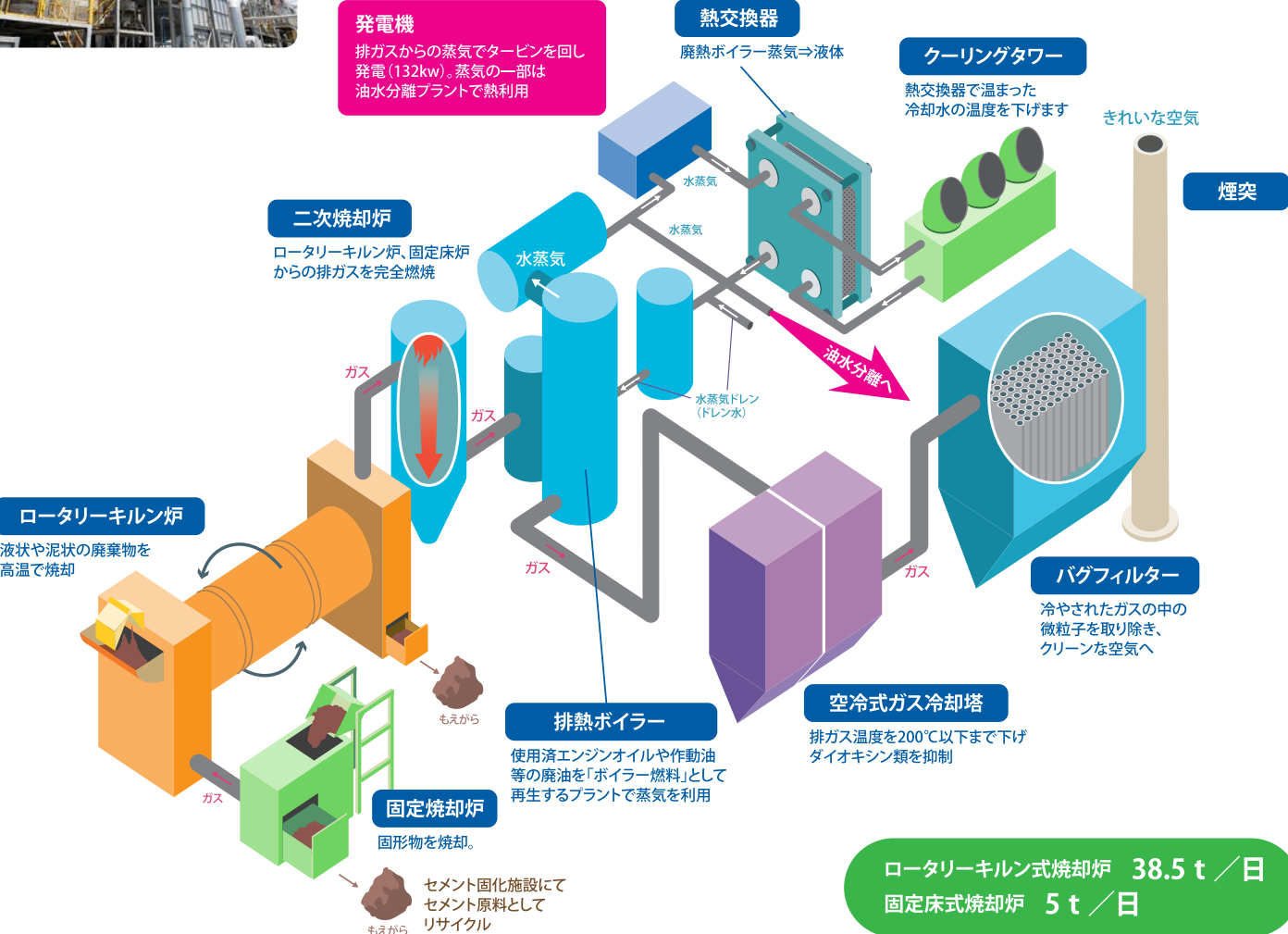
焼却



- 焼却燃料はバージン燃料を使用しない為CO₂削減に寄与
- 再生重油の水分除去に焼却エネルギーを利用
- 燃え殻はセメント固化施設にて製品のべたつき防止剤として再利用
- 工場内で排出される蒸気発電でサーマルリサイクル



Birther Waste Steam Electric



戦略的優先課題(廃棄物の適正処理)

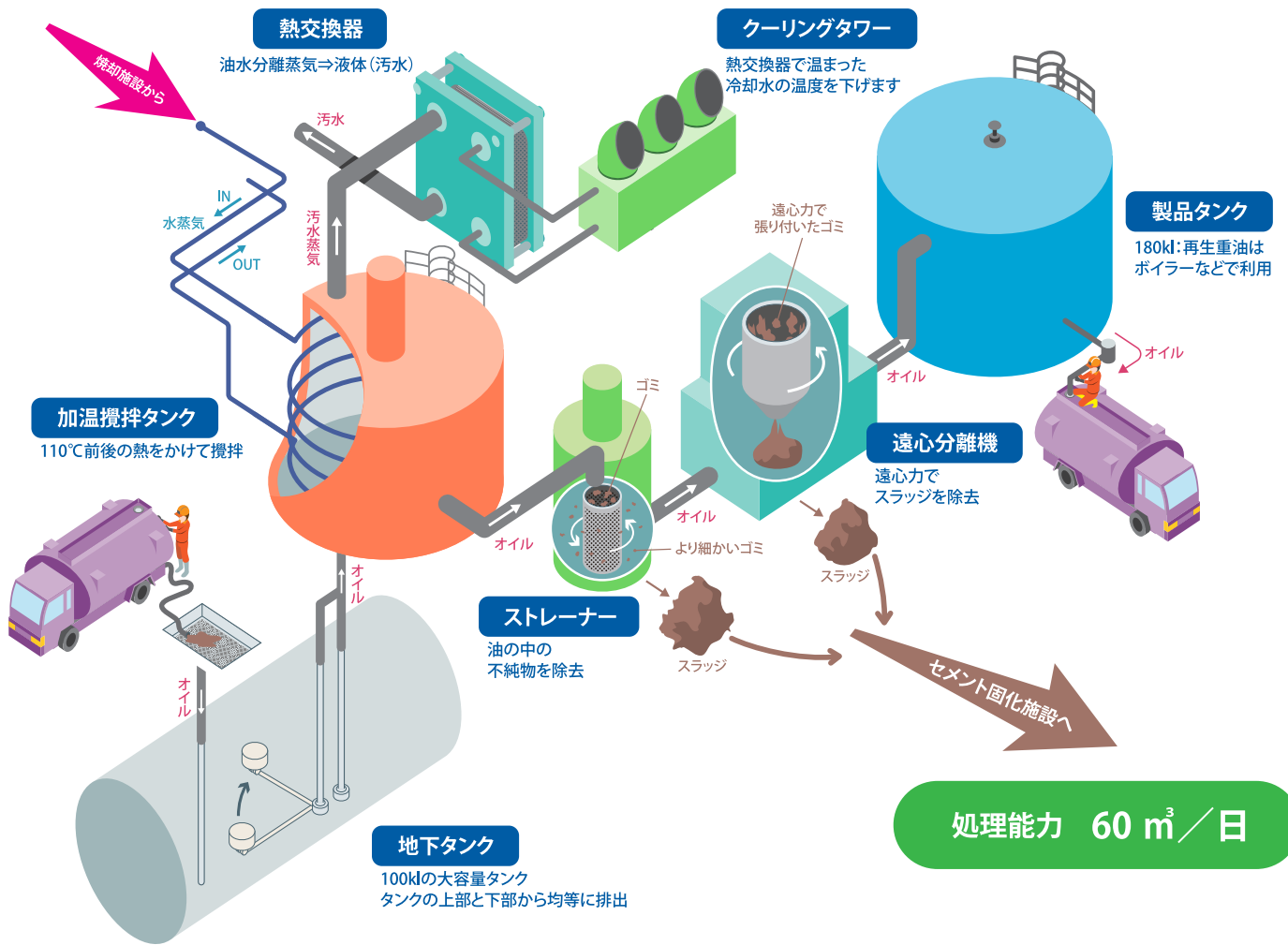
油水分離



- 地球温暖化対策推進法(温対法)では、再生重油は排出量報告時、「報告対象外」となり、CO₂排出実質ゼロとなる
- B重油の代替品
- A重油との比で4%、C重油との比で15%のCO₂削減効果
※環境省CO₂排出係数対比による
- JIS規格(水分1%以下・硫黄分1%以下)をクリアした高品質製品を製造
→当社規格:水分0.3%~0.5%以下・硫黄分0.5%以下



Reco Oil Fuel



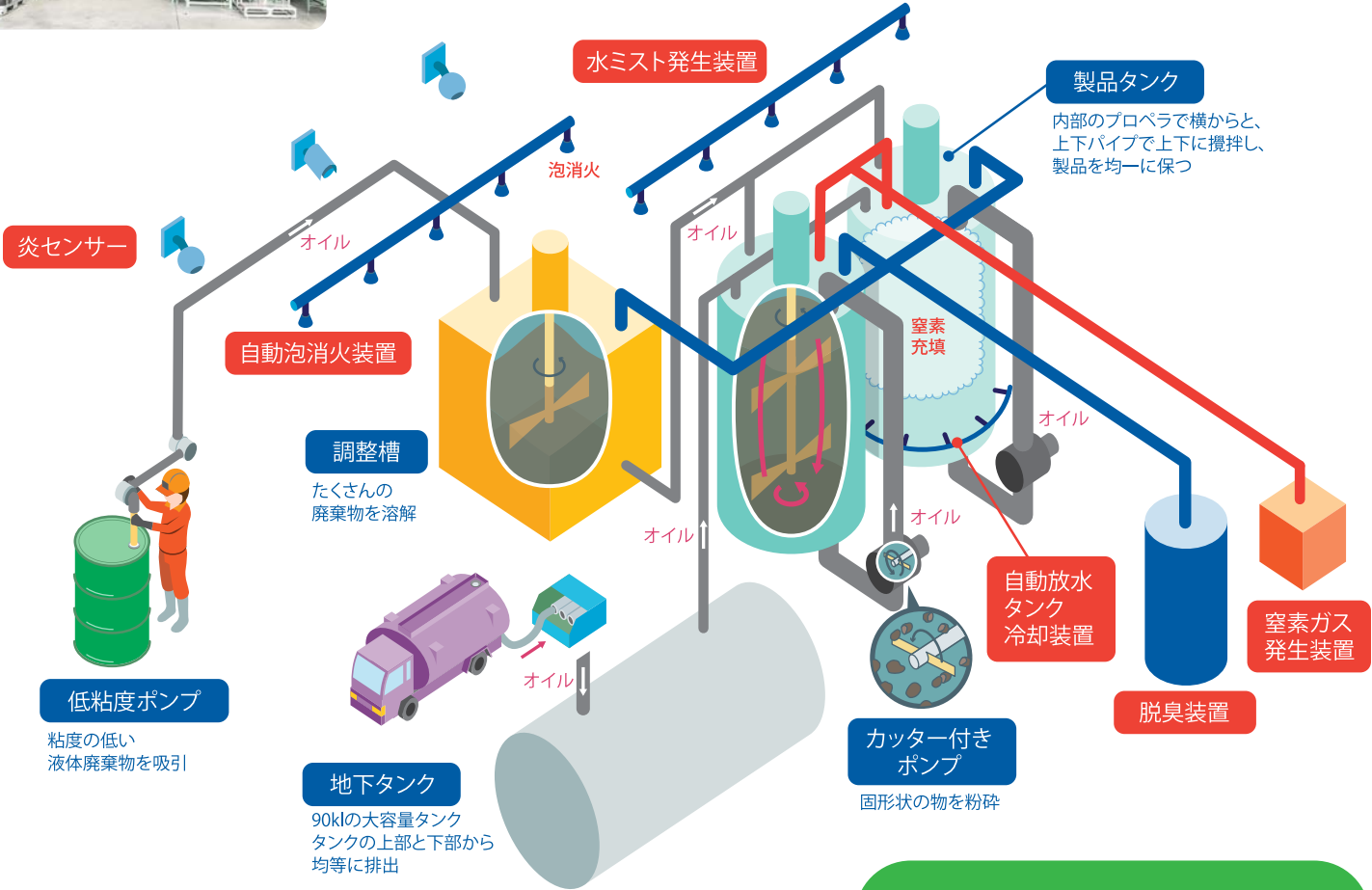
戦略的優先課題(廃棄物の適正処理)

混合



- 石炭の代替燃料として石炭使用時より21%のCO₂排出量削減
※環境省CO₂排出係数対比による
- 廃棄物処理施設では、類を見ない徹底した安全設備
- カロリーや性状などお客様の利用環境に合わせた製品にカスタマイズ可





水ミスト発生装置

製品タンク
内部のプロペラで横からと、上下パイプで上下に攪拌し、製品を均一に保つ

泡消火

調整槽
たくさんの廃棄物を溶解

低粘度ポンプ
粘度の低い液体廃棄物を吸引

地下タンク
90klの大容量タンク
タンクの上部和下部から均等に排出

カッター付きポンプ
固形状の物を粉碎

脱臭装置

室素ガス発生装置

自動放水タンク冷却装置

自動泡消火装置

炎センサー

オイル

室素充填

赤枠は安全装置の説明

処理能力 74 m³/日

サステナビリティ中期目標と実績(再資源化の推進)

最も関連するSDGsのターゲット	TOAシプルの具体的なコミットメント	TOAシプルのコミットメントの解説	活用する数値	2022年度	2023年度	2024年度	評価	ありたい姿
 3.9/6.3/12.4/12.5	マテリアルリサイクル	廃棄物再資源化率の向上	再資源化率	77%	80%	79%	×	100%
 3.9/6.3/7.3/12.4/12.5	サーマルリサイクル	①排熱利用蒸気により発電量の向上 ②ボイラーガス利用の削減	①発電量 ②ボイラーガス利用量	①248,485(kwh/年) ②21,693(Nm ³ /年)	①311,006(kwh/年) ②22,492(Nm ³ /年)	①429,757(kwh/年) ②20,604(Nm ³ /年)	×	①950,400(kwh/年) ②15,000(Nm ³ /年)
 7.3/13.1	省エネルギー(電気・ガス・燃料)	使用するエネルギーの削減削減率の向上	エネルギー使用量削減率	4,702(t-CO ₂ /年) 3%増加	4,597(t-CO ₂ /年) 0%	7,459(t-CO ₂ /年) 62%増加	×	25%減(3,424 t-CO ₂ /年)
 12.5	省資源(紙・プラ)	使用する紙・プラ製品の削減削減率の向上	使用量削減率	紙:削減量1.81(t/年) 削減率9.3% プラ:保留	紙:削減量1.65(t/年) 削減率17.3% プラ:保留	紙:削減量1.55(t/年) 削減率22.3% プラ:保留	○	紙の使用をゼロにする プラスチック利用の削減

2024年度の実績と今後の方針

マテリアルリサイクル

再資源化率向上のため、廃棄物の分別徹底に力を入れておりますが、これは排出事業者様のご理解ご協力をいただきながら進めております。廃棄物の適切な分別により返品件数の削減にもつながると共に、より多くの廃棄物を燃料や原料として再利用できるようリサイクルにおける技術革新を進めています。

今期は再資源化率は昨年度の80%より1ポイント減となりましたが、廃棄物処理量は増大しており、焼却量の増大が起因しています。

省エネルギー(電気・ガス・燃料)

- 当社はエネルギー使用の削減のため、以下の取り組みを推進しています。
- ・休憩時間の消灯、ブラインドを上げ太陽光の採光、残業時間削減による電力使用量の削減
 - ・自然エネルギーの活用
 - ・太陽光パネルを使用したEV車両の充電器の導入による、モバイル等の充電
 - ・クールビズ、ウォームビズ実施によるエアコン温度の調整や着衣の調整による電力使用量削減

これらの取り組みによりCO2排出量を、2020年実績から2030年までに25%削減することを目指します。

エネルギー使用量が今期7459t-CO2/年となりましたが、これは廃棄物の処理量の増大により、工場稼働率が向上したことで、昨今の産廃助燃の減少に伴い、仕入れ助燃が増えたことに起因しております。

省資源化(紙・プラ)

工場部門では省資源化に取り組むため、作業前安全チェックリストを紙からタブレットへ移行しました。また、社全体で、会議資料や報告書はPDF化しスライドで共有するよう意識しています。今後さらに、印刷ルールの見直しやワークフローのデジタル化を推進させ用紙の使用削減を推進してまいります。

プラスチックの削減に関しては、使用済クリアファイルの再利用や、リサイクルの徹底、マイボトルの推進等を実施しています。今後は、社内報や掲示物を活用し削減効果を社内でも共有することで、更なる削減を目指してまいります。

サーマルリサイクル

ボイラーガス利用の削減を目標にしておりますが、2024年度は、ボイラー周辺で工事が数回発生したため、ガスの利用量が増えています。今後、焼却炉定期修繕期間の短縮により、これまで以上の安定稼働を図るべく、耐火材を変えるなど実証実験を行っております。更なる技術革新を推進し、サーマルリサイクルに貢献してまいります。



マテリアルリサイクルの推進



フォークリフトのEV化



自然エネルギーの活用



再資源化の向上



ENEOS グループ 鹿島石油株式会社
常務取締役 鹿島製油所長

遠藤 文子様

Third Party

鹿島石油(株)はENEOS(株)の中核グループ会社として、同社との一体的運営による効率的な操業体制のもと、グループ内での基幹製油所としての役割を果たしています。鹿島製油所は、茨城県の鹿島灘に面した鹿島コンビナート内に位置し、ガソリン・灯油・軽油などの一般用・産業用燃料や石油化学製品を生産し日本国内外に出荷するとともに、ナフサやC重油などのコンビナート向け製品を安定的に供給しています。2008年には、合成繊維や合成樹脂の原料となるベンゼン・パラキシレンなどを生産する大型の芳香族製造装置の営業運転を開始し、また、様々なコンビナート各社との連携による競争力強化に取り組むなど、日本で有数の総合製油所として操業しています。

貴社とは、2013年タンクスラッジの回収を依頼したことから始まり、それ以降10年以上に渡り長いお付き合いのある大切なパートナーです。廃水処理から脱水汚泥の回収、原油タンクのスラッジの回収を定期的にご利用しています。事業活動の特性上、排出されるものは、油まじりの廃棄物がメインとなる中で、貴社は立地もよく、いつも安心して廃棄物の処理をお任せできています。日々の業務の中で感じるのは、貴社が一貫して誠実かつ丁寧に現場と向き合い、法令遵守や安全管理はもちろん、環境への配慮や改善意識を常に持たれているという点です。こうした姿勢は、私たちにも良い影響を与えており、パートナーとして信頼を深める大きな要因となっています。また、現場の声にも真摯に耳を傾けてくださり、共により良い業務体制を築こうとされる姿勢には、感銘を受けています。以前には、廃棄物の適正処理のため、現場向けに講演を行ってくださったこともありました。サステナビリティという言葉が社会に浸透する以前から、貴社はその本質を実直に体现されてきたように思います。

今後は、業界をリードする存在として、さらなる環境価値の創出や地域社会との共生にも期待しております。私たちも、現場の一員として引き続き力を尽くしてまいります。



生産本部 本部長

坪川 康憲

Xible's Voice

昨今のカーボンニュートラルの需要を受けて、燃料業界もサステナブルな原料への移行に舵を切っている中、当社の再資源化事業はまさに時流に適した活動であると自負しています。しかしそれと同時に、国内製造業の衰退に伴う廃棄物処理市場の縮小も懸念されております。当社としては、製造する再生燃料の新たな価値を見出すべく、技術力の向上と、新設備の導入改善により、受入品目や受け入れ量の拡大を目指したいと考えています。2024年度において、当社での廃棄物処理量は49,908tと、過去3年間で最大の数値となりました。それに関しては、処理能力を最大限に発揮できるよう稼働率の向上に力を入れ、作業の効率化や保守体制の見直しを進めてきた成果だと考えています。今後は、廃棄物の中に含まれる再資源化可能な素材をより高精度に分別・回収するための新たな技術の導入にもチャレンジしています。廃棄物は1つ1つ個性があります。これら個性を活かした再生燃料の開発ができるよう、現在、近隣の大学や団体と連携し研究を進めております。

私たちの事業は、"廃棄物の処理"ではなく、"ものづくり"事業です。SDGsの目標12「つくる責任 つかう責任」や目標13「気候変動に具体的な対策を」のゴール達成に向けて、廃棄物を可能な限り再資源化する、その一歩一歩が、資源循環型社会の実現につながっていくと信じています。工場の現場から、これからも持続可能な未来づくりに貢献していきます。

戦略的優先課題(環境汚染のコントロール・脱炭素社会の創造)

地球環境をクリーンに

最も関連するSDGsのターゲット	TOAシブルの具体的なコミットメント	TOAシブルのコミットメントの解説	活用する数値	2022年度	2023年度	2024年度	評価	ありたい姿
3 6 12 3.9/6.3/(6.4)/(6.6) 12.4/(14.3)/(15.2)	大気水質などの影響管理	環境汚染の撲滅	自社基準の運用による 法令基準の遵守 (80%を基準として モニタリング)	自社基準値 クリア	自社基準値 クリア	自社基準値 クリア	○	継続
3 12 13 3.9/12.4/13.1 (14.3)/(15.2)	エコドライブの推進	社用車 (営業・業務)のCO ₂ 削減	n/a	EV1台 PHEV2台導入	EV1台 PHEV3台導入 低公害車1台導入	EV0台 PHEV0台導入	×	営業車→ガソリンエンジン車両0台 運輸車→低公害車:100%
7 7.2	再エネ100宣言に挑戦	再エネ使用	再エネ使用	0%	100% (内自社での 太陽光発電8%)	100% (内自社での 太陽光発電8%)	○	再エネ電力利用:100%
3 12 13 3.9/12.4 13.1/(14.3)/(15.2)	SCOPE1における二酸化炭素削減に寄与する取り組み推進	CO ₂ 排出量	CO ₂ 排出量	12,377 (t-CO ₂ /年)	10,275 (t-CO ₂ /年)	13,459 (t-CO ₂ /年)	×	焼却による 自社排出CO ₂ :42%削減
3 12 13 3.9/12.4 13.1/(14.3)/(15.2)	SCOPE2における二酸化炭素削減に寄与する取り組み推進	CO ₂ 排出量	CO ₂ 排出量	1,190 (t-CO ₂ /年)	0t-CO ₂ /年 (ロケーション基準 684t-CO ₂ /年)	0t-CO ₂ /年 (ロケーション基準 1,003t-CO ₂ /年)	○	電力使用による 自社排出CO ₂ :42%削減
3 12 13 3.9/12.4 13.1/(14.3)/(15.2)	リサイクル燃料の供給に寄与	CO ₂ 削減量 (BWF・ROF・MOFを 石炭・石油代替燃料 としてカウント)	CO ₂ 排出量	104,037 (t-CO ₂ /年)	113,650 (t-CO ₂ /年)	117,797 (t-CO ₂ /年)	○	2025年度 226,701 (t-CO ₂) 削減

2024年度の実績と今後の方針 環境汚染のコントロール

当社では事業活動を行う際に発生する大気や排水における水質など、定期的に監視、測定を行いコントロールしています。また法令基準の80%で自社基準を設け、より厳しく監視し基準を超えないように管理しています。大気水質の分析結果については、工場課・事業開発課にてダブルチェックを行い、徹底した管理体制を整えています。今期においても自社基準を満たしており、周辺環境の影響を与えずに事業活動を行っております。今後も継続的に自社基準を満たせるよう監視・測定を行い、周辺環境を守っていきます。



大気水質の管理

(例) 焼却炉:2ヵ月毎測定(年6回)

項目	実施頻度	数値	自社基準値	排出基準値
ばいじん(g/m ³ N)	年2回	0.003未満	0.20	0.25
硫黄酸化物排出量(m ³ N/h)	年2回	0.03	0.06	0.08
窒素酸化物(ppm)	年2回	24	200	250
酸化水素(mg/m ³ N)	年2回	27	560	700
CO(%)	年2回	30未満	—	—
ダイオキシン類(ng-TEQ/m ³ N)	年1回	0.0018	2.4	3.0
水銀(μg/m ³)	年2回	0.03未満	40	50

※各測定項目の数値は分析測定会社に測定してもらった結果を開示しています。
※数値は直近に計測したものです。尚、測定機会2回とも基準値に対して「適合」を得ています。
※焼却炉のスペックによって、基準値が異なりますが既存の焼却炉、新規焼却炉ともに「適合」を得ています。
※水銀については、4ヵ月毎測定(年3回)しており、いずれも「適合」を得ています。

脱炭素社会の創造

当社の事業活動でリサイクル燃料の供給により、CO₂排出量の削減に寄与しています。ROFではA重油と比較した場合に4%、C重油と比較した場合15%のCO₂排出削減となります。BWF、MOFを石炭の代替燃料として使用することで、BWFでは石炭使用時よりも18%、MOFでは21%のCO₂排出量を削減できます。また焼却炉では化石燃料由来の焼却燃料を使用しないため、CO₂の排出削減に寄与しています。2024年の実績としては、再生重油、BWF、エマルジョン燃料を石炭・石油代替燃料としてカウントした場合、117,797tのCO₂削減することが出来ました。今後も出荷数量を増やすことでCO₂排出削減に貢献し、脱炭素社会を目指します。

※環境省CO₂排出係数対比による



再生燃料の供給

CO₂年間削減量 ※2020年度固有价值との差で算出

エリア	処理工程	算定対象範囲	単位	2020年度	2023年度	2024年度	2020年度固有价值 (t-CO ₂ /1000t)	2023年度固有价值 (t-CO ₂ /1000t)	2024年度固有价值 (t-CO ₂ /1000t)	年間削減量 (t-CO ₂)
千葉工場	油水分離	電力使用量	(Mwh)	957	0	0	37	5	2	35
			(t-CO ₂)	483	0	0				
		天然ガス使用料	(m ³)	26,381	32,474	16,479				
			(t-CO ₂)	59	64	32				
		処理量	(t)	14,651	13,506	13,100				
	混合	電力使用	(Mwh)	0	0	0	0	0	0	0
			(t-CO ₂)	0	0	0				
		処理量	(t)	0	5,303	7172				
	セメント固化	電力使用量	(Mwh)	311	0	0	19	9	10	9
			(t-CO ₂)	157	0	0				
		軽油使用量	(KL)	63	70	75				
			(t-CO ₂)	162	184	196				
		処理量	(t)	16,641	20,023	19,371				
	焼却 (非エネルギー 起源除く)	電力使用量	(Mwh)	319	0	0	273	327	539	(266)
			(t-CO ₂)	161	0	0				
		仕入燃料使用量	(t)	1,081	1,126	2,097				
			(t-CO ₂)	2,843	2,974	5,535				
		処理量	(t)	10,996	9,101	10,266				
	廃油の焼却 (非エネルギー 起源含む)	エネルギー起源					273	327	539	
		非エネルギー起源CO2	2.93	1	1	1	2,920	2,930	2,930	
		非エネルギー起源CH4	0.0000040	25	28	28	0.014	0.112	0.112	
		非エネルギー起源N2O	0.000062	298	265	265	2,920	16,430	16,430	
		合計					3196.1	3,273.3	3,485.8	
	廃プラスチック の焼却 (非エネルギー 起源含む)	エネルギー起源					273	327	539	
		非エネルギー起源CO2	2.56	1	1	1	2,550	2,560	2,560	
		非エネルギー起源CH4	0.0000080	25	28	28	0.000	0.224	0.224	
		非エネルギー起源N2O	0.000015	298	265	265	50,660	3,975	3,975	
		合計					2873.8	2,890.9	3103.4	
	破碎	処理量	(t)	0		0	0	0	0	0
			(t-CO ₂)	0		0				
広域	収集運搬	軽油使用量	(KL)	240	223	211	0.18	0.18	0.17	0
			(t-CO ₂)	620	585	552				
		処理量	(km)	1,314,678	1,248,524	1,206,076				

エネルギー消費量(燃料)

対象	開示事項		単位	2022年度	2023年度	2024年度
株式会社TOAシブル	非再生可能エネルギー源に由来する総燃料消費量	ガソリン	ℓ	24,063	21,550	19,851
		軽油	ℓ	299,211	293,476	285,342
		都市ガス	m ³	15,360	32,474	16,479
	エネルギー原単位(廃棄物処理1tあたりのエネルギー使用量)	ガソリン	ℓ/t	0.50	0.45	0.40
		軽油	ℓ/t	6.25	6.12	5.72
		都市ガス	m ³ /t	0.32	0.68	0.33
	エネルギー総消費量(発熱量ベース)		GJ	12,801	13,264	12,182

エネルギー消費量(電気)

対象	開示事項		報告対象期間 単位	2022年度	2023年度	2024年度
株式会社TOAシブル	電気消費量		kwh	1,936,261	1,738,023	1,602,457
	発電量	太陽光発電	kwh	23,075	148,434	139,309
	エネルギー原単位(廃棄物処理1tあたりの電力使用量)		kwh/t	40.47	36.26	32.11

GHG排出量

対象	報告対象期間/開示事項	単位	2022年度	2023年度	2024年度
株式会社TOAシブル	GHG Scope1総量(①+②)+GHG Scope2(マーケット基準)総量	t-CO ₂	13,396	10,275	14,469
	GHG Scope1総量(①+②)+GHG Scope2(ロケーション基準)総量	t-CO ₂	13,216	11,030	14,168
	①購入した燃料の燃焼に伴うGHG排出量	t-CO ₂	3,683	3,855	6,367
	②非エネルギー起源GHG排出量	t-CO ₂	8,694	6,420	7,099
	GHG Scope2総量		マーケット基準		
		t-CO ₂	1,019	0	0
			ロケーション基準		
		t-CO ₂	838	754	702
	CO ₂ 原単位排出量(廃棄物処理量1tあたりの二酸化炭素排出量) GHG Scope2(マーケット基準)	t-CO ₂ /t	0.021	0	0
	CO ₂ 原単位排出量(廃棄物処理量1tあたりの二酸化炭素排出量) GHG Scope2(ロケーション基準)	t-CO ₂ /t	0.018	0.016	0.014

※算定範囲は株式会社TOAシブルの全事業拠点としています。

※GJ=ギガジュール

※ジュールの換算出典:環境省「算定・報告・公表制度における算定方法・排出係数一覧」

※排出係数の出典:環境省「算定・報告・公表制度における算定方法・排出係数一覧」

※原単位排出量(処理量あたりの排出量及び売上あたりの排出量)はすべて株式会社TOAシブル全体の数値となっています。

戦略的優先課題 水資源の管理(守る・保守・保全)・生物多様性への貢献

最も関連するSDGsのターゲット	TOAシプルの具体的なコミットメント	TOAシプルのコミットメントの解説	活用する数値	2022年度	2023年度	2024年度	評価	ありたい姿
 15.1	水資源の保全	水資源の有効利用	使用量	33.753m ³	25.686m ³	20.857m ³	○	使用量削減
	生態系の保全	保全活動	実施件数	—	計画中	1件	○	2030年までに自然共生サイト登録

2024年度の実績と今後の方針

水資源の管理(守る・保守・保全)・生物多様性への貢献

当社は、事業活動における水使用の効率化と、水質保全を重要な環境課題のひとつとして捉えています。廃棄物処理・リサイクル事業においては、洗浄工程や排水処理などで水を使用する機会が多く、水資源の適正な管理が不可欠です。

工業団地内企業との連携による水源モニタリング

同じ工業団地に立地する企業と連携し、周辺の水源に対する定期的なチェックや情報共有を行っています。これにより、地域全体としての水環境保全に取り組むと同時に、リスクの早期発見・対応に努めています。



今後の取り組みとして、敷地内に雨水貯留槽を設け、緑地の散水や清掃用途に活用したいと考えます。こうした取り組みは、都市型洪水の抑制にも寄与しています。

排水の適正処理と再利用

各処理施設において、排水基準を遵守するのはもちろんのこと、可能な限り再利用・循環利用を行う体制を整えています。一部の施設では、洗浄水の再利用システムを導入し、年間で大幅な節水効果を実現しています。

モニタリング体制の強化

定期的な水質検査に加え、リアルタイムでの水質モニタリングを行う設備を導入し、異常の早期発見と迅速な対応を可能にしています。これにより、地域環境への影響を最小限にとどめています。

データ元	単位	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	合計
2022年水消費量	m ³	2,749	3,018	3,288	3,426	3,097	2,779	2,953	2,433	2,168	2,122	2,969	2,751	33,753
2023年水消費量	m ³	2,351	2,648	3,010	2,058	2,861	2,611	2,222	2,596	1,017	457	1,772	2,083	25,686
2024年水消費量	m ³	2,489	1,799	2,283	2,716	2,115	1,419	1,817	1,501	1,036	1,146	1,137	1,399	20,857

生物多様性への貢献 ～自然と共に生きる未来へ～

当社は、生物多様性の保全と再生に向けた取り組みを始めています。廃棄物処理業という事業の特性上、自然環境と密接に関わる私たちだからこそ、生きものがすこやかに暮らせる環境づくりに貢献していく責任があると考えています。現在は、社内外の関係者と協働しながら、以下のような取り組みを進めています。

- 敷地内や施設周辺での緑化活動
- ミツバチとの共生を目指す養蜂プロジェクト
- 生きもののすみかとなるビオトープの設置と維持管理
- 地元の市民団体と連携した天然資源(森・水辺など)の保全活動



これらの活動は、いずれも地域に根ざした小さな一歩ではありますが、社員一人ひとりが自然とのつながりを実感し、行動するきっかけになっています。私たちは2024年、ネイチャーポジティブ宣言をし、生物多様性の損失をくい止め、回復軌道に乗せることを目指す国際的な動きに賛同する姿勢を明確にしました。今後は、当社の敷地が「自然共生サイト」として認定されることも目標の一つとし、より本格的なモニタリングや地域との協働を強化してまいります。生物多様性への取り組みは、すぐに結果が出るものではありませんが、「いのちのつながり」を大切に、次の世代に豊かな自然を引き継ぐために、できることから着実に行動していきます。

印旛沼交流会

印旛沼は当社所在地の八千代市を含む、千葉県北部の大事な水源です。印旛沼交流会は、里山保全や水辺のゴミ拾い、研究調査など、印旛沼の水循環健全化に寄与するさまざまな活動を行う団体が集まり、当社も初めて参加いたしました。水質をより良くし、本来の印旛沼の状態に戻すため、さまざまな活動が行われています。当社のこの活動に賛同し、今後はもともと生息していた水草を育て、守る活動に参画していく予定です。



八千代市ほたるの里づくり実行委員会に参画

八千代市ほたるの里づくり実行委員会では、生物多様性の保全をし、本来八千代市に生息していたほたるが住む場所の整備活動や親子向けのイベントを実施しています。環境のバロメーターであるほたるの生息する「ほたるの里づくり」を市民と行政、そして企業が一緒になって行っています。当社もともに生物多様性の保全を目指してまいります。





八千代市ほたるの里づくり実行委員会
代表

金室 彰 様

登録いただき、「ほたるの里」の環境整備活動にも参加していただいています。その姿勢は私たちにとっても、非常に心強く、今後も大きな期待を寄せております。また、環境教育の分野では「SDGsカードゲーム」や環境教育イベントの開催など、次世代に向けたESD（持続可能な開発のための教育）の実践例として評価できることと思っております。最後に、今後の貴社への期待として、貴社が掲げる5つの優先課題の一つである「限りある資源を大切にする」の取り組みの中で「マテリアルリサイクルの加速化を推進する会社の実現」に注目していますが、今後は事業分野の更なる拡張を検討いただき、人と自然の共生に不可欠な里山の保全や農林業の継続に繋がるような廃棄物のマテリアルリサイクルに加え、省エネ、創エネ、さらには省資源に関する取り組みに挑戦していただければと思っております。もし、それが実現されれば、生活環境の保護と、私たちの生活に直接影響を及ぼす産業分野の維持に繋がるのではないかと感じています。

私たちが「ほたるの里」の活動を通じて学んだことは、ホタルや多様な生物が育つには、単に「里」があるだけではなく、その周囲の森林、河川、農地、そして何より“人の手”による継続的な支えがあってこそ、環境が維持されるということです。貴社の事業は、まさにその“人の手”であり「ほたるの里」と「シブルの丘」二つのフィールドを起点に、緑ゆたかな八千代市の自然を次世代に引き継ぎながら、共に歩んでいけるよう、心より願っております。



生産本部 生産部 工場一課
兼 事業開発室 主任

櫻井 拓矢

Third Party

八千代市「ほたるの里」は、米本浅間神社の麓に広がる約3,300㎡の敷地に位置し、周囲の樹木・田などに育まれた多様な動植物や自然を身近に体験できるフィールドです。市の所有地として1997年度に整備され、翌1998年には、私たち「ほたるの里づくり実行委員会」が発足し、緑豊かな八千代市の自然を次世代に引き継ぐため、生物多様性の維持や自然の保護活動、普及啓発の推進を目的に、ホタルの鑑賞会や生き物観察会など、自然とふれあう多様なプログラムを行ってきました。こうした活動の中で、貴社との出会いは昨年度に遡ります。貴社が「自然と共に生きる未来を創造する」という基本方針を掲げ「地球環境をクリーンに」「地域社会との共存共栄」といった優先課題から「水資源の管理」や「生物多様性への貢献」といった環境課題への対応をテーマとされる中、私たち「ほたるの里」の取り組みに関心を寄せていただいたことがきっかけでありました。

さて、私たちが貴社のレポートで特に評価させていただいている点があります。それは、貴社が2023年度（第50期）より本格化させた「生態系の保全」や「水資源の管理」です。これは「ほたるの里」における私たちの活動目的と大変共通しております。更に貴社は、2025年度より「ほたるの里」の「ホタルメイト」としてご

Xible's Voice

私は現在、工場にて廃棄物の再生処理に関わる業務に従事しています。日々の業務では、産業から排出される廃棄物を新たなエネルギー源として再生し、社会に還元するリサイクル工程に責任を持って取り組んでいます。ものづくりの現場にしながら資源の循環と環境負荷の低減を実感できるこの仕事に、大きな誇りを感じています。また、事業開発推進室の一員としては、再生燃料の開発にも挑戦しています。廃棄物から得られる可能性を科学的に見つめ直し、新たな資源価値を創出することが私たちのミッションです。これは単なる技術革新にとどまらず、「地球と調和するエネルギー社会」の実現に向けた第一歩であると考えています。さらに、サステナビリティ推進委員として地域とのつながりにも力を入れています。敷地内での養蜂プロジェクトや、子どもたちへの環境体験の提供といった活動を通じて、生態系の大切さや自然との共生の意識を広げる取り組みに参加しています。私自身、幼少期から自然が大好きで、こうした活動が社員一人ひとりの環境意識の向上にもつながり、会社全体としてのサステナビリティ推進力になっていると感じています。私たちの仕事は、単に“廃棄物を処理する”ことではなく、“未来に資源を引き継ぐこと”です。これからも地球環境と真摯に向き合い、地域とともに、よりよい社会を次世代へつなぐ一助になれるよう、尽力したいと考えています。

戦略的優先課題 共に生きるプロジェクト・社会貢献活動の推進

地域社会との共存共栄

最も関連するSDGsのターゲット	TOAシブルの具体的なコミットメント	TOAシブルのコミットメントの解説	活用する数値	2022年度	2023年度	2024年度	評価	ありたい姿
 11.5		避難訓練の実施	避難訓練実施回数	年4回	年5回	年3回	△	維持継続
 3.3/3.8/17.16		エコキャップ活動によるポリオワクチン活動	ポリオワクチン提供人数	112人	218.5人	189人	○	200人
 14.1		近隣美化活動	参加人数	83人	103人	109人	○	維持継続
 3.4	CSRの推進	献血活動	参加人数	89人	124人 ※近隣企業含	121人 ※近隣企業含	○	維持継続
 4.7/12.8		SDGs普及活動	実施件数	社外向け3件 社内向け1件	社外向け9件 社内向け2件	社外向け15件 社内向け3件	○	10件
 17.16		スポーツ振興支援の実施 支援に関わった団体 スポーツ振興	N/A スポーツ振興支援の実施 支援に関わった団体	協賛企画	ユース支援 開始	学校訪問 パートナー	—	さらなる連携支援
 17.16		寄付による 社会課題の解決	N/A 寄付活動の実施	継続	継続	継続	—	継続



定期防災訓練

定期的な避難訓練と自主訓練を実施しています。安全第一企業を目指し、避難訓練ではさまざまな想定で実施、自主訓練では担架やAEDの使用方法など、災害や救急に備えられるような訓練を全社員が実施しています。また、消防隊員をお招きし、より厳しい訓練や緊急対応方法を学んでいます。今後も地域に安全安心を届けられる企業であり続けられるよう努めてまいります。



献血活動

年に2回、当社敷地内に献血バスをお呼びし、献血活動を実施しています。近年では近隣企業様にもご賛同いただき、ご協力をいただいたり、八千代市の一般の方への呼びかけ（八千代市公式LINEによる告知）を開始したりと、献血の輪が広がっています。人工で作ることができない血液をボランティアの輪で繋ぐことにより、今後はより若い世代にも重要性を知っていただく活動にも注力してまいります。



千葉ジェッツパートナー契約

プロバスケットボールチーム「千葉ジェッツ」とオフィシャルパートナー契約を結んでいます。近年では、ユース支援や学校訪問パートナーなど、地域密着、そして未来を担う子供たちへの支援を実施しました。今後もスポーツ振興や更なる連携による活動を広げてまいります。



寄付型自販機の導入

2022年度に当社内の自動販売機をすべて寄付型自販機に切替えました。国土緑化氣候（緑の募金）や日本赤十字に寄付をされる自動販売機などを導入しました。中でも「子ども食堂応援自販機」は、千葉県で設置企業第一号となり、新たな形の地域貢献活動のスタートとなりました。



エコキャップ活動

昨年に引き続き、エコキャップ活動を推進しております。エコキャップ活動とは、ペットボトルキャップを回収し、リサイクル資源として活用することで、限りある資源の有効利用やCO₂削減につなげる取り組みです。さらに、キャップの売却益をワクチン提供や福祉活動などに役立てる仕組みも広がっており、環境保全と社会貢献を同時に実現できる活動です。当社では、定期的なエコキャップ回収デーを設け、社外の方々にもご協力いただき、今期はポリオワクチン189人分のエコキャップを集めることができました。



定期近隣美化活動

全社員で2カ月に1回の近隣清掃を実施しています。今期より、本社棟から少し離れた場所にある車両基地周辺の清掃活動もはじめました。地域をきれいに保つだけでなく、未来世代へより良い環境を引き継ぐ意識を育み、持続可能なまちづくりに貢献しています。



こども110番

地域の子どもたちの安心・安全を守るため「こども110番の家」として登録しています。社内各部署に対応マニュアルを設置。子どもたちが困ったときに駆け込める場所として、地域の皆さまの見守りに貢献してまいります。



高齢者見守りネットワーク登録

市の高齢者見守りネットワークに登録し、地域の高齢者の皆さまが安心して暮らせるよう見守り活動に協力しています。異変を感じた際には関係機関へ連絡し、早期対応につなげます。

SDGs普及活動の推進

当社は近隣小学校での環境授業に加え、一般の方々向けにもセミナーを開催し、子どもから大人まで幅広い世代がESD教育を受けられる機会を提供しています。未来の地球を守るための知識や視点を共有し、地域全体で環境保全への意識を高めることが私たちの使命です。企業として、次世代と現世代をつなぐ架け橋となり、持続可能な社会づくりに貢献してまいります。



環境授業

近隣小学校向けに環境授業を実施しました。リサイクルについて学習を始める小学4年生向けにゲームを交えたゴミの分別の授業を実施しました。さらに、SDGsについて学ぶ小学6年生向けに当社の取り組みを紹介しながら「私たちにできるSDGs、地域でやっているSDGs」に参加いたしました。今後もESDの推進に取り組んでまいります。



SDGs授業の実施

企業はSDGsゴール達成のためにどんな取り組みをしているのか、事例をあげながら授業を展開しました。世界で起きている様々な問題を自分事として捉えることができるよう、身近にできる活動と一緒に考えることができました。



中学校教諭講演会登壇

市内中学校社会科部会にて、先生方向けSDGs講演会を実施しました。子どもたちに基礎学習を教えつつ、SDGsを軸とした主体的な行動を促すよう、教員がどうこどもと関わるができるか、全国の様々な学校の事例を交え、ワークショップを実施しました。



千葉ジェッツ学校訪問パートナー契約

オフィシャルパートナー契約を結んでいるプロバスケットボールチーム「千葉ジェッツ」と学校訪問パートナーを新たに契約しました。八千代市内の小学校に千葉ジェッツのアカデミーコーチを派遣し、バスケットボール教室を通しスポーツに触れ、「するスポーツ」の推進を図ることを目的としています。今回、新たな地域連携・社会貢献の一環として八千代市内の小学校6校に当社の名が入ったビブスとバスケットボールを寄贈しました。



ヤチヨシンポジウム登壇

当社所在地である八千代市が主催の「2050ゼロカーボン・ヤチヨ・シンポジウム」に登壇し、当社の脱炭素に対する取り組み事例を発表しました。八千代市は、脱炭素社会への取組を通じて地球温暖化に向き合う姿勢を示すためゼロカーボンシティを宣言しています。2050年に向け市民や行政、企業が一体となり、ゼロカーボンシティを目指すために何をするべきか、当社や他社の事例をふまえてディスカッションしました。今後も地域と連携をし脱炭素社会の推進を目指してまいります。



SDGs一般向けセミナー

当社では初の試みとなる一般向け環境学習セミナーを実施いたしました。参加者の皆さまがSDGsの世界観を体感できるSDGsカードゲームを通じ、SDGsのゴール達成という壮大なビジョンをどのように実現するのかということをカードゲームを通じて学びました。今後もあらゆる形でのSDGs普及活動を実施してまいります。



教育委員会との連携

八千代市の教育委員会にて、3年目の小中学校先生方の研修の一環としてSDGsカードゲームを実施いたしました。今回、先生向けの研修は当社としては初の試みで、SDGsの体感とESDについて考える研修会となりました。今回の研修を機に小中学校にて当社の取り組み紹介や、講演会依頼など、SDGsの普及活動において新たな展開にもつながりました。今後も連携を取りながら更なるSDGsの普及を目指してまいります。



早稲田大学政治経済学術院 教授

下川 哲様

Third Party

貴社が掲げる重点テーマである「限りある資源を大切に」と「地球環境をクリーンに」に基づいた再資源化と脱炭素の取り組みは、近年注目されているサーキュラーエコノミー（CE）構築に大きく貢献するものとして高く評価できます。CE構築は、鉱物やエネルギー資源が乏しい日本にとって、最も重要な社会課題の一つです。しかし、日本でのCE構築に向けた動きは、建設業や製造業といった動脈産業に比べ、廃棄物処理業などの静脈産業では遅れており、CE構築に向けたボトルネックとなっています。これは、静脈産業の多くが中小企業であり、産業構造に起因する課題が多いためです。

その中で、貴社は再生燃料を中心とした技術力と組織力によって、様々な動脈企業との連携（動静連携）を実現している点は称賛に値します。また、もう1つの重点テーマである「地域社会との共存共栄」に基づく地域密着型の取り組みは、地域の視点からだけでなく国際的な視点からも一段と重要になると考えられます。というのも、フランスなど海外の静脈産業では、全体を垂直統合して経営効率を高めた巨大企業が登場しており、そのような海外企業の日本への参入が今後予想されるためです。このような競合において、貴社にとっての大きな強みとなるのが「地元とのつながり」です。特に、小学校での環境教育や地元チームへの支援といった未来世代の育成や地域活性化に資する取り組みは、高く評価されるべきです。

最後に、国内静脈産業におけるCE構築をさらに促進するためには、地域ごとにバラツキのある技術やプロセスを体系化・効率化し、産業全体の競争力を強化する変革が求められます。そのためには、個社の企業力強化だけでなく、地域を超えた静脈企業間の情報連携と、それを可能にするDX推進が必要です。先進的な取り組みを進めている貴社には、そのような連携のハブとなり、産業全体の変革を牽引していくことを期待しています。



サステナビリティ推進室 課長

青砥 望

Xible's Voice

日々の仕事を通して感じるのは、私たちの事業は地域に根差してこそ成り立つということです。廃棄物処理という仕事は、地域の安心・安全を守る大切な役割を担っている一方で、誤解や不安の声が寄せられることもあります。だからこそ、誠実な対応と丁寧な説明、そして「顔の見える関係」を築くことを大切にしています。清掃活動や近隣企業様とコラボした献血活動、環境保全活動への積極的参加などを通じて、地域の皆さまとの信頼関係が育ってきたと感じています。

私が所属するサステナビリティ推進室は、ESD教育の推進に注力してまいりました。特に、未来世代である子どもたちとの関わりは、私たちに多くの気づきと希望を与えてくれました。リサイクル授業やSDGs授業に真剣に取り組む子ども達の後姿をみると、「持続可能な未来」に希望を持つことができますし、私たちの活動が間違っていないと感じることができました。CSR活動等様々な取り組みは、決して一人の力では成し得ないものです。社員の皆さんがそれぞれの立場で協力してくださるからこそ、地域社会との共存共栄という私たちの理念が実を結びつつあります。その積み重ねに、心から感謝しています。次の100年を見据えて――地域とともに歩む企業として、これからも未来へとつながる活動を皆さんと一緒に進めていけたら嬉しいです。

豊かな未来を創る組織の実現

安全衛生方針

当社は、安全衛生活動を企業の絶対的責任と捉え、労働災害・事故の防止を企業の存続と発展にとっての最重要課題とする。安全で健康な職場形成に努め、全ての従業員および地域社会の安全と健康を最優先するとともに安全衛生管理を徹底し、「安全第一企業」を目指すことで業界の魅力向上に貢献する。

私たちは、以下の項目を重点テーマとして安全衛生活動を行います。

- 1.安全衛生に係る関係法令及び自主基準を遵守し、従業員の安全と健康を確保します。
- 2.労働災害ゼロを目指し、全従業員参加による安全衛生活動を実施し、より快適な職場作りを推進します。
- 3.従業員の健康障がいやメンタルヘルスによる健康被害を防止するため、衛生管理体制の充実を図り、健康意識の向上を目指します。
- 4.従業員とのコミュニケーションを図り、社員教育及び社内広報活動を通じて、安全衛生意識の高揚に努めます。

この安全衛生方針は全従業員に周知するとともに、外部からの要求に応じて公表いたします。

最も関連するSDGsのターゲット	TOAシプルの具体的なコミットメント	TOAシプルのコミットメントの解説	活用する数値	2022年度	2023年度	2024年度	評価	ありたい姿
 3.4	健康経営	生活習慣病低下	生活習慣病発生件数	0件	0件	0件	○	取り組みの強化
		メンタルヘルス不調休務者数	メンタルヘルス不調休務者数	0人	0人	1人	×	0件を維持
 3.4	労働安全衛生	事故怪我の件数低減	度数率・強度率	0件	0件	0件	○	0件を維持
 5.1/8.5/8.6/10.3	ダイバーシティ推進	女性管理職の増員 (課長以上※役員除く)	管理職における女性の割合	0%	0%	14%	○	5%
		女性社員の増員	女性社員の割合	・ 営業本部全体 21名(全社員119人中) ・ 女性5名 23.8% ・ 業務本部2% 環境作りは 2023年度から開始 ・ 経営管理本部 33.3%	・ 営業本部全体 28名 ・ 女性9名 32.1% ・ 業務本部2% 環境作りは 継続的に実施 ・ 経営管理本部 50.0%	18%	○	25%

ワークライフバランス

より柔軟な勤務制度の導入を通じて、社員が健康を維持し、働きがいを持てる職場環境を整備することを目的とし、以下制度の運用を開始しております。



子の看護等・介護休暇制度

当社では、法律で無給とされている「子の看護休暇」「介護休暇」を有給で取得できる制度を設けています。社員とその大切な家族の時間を守り、安心して看病や介護に向き合えるよう、心の通った福利厚生を整えています。



65歳定年延長

働く意欲がある社員に対して就業機会を提供できるよう、これまで60歳であった定年を65歳まで延長しました。延長により不利益が発生しないよう対応を行っています。



フレックスタイム制の導入

家族の看護等で、定型での終業時間では不都合がある社員を対象に、フレックスタイム制を導入しています。



リモートワークの推奨

自然災害や感染症の蔓延等、働く環境の急激な変化の中で、社員個々の働く意欲に応え、その能力を遺憾なく発揮できるよう、柔軟に対応しています。



ボランティア休暇の導入

地域・社会貢献活動、自然・環境保護活動、災害復興支援活動などに積極的に参加し、社員の人的成長や実務能力、コミュニケーション力等の向上を推進しています。



完全週休2日制の導入

産業廃棄物関連業界では導入が遅れている完全週休2日制を取り入れ、部門間で不均等であった年間労働時間の統一を行います。



時間外労働の削減
①ノー残業デーの設定

毎週水曜日をノー残業デーに設定し、朝礼や社内放送で啓蒙活動を行っています。仕事の優先順位や段取りを事前に考えるなど、会社で効率的に働くための工夫をする社員が増えています。



時間外労働の削減
②所定外労働の事前申請制

残業や休日出勤は、事前申請制としています。これにより役職者が仕事量を把握、調整することができます。またパソコンに「シャットダウンシステム」を導入することで、無駄な残業や休日出勤を省くことができています。



一時間単位の有給休暇取得制度導入

通院や介護、学校行事への参加などにあわせて、より柔軟に休暇を取れるよう時間単位での有給休暇の取得が可能です。

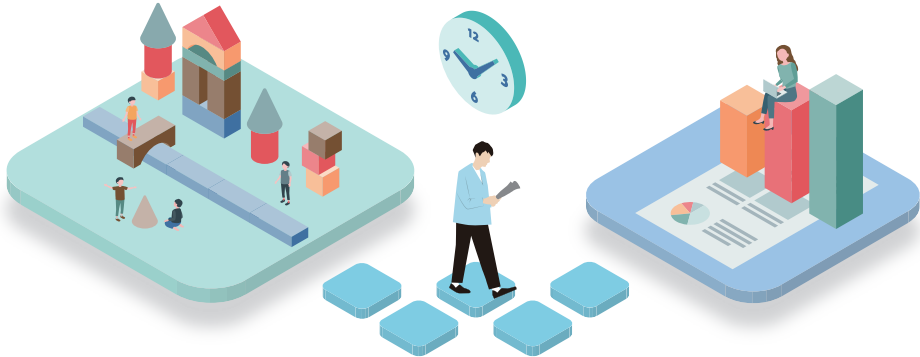
	2022年度	2023年度	2024年度
①労働者の1ヵ月当たりの所定内労働時間 ※事業所の就業規則で定められた始業時間と終業時間との間の実労働時間数	160:40時間/月	160:40時間/月	160:40時間/月
②労働者の1ヵ月当たりの平均所定外労働時間 ※早出、残業、臨時の呼出、休日出勤等の実労働時間数	33:55時間/月	35:58時間/月	27:17時間/月
③労働者の1ヵ月当たりの実際の労働時間 ①+②-（有給休暇を消化した時間）	188:35時間/月	190:38時間/月	181:27時間/月
④労働者の1年の実際の労働時間	2263:00時間/年	2288:00時間/年	2177:24時間/年

ダイバーシティインクルージョン・離職率の低減

当社では、多様な人財や価値観の受容と活かす取り組みに力を入れています。女性の活躍やダイバーシティを推進するとともに、社員一人ひとりの価値観を尊重し、能力を最大限発揮できる環境づくりに努めています。具体的には、定型の終業時刻では不都合のある社員を対象にフレックスタイム制を導入しています。また、通院や介護、学校行事への参加などに合わせ、1時間単位での有給休暇取得を可能にしています。さらに、性別に関係なく育児休業とその後の仕事と育児の両立を支える仕組みを確立し、育児休業の積極的な取得を推進しています。近年では、持続可能な企業を目指し積極的に人財を採用しており、女性社員の割合も年々増加しています。福利厚生代行サービス「福利厚生倶楽部」の導入により、公私にわたり社員をサポートしています。今期から開始した新卒採用では、研修制度をさらに拡充し、組織の醸成を図ります。今後も多様性を尊重し、互いに助け合える環境を創り続けてまいります。

各段階における仕事と育児の支援制度

結婚 → 妊娠中 → 出産 → 育児休業 → 育児と仕事の両立					
勤務制度	結婚休暇	補正健康管理措置 短時間勤務制度 フレックスタイム制度	産前休暇(6週間) 産後休暇(8週間)	育児休業(1歳まで) ※～2歳まで延長可	・フレックスタイム制度 ・時間外労働の制限 ・時間外労働の制限 ・所定外労働の制限 ・深夜業の制限 ・子の看護休暇 等
	在宅勤務制度	在宅勤務制度			在宅勤務制度
経済支援		傷病手当金	出産育児一時金	育児休業給付金	
			出産手当金		
			家族手当※扶養者		
			出産祝金		



男性社員の育児休業取得推進



子の看護等・介護休暇制度



女性活躍の推進

		単位	2022年度	2023年度	2024年度
育児休暇 社内育児・介護働き方制度 利用者数	全体	人	該当なし	該当なし	4
	男性	人	該当なし	該当なし	4
	女性	人	該当なし	該当なし	該当なし
復職率		%	該当なし	該当なし	100
定着率		%	該当なし	該当なし	100



人材育成による事業貢献度の向上

当社では、社内外での研修や業務に関わる資格取得支援などを通じて、社員一人ひとりがより活躍できる環境づくりを目指しています。社内では業務に関する講習会や事業活動の理解を深めるための勉強会を定期的を実施しており、社員はキャリア形成を見据えた資格取得にも積極的にチャレンジしています。今後も一貫した教育体制を整え、研修や資格取得の補助制度をさらに充実させることで、人材育成の環境づくりを推進してまいります。

社内・社外研修の活用 資格取得支援

項目	人数
1級電気工事施工管理技士	1
2級ガソリン自動車整備士	2
CAD利用技術者1級	1
ICTプロフィシエンシー検定協会主催 P検3級	1
ISO14001:2015内部監査員養成研修	1
ISO9001内部品質監査員陽性研修	1
PCB廃棄物の収集運搬業作業従事者講習会	1
SIDASインソールエキスパート技術認定者	1
SIDASインソールポディアテック ベーシック	1
TOEIC720点	1
アーク溶接	20
アシスタント・ブライダル・コーディネーター検定	1
あと施工アンカー打設作業	1
ガス溶接	18
クレーン運転特別教育修了	27
クレデリ運転士	2
けん引免許	2
サービス接遇実務検定2級	1
英国CMI認定サステナビリティ(CSR)プラクティショナー	3
システム監査技術者	1
シャー作業・紙断裁機 特別教育修了	1
スポーツアロマ セルフアロマトリートメント	1
ダイオキシン類対策に係る特別教育	1
テールゲートリフター特別教育修了	24
はい作業主任者技能講習	1
はい作業従事者	10
パソコン技術認定3級	1
ファイナンシャル・プランニング技能士2級	1

項目	人数
フォークリフト運転技能講習修了	66
フルハーネス型安全帯使用作業特別教育	2
フルハーネス型墜落制止用器具特別教育	2
フルハーネス使用作業特別教育修了	41
マイクロソフト認定MOS エクセル	1
マイクロソフト認定MOS ワード	1
マナー・プロトコール検定3級	1
ローラ(学科、実技)	1
ワープロ実務検定3級	1
安全衛生責任者・職長能力向上教育修了	1
安全管理者選任時研修教育修了	8
移動式クレーン	2
一級ボイラー技士	2
一般毒物劇物取扱者	2
英語検定2級	2
英語検定3級	1
鉛作業主任者技能講習	1
化学物質管理者養成研修	1
家庭科技術検定食物4級	1
解体工事施工技士	1
乾燥設備作業主任者技能講習修了	1
環境カウンセラー登録証	1
監督者教育	3
監理技術者講習	1
危険物取扱者 乙種1類	2
危険物取扱者 乙種2類	1
危険物取扱者 乙種3類	3
危険物取扱者 乙種4類	68



社外セミナー受講

項目	人数
危険物取扱者 乙種5類	3
危険物取扱者 乙種6類	4
危険物取扱者 甲種	1
危険物取扱者 丙種	13
危険予知訓練(KYT)教育修了証	1
救命入門コース参加	7
玉掛け作業特別教育修了	17
玉掛技能講習修了	29
研削といし取替え及び試運転業務	1
研削といし取替え等の特別教育修了	10
公認会計士	1
甲種防火管理新規講習課程修了	5
行政書士	1
高圧ガス製造保安責任者免状【丙種化学(特別丙化)】	1
高圧ガス販売主任者免状【第一種販売】	1
高所作業車	12
高所作業車の運転(10m未満、2m以上)	1
産業ロボット特別教育修了	1
産業廃棄物処理検定(廃棄物処理法基礎)	1
産業廃棄物焼却施設技術管理士	4
産業廃棄物中間処理施設技術管理士	3
産業廃棄物又は特別管理産業廃棄物処理業の許可申請に関する講習会(更新)の収集・運搬課程	1
産業廃棄物又は特別管理産業廃棄物処理業の許可申請に関する講習会(更新)の処分課程	1
酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者技能講習修了	33
酸素欠乏・硫化水素危険作業特別教育修了	1
第二種酸素欠乏危険作業主任者技能講習修了	1



研修受講

項目	人数
酸素欠乏危険作業主任者技能講習修了	1
酸素欠乏等危険作業特別教育	40
事業内検査者研修終了	1
自動車整備2級ガソリン自動車	1
自動車整備2級ディーゼル自動車	1
自由研削といし特別教育	1
自由研削砥石	4
社会保険労務士	1
車両系建設機械(整地・運搬・積込・掘削)	32
車両系建設機械(基礎)	1
車両系建設機械(解体5H)	3
車両系建設機械(解体用)	8
珠算実務検定2級	2
書道検定3級	1
除染等業務従事者特別教育終了	1
商業経済検定3級	1
小型移動式クレーン	22
小型車両系	1
小型車両系建設機械(基礎工事用)運転特別教育	1
小型船舶操縦士4級	1
床上操作式クレーン運転技能講習終了	1
消防設備士 乙種6類	1
証券アナリスト 二次試験	1
情報処理技術者試験(ITパスポート試験)	1
情報処理検定3級	1
職長・安全衛生責任者能力向上教育研修	1
職長・安全衛生責任者教育	12
職長教育修了	8



資格取得支援制度の充実

従業員一人当たりの研修受講期間

	2022年度	2023年度	2024年度
※男性	10時間	5.5時間	6.4時間
※女性	10時間	5.5時間	6.2時間

項目	人数
食品衛生管理者の講習会(添加物)	1
振動工具取扱	1
水質関係第一種公害防止管理者	1
千葉県地球温暖化防止活動推進員	1
足場の組立て等特別教育修了	1
大型自動車第一種免許	24
大型自動二輪	1
大型特殊自動車第一種免許	2
第一級陸上特殊無線技士	1
第二級陸上特殊無線技士	1
第三種陸上特殊無線技士	1
第一種衛生管理者	5
第一種電気工事士	1
第二種電気工事士	2
宅地建物取引士	1
炭素会計7D・P・IY-資格3級	1
地下タンク等に係る定期点検技術者講習修了	5
中国語検定4級	1
中小企業診断士 二次試験	1
低圧電気の取扱業務	2
低圧電気取扱(14Hコース)	1
電気工事作業指揮者教育修了	1
電気取扱業務(高圧・特別高圧)特別教育修了証	1
統括安全衛生責任者	1
特定化学物質・四アルキル鉛等作業主任者技能講習修了	4
特定化学物質等作業主任者技能講習修了	5
特別管理産業廃棄物管理責任者	1
特別管理産業廃棄物管理責任者に関する講習会	1

項目	人数
特別管理産業廃棄物処理業の許可申請に関する講習会(新規)収集・運搬課程	1
特別管理産業廃棄物処理業の許可申請に関する講習会(新規)処分課程	1
二級ボイラー技士	5
日商簿記1級	1
日商簿記2級	3
日商簿記3級	5
全商簿記検定2級	1
全経簿記検定2級	1
日本ノルディックウォーキング協会インストラクター	1
日本語ワープロ検定2級	1
博物館に関する科目の単位修得証書	1
秘書技能検定2級	1
秘書技能検定準1級	1
普通救命講習修了	2
普通自動車第一種免許	64
普通自動二輪免許	2
粉じん作業特別教育	19
文部科学省認定デジタル技術検定3級	1
有機溶剤作業主任者技能講習修了	23
有機溶剤取り扱い作業者講習修了	16
総計	868

業務上労働安全衛生、重大事故・災害ゼロ活動

安全衛生委員会が中心となり「安全第一企業を目指す」という考えのもと、安全衛生年間計画を策定しています。工場の定期点検やリスクアセスメント、研修や行事を計画的に実施し、社員一人ひとりが安心して働ける職場環境を整えています。こうした取り組みは事故や災害を防ぐだけでなく、社員の健康意識や主体性を高め、組織全体の力を引き出します。結果として職場の雰囲気明るくなり、協力し合う文化が育ち、会社全体の持続的発展を支える土台となります。安全衛生活動は、未来に向けてより強い組織を築くための重要な投資です。

頻度	該当する部門	具体的な内容
年間	安全衛生委員会	▶前期のマネジメントに関する評価 ▶前期の教訓(マネジメントレビュー)を踏まえた見直し計画の策定 ▶安全衛生に関する教育訓練計画の策定 ▶安全衛生年間計画書の策定
月間	安全衛生委員会	▶ヒヤリハットの抽出、リスクアセスメントの対応 ▶安全パトロール ▶衛生管理者による職場内巡視
	各部署	▶教育訓練の実施 ▶指摘事項に関する具体的な対策の検討および改善の実行
週間	各部署	▶同業他社の事故やケガに関するニュースの共有 ▶安全目標の共有と確認
日間	社員全員	▶安全に留意した事業運営の推進
随時	各部署	▶法令改正に伴う各種要求事項の実施ならびに管理状況等について把握



ドライバー研修会



担架の使用法



安全大会の実施



アルコールチェッカー

主なリスクの特定	具体的に対策を強化した内容
火災が発生した際に、迅速に消火させる仕組みが必要であると判断。	実際に火災が起こる事を想定し、定期的に防災訓練、また消防との合同訓練を行い緊急時に備えている。
近年、夏場の気温が高く熱中症のリスクが高くなっていると判断。	熱中症予防として、飲料水や塩分補給できる食べ物を支給し、水分休憩の時間を設けて、熱中症対策を行っている。
飲酒運転による事故のリスクがあると判断。	業務開始前後には必ずアルコールチェッカーによるアルコールチェックを行い、酒気帯びの有無を確認している。
場内作業中に事故や漏洩のリスクがあると判断。	作業ごとに作業内容を確認するチェックリストを用いて、一つずつ安全を確認しながら作業を行い事故や漏洩を防ぐよう努める。

安全衛生年間行事予定

重点事項	取組み項目・行事	目標 年間実行回数等	年間(年度)スケジュール												実施項目	実施上の留意点
			5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4		
年間の安全衛生行事計画	保護具点検整備月間	1	○												各部署内で使用する保護具の整備及び使用期間の確認	使用期限が切れる保護具等は早めの交換、使用期限前でも不具合が見られたものも交換
	全国労働安全及び衛生週間準備期間	2		○			○								社内の安全・衛生大会の各部署ごとの週間計画に基づく活動の作成	安全・衛生に対しての活動準備
	全国労働安全及び衛生週間(1～7日間)	2			○			○							社内の安全・衛生大会の実施 各部署ごとの週間計画に基づく活動の実施	実施することによる作業環境の改善、維持に役立てる
	作業環境測定	2			○						○				作業者の作業環境の粉じん、有機溶媒の測定	実施することによる安全・衛生に対しての意識の高揚
	定期健康診断の実施	1						○							全社員の健康診断による健康管理	健康診断結果より各人の生活改善に役立てる
	交替勤務者の健康診断(夜勤労働者)	2						○						○	不規則勤務体制者の健康管理	早期による健康災害の発見に役立てる
	インフルエンザ予防接種	1						○							インフルエンザの集団感染予防	予防接種による業務支障予防
	メンタルヘルス診断の実施	1						○							全社員の健康診断時にメンタルヘルス診断実施	診断結果より各人のメンタルヘルス改善に役立てる
	セーフティドライバーズ2024参加	1			←→										千葉県安全運転管理協会主催の無事故・無違反運動	期間中の無事故・無違反を目指す事で意識の向上
	3・ライト運動	1						←→							運動を通じて夕暮れ時から夜間の交通事故防止	夕暮れの早め点灯・歩行時の反射材等使用・右からの歩行者注
	八千代消防防火訓練参加	1				○									防火災害時の迅速な対応訓練	実際の火災を想定しての行動確認を図る
	自社防災・防火訓練	1		○			○			○			○		防災・防火災害時の迅速な対応の実施	実際の防災・防火活動を想定して行動確認する
	定期4S・5Sの強化月間	3		○				○				○			社内全体の4S・5Sに対しての意識向上	4S・5Sの実施による改善点の見直し
	全国火災予防運動(春期、秋期)	2						○						○	火災予防運動の参加	乾燥期に起こる火災に対しての認識の向上
	熱中症対策によるスポーツドリンク等の支給	1		←→											熱中症対策に対しての実施	各人の体調管理を的確に行わせる
	年末年始無災害運動	1								←→					社内の年末年始の災害運動の実施	過渡期に対しての体調管理の徹底
	年末年始交通事故防止運動	1								←→					社内の年末年始の交通事故防止運動の実施	過労、飲酒運転等を行わないよう社員に周知徹底させる
	TOAシブール安全大会	1									○				全社員から安全標語を募集し、優秀作品の発表	全社員への安全に対する意識の向上を図る

主な訓練内容

内部実施	外部実施
防火・避難訓練	安全運転管理者講習
作業手順書を用いた現場における教育訓練	ESJ労働安全衛生研修会
重機作業	ESJ優良認定ドライバー研修
プラント作業	危険物取扱者保安講習
車輛ごとの特性の理解・車輛操作マニュアル教育	酸素欠乏・硫酸水素危険作業主任者技能講習
自主訓練(初期消火、避難、誘導、AED心肺蘇生)	有機溶剤取扱い作業主任者講習
	フォークリフト運転技能講習

※上記以外の訓練についても随時実施しています。



自主訓練の実施



消防との合同訓練

	ポイント	2022年度	2023年度	2024年度
記録対象となる事故やインシデントの件数	件	4	5	2
労働関連の傷害による死亡者の件数	件	0	0	0
度数率	ポイント	0	0	0
強度率	ポイント	0	0	0
不休災害度数率	ポイント	14.85	0	0
全度数率	ポイント	14.85	0	0

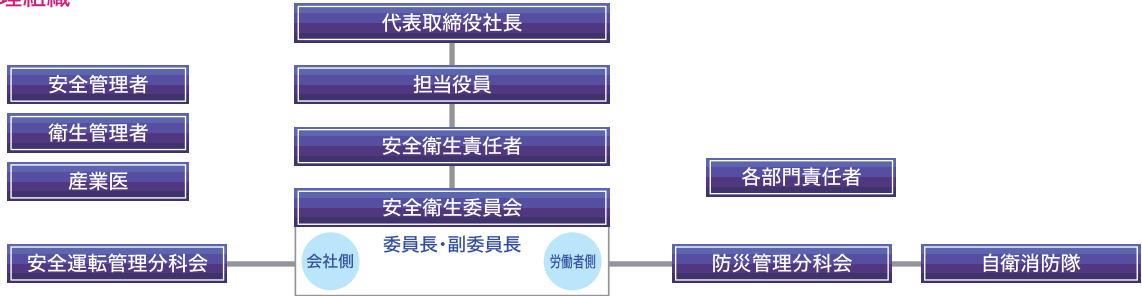
※インシデントとはヒヤリハットやボヤ等の重大な事故につながるケースを指します。

※全社員を数値の対象範囲としています。

※(○数字)は、不休災害の件数、(●数字)は休業1日以上労働災害を指します。

※度数率は、100万延べ実労働時間当たりの労働災害による死傷者数をもって、災害発生の頻度を表したものを指します。尚、労働災害による死傷者数は、休業1日以上又は身体の一部若しくはその機能を失う労働災害による死傷者数を指します。※強度率は、1,000延べ実労働時間当たりの延べ労働損失日数をもって、災害の重さの程度を表したものを指します。※不休災害度数率は、100万延べ実労働時間当たりの不休災害による傷病者数をもって、不休災害発生の頻度を表したものをいいます。※公益社団法人全国産業資源循環連合会安全衛生委員会によると、令和3年度の一般・産業廃棄物処理業の度数率は7.36、強度率は0.17ポイントです。

TOAシブル安全衛生管理組織

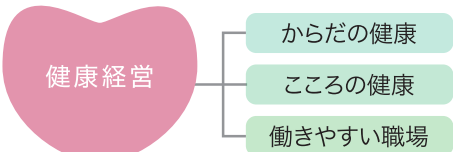


当社は社員の健康被害を防止するための対策、モニタリングを実施しています。作業環境中に有害な物質が存在する場合、それを除去あるいは一定限度までの低減を行います。これらの対策のみでは労働者のばく露を十分に防止できない場合、環境保護具の支給・着用の義務付け、場内清掃を徹底するとともに、臭気性のある廃棄物を滞留させないなど、業務上管理上での対策にも取り組んでいます。

また、労働安全衛生法にしたがって作業環境測定を定期的の実施して社員の健康被害リスクを確認し、対策を推進しています。

対測定場所	項目	頻度	評価	作業員を保護するための取組み
焼却施設	水銀	年2回	2回とも第一管理区域(適切)	▶環境保護具の支給 ▶環境保護具の着用の義務付け ▶こまめな場内清掃の徹底
焼却施設	ダイオキシン	年1回	第一管理区域(適切)	▶環境保護具の着用の義務付け ▶こまめな場内清掃の徹底
焼却施設、セメント固化施設	粉塵	年2回	2回とも第一管理区域(適切)	▶マスクの着用 ▶破碎機の散水による粉塵飛散の抑止 ▶こまめな場内清掃や集塵機活用による粉塵の除去
セメント固化施設、混合施設、分析室	有機溶剤	年2回	第一管理区域(適切)セメント固化施設、混合施設、分析室 第二管理区域(改善の余地あり)BWF出荷ヤード	▶環境保護具の支給 ▶環境保護具の着ようの義務付け ▶臭気性のある廃棄物を滞留させないように処理
焼却施設、セメント固化施設、混合施設	臭気	年2回	2回とも第一管理区域(適切)	▶臭気性のある廃棄物を滞留させないように処理

各項目の分析結果は、分析測定会社の測定結果を開示しています。



- 定期健康診断・人間ドック受診率100%
- 時間外業務の削減休暇制度の活用促進
- メンタルヘルスチェック
- 適度な運動習慣※社内モルック等
- 特定保健指導※対象者
- 健康器具の設置
- 水素水の導入
- インフルエンザ等予防接種補助

労働関連の疾病・体調不良	
2021年度	0人
2022年度	0人
2023年度	0人
2024年度	2人

健康診断の定期実施

全員対象	性別・年齢別		追加検査項目
一般健診 ・診察等 ・問診 ・身体計測 ・血圧測定 ・尿検査 ・便潜血反応検査 （検便） ・血液検査 ・心電図検査 ・胸部X線検査 ・胃部X線検査（バリウム）	男性	～39歳	
		40歳～	前立腺がん検査（前立腺がん）
			眼圧検査（緑内障）
			腹部超音波検査
	女性	～39歳	子宮がん検査 ※子宮頸部細胞診
		40歳～	子宮がん検査 ※子宮頸部細胞診
			甲状腺機能検査（甲状腺）
			眼圧検査（緑内障）
			乳がん検査※（乳腺超音波）



健康経営

「会社は人で成り立つ」という想いのもと、社員の健康を最優先に考えています。福利厚生代行サービスの活用や年1回のストレスチェック、体重計・血圧計などの健康器具設置を行い、日常的な健康管理をサポートしています。さらに、生活習慣病ゼロを目指し、特定保健指導の対象者には専門的な指導を実施しています。来期以降、様々な健康測定会を社内で実施し、社員一人ひとりの健康意識向上に繋がります。社員が心身ともに健やかであることが、会社の力そのものです。今後も健康経営を推進し、活力ある職場づくりに取り組んでまいります。



今期より、社内に体重計・血圧計・メジャーを設置し、各自が日常的にヘルスチェックできる環境を整備しました。自身の体調変化に早く気づき、健康維持・増進につなげることで、健康経営を推進し、活力ある職場をめざします。



社員構成

		2022年度	2023年度	2024年度
全社員	合計	101	114	114
	男性	91	98	93
	女性	10	16	21
正社員	合計	98	106	107
	男性	88	91	87
	女性	10	15	20
有期雇用	合計	3	8	7
	男性	3	7	6
	女性	0	1	1
障がい者雇用	合計	1	1	1
	男性	1	1	1
	女性	0	0	0
役職者の人数	合計	31	37	48
	男性	27	31	39
	女性	4	6	9
女性の役職者比率(課長以上)		0.0%	0.0%	14.2%
平均年齢(正社員)	合計	42.5	40.5	40.0
	男性	42	42	43
	女性	43	39	37
勤続年数(正社員)	合計	9	8	8
	男性	10	10	11
	女性	8	6	5

社員年代構成

	2023年4月30日時点(人数)						2024年4月30日時点(人数)						2025年4月30日時点(人数)					
	男性		女性		合計		男性		女性		合計		男性		女性		合計	
20代	10	10%	1	1%	11	11%	10	9%	2	2%	12	11%	9	8%	4	4%	13	11%
30代・40代	59	58%	6	6%	65	64%	62	54%	11	10%	73	64%	56	49%	14	12%	70	61%
50代以上	22	22%	3	3%	25	25%	26	23%	3	3%	29	25%	28	25%	3	3%	31	27%
計	91		10		101		98		16		114		93		21		114	

※このデータは基準日を変更したため、2023年度版のTOAサステナビリティレポートの数値と異なります

項目	2022年度		2023年度		2024年度	
男女比	男性 90%	女性 10%	男性 86%	女性 14%	男性 81%	女性 19%
外国人の割合	0%		0%		0%	
障がい者雇用	0.99%		0.88%		0.88%	
役職者のうち八千代市出身の割合	9	29%	13	35%	19	40%
終身雇用の社員に支給され、 有期雇用の社員に支給されない手当	退職金		退職金		退職金	

項目		2022年度	2023年度	2024年度	
離職率	全体	10%	11%	21人	23%
	男性	10%	0%	1人	5%
	女性	10%	10%	22人	19%

採用者内訳

	2022年度						2023年度						2024年度					
	男性		女性		合計		男性		女性		合計		男性		女性		男女合計	
20代	6	32%	0	0%	6	32%	1	5%	2	10%	3	14%	5	24%	4	19%	9	43%
30代・40代	9	47%	1	5%	10	53%	13	62%	3	14%	16	76%	8	38%	3	14%	11	52%
50代以上	3	16%	0	0%	3	16%	2	10%	0	0%	2	10%	1	5%	0	0%	1	5%
計	18		1		19		16		5		21		14		7		21	

退職者内訳

	2022年度						2023年度						2024年度					
	男性		女性		合計		男性		女性		合計		男性		女性		男女合計	
20代	0	0%	0	0%	0	0%	1	9%	0	0%	1	9%	3	14%	1	5%	4	18%
30代・40代	5	50%	0	0%	5	50%	7	64%	0	0%	7	64%	13	59%	0	0%	13	59%
50代以上	4	40%	1	10%	5	50%	3	27%	0	0%	3	27%	5	23%	0	0%	5	23%
計	9		1		10		11		0		11		21		1		22	

自己都合退職者内訳

	2022年度						2023年度						2024年度					
	男性		女性		合計		男性		女性		合計		男性		女性		男女合計	
20代	0	0%	0	0%	0	0%	1	9%	0	0%	1	9%	3	14%	1	5%	4	18%
30代・40代	5	50%	0	0%	5	50%	7	64%	0	0%	7	64%	12	55%	0	0%	12	55%
50代以上	1	10%	0	0%	1	10%	3	27%	0	0%	3	27%	1	5%	0	0%	1	5%
計	6		0		6		11		0		11		16		1		17	



千葉県赤十字血液センター
事業推進一部 献血推進課

熊本秀一 様



生産部 工場一課 係長

岩永 達郎

Third Party

日頃より献血ならびに献血推進活動へのご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。
日本の輸血医療は100%善意の献血で支えられております。しかし、近年の少子高齢化の影響により、将来の輸血医療を担う若年層の献血者が減少の一途をたどる一方で、輸血医療を受ける高齢者の方々が今後ますます増えていくことが予想されており、このままでは安定的な輸血用血液の供給に支障が出る恐れがあります。医療機関へ安定的に血液を届けるためには、季節や天候に影響されづらい平日の企業献血がとても重要となります。前途のとおり、大変重要な企業献血において、貴社の献血実施は八千代市の献血で協力いただいております企業の中で重要な企業様として位置付けております。通常の企業献血は、午前と午後で別の企業へ訪問し献血ご協力をいただいておりますが、貴社には1日を通して献血実施にご協力いただいております。これは工業団地内の周辺企業や近隣住民の皆様へ、献血周知ならびに動員依頼をかけていただくことで1日実施が実現しております。通常業務外にも関わらず、献血に対して深くご理解をいただき、献血ご協力をいただき始めてから献血者は増加傾向であること誠に感謝の念が尽きません。令和6年度は弊社所長より表彰をお送りいたしました。千葉県や国からの表彰もこの先お送りさせていただきたい企業様です。今後とも何卒よろしく願いいたします。
今後の弊社が希望する展望といたしまして、図々しく恐縮ではございますが、ぜひ献血推進活動を利用いただき、貴社を一般の方へ知っていただく機会を作りたいと考えております。例えば、ショッピングモール等で献血実施時に、貴社ノベルティグッズの提供や献血声かけ活動にご参加いただくことで貴社を一般市民の方へPRする機会を作りたいと考えております。献血を利用いただき貴社をPRする機会を今後模索していくことで、相互にとって利益となる関係性を築いてまいりたいです。

Xible's Voice

「安全第一企業」として日々、安全安心な職場づくりが私は何よりも大切だと捉えています。
年に一度行われる安全大会や、定期的な避難訓練は社員皆が安全の意識を高め労働災害を防ぐことにつながっていると感じています。私はエマルジョン施設で勤務をしていますが、安全衛生委員会の副委員長としての活動もあり、定期的な安全パトロール等により危険な箇所については、改善を行うよう各部門に呼びかけています。また、会社の資格取得支援を利用し産業廃棄物中間処理施設管理士、「産業廃棄物焼却施設技術管理士」という国家資格を取得しました。取得がゴールではなく、今後とも経験と知識を増やし、会社に貢献したいと考えております。そして今期は育児休暇を取得しました。今期は私だけでなく、複数名の男性社員が育児休暇を取得しました。ワークライフバランスがよい環境は大変ありがたいことですし、育児に参加し成長が近くで見れるのは何よりも嬉しいのです。そしてワークライフバランスが保たれることにより、心身の健康にもつながり、日々の業務にもしっかり向き合うことができています。
今後も安全第一の意識を常に忘れず、そして家族も守っていくためにも心身の健康も大事にしていきたいです。

揺るがない経営基盤の確立

戦略的優先課題(環境におけるコンプライアンスの遵守)

最も関連するSDGsのターゲット	TOAシプルの具体的なコミットメント	TOAシプルのコミットメントの解説	活用する数値	2022年度	2023年度	2024年度	評価	ありたい姿
 3.9/6.3/6.6/12.4 14.1/15.1/16.3/16.10	労働安全衛生活動	ISO環境目標 騒音・臭気 漏洩事故・苦情	発生件数	漏洩事故 1件	騒音・臭気・苦情 0件 漏洩5件	騒音・臭気・苦情 0件 漏洩1件	×	0件
 3.6/16.3		交通事故 違反件数	交通事故 違反件数	事故2件 違反:4件	事故:3件 違反:2件	事故:4件 違反:1件	×	0件

2024年度の実績と今後の方針

当社では労働安全衛生徹底のため、現場では手順書教育を行い、定常作業、非定常作業に関わらず危険予知(KY活動)を継続して実施しています。また、工場員全員を対象として安全パトロールを実施し、リスク見直しを定期的に行い、再教育の有無を検討しています。2024年度は漏洩事故が1件発生しました。自社ダンパー車両で荷下ろしの際に荷下ろし先が地上タンクでタンク上部から降ろすのに高低差があるため、排圧を掛けたところ、後部ハッチより漏洩が発生しました。周辺地域には影響ございませんでした。排圧をかけたこと、後部ハッチパッキンが寿命だったことが原因と考えられます。今後は配車指示にて同様の作業の場合はダンパー車両を使用しない、後部ハッチパッキンを定期的に交換致し事故防止に努めてまいります。事故件数に関しましては昨年度と比べると大幅に減少いたしました。事故発生時に行う事故対策会議や定期的に行っている教育訓練、昨年度より実施している荷下ろし時に行うチェックリストを用いて、立会人のもと作業員が作業内容をダブルチェックし、更に指差し呼称を徹底する事によって減少いたしました。引き続き教育訓練を実施し事故防止に努めてまいります。その他業務作業中に違反が1件、交通事故が4件、場内事故が8件(物損、漏洩)でした。2024年度は物損事故が多く発生してしまいましたが、事故違反、労働災害ゼロを目指し、労働安全衛生への対策をさらに強化するとともに、違反や事故が発生した際は是正処置に従い適切に対処してまいります。



月1回の安全パトロール実施



定期的な設備点検

戦略的優先課題(社会面におけるコンプライアンスの遵守)

最も関連するSDGsのターゲット	TOAシブルの具体的なコミットメント	TOAシブルのコミットメントの解説	活用する数値	2022年度	2023年度	2024年度
	コンプライアンス経営の推進	コンプライアンス経営の推進	違反件数	0	0	1
		コーポレートガバナンスの強化	コンプラ研修の回数	—	0	1

2024年度の実績と方針

当社は本年度、重要課題の一つとして「コンプライアンス経営の推進」を掲げ、内部通報制度の運用や体質改善に加え、全社員を対象としたコンプライアンス研修を実施してまいりました。しかしながら、期中にコンプライアンス違反が1件発生し、未然に防ぐことができませんでした。この事実を重く受け止め、原因分析と再発防止策の策定を行うとともに、内部統制の更なる強化、リスクコンプライアンス委員会の機能向上、教育・研修の内容見直しと徹底を進めます。再発防止のため、通報後の対応フローを短縮化し、現場の声を迅速に反映できる体制を整えると同時に、そもそもトラブルが起こりづらい「話しやすい職場環境」づくりに注力します。そのためには、上長・役員層が率先して意識を切り替え、対話と傾聴を重視する文化を浸透させることが不可欠と考えています。透明性の高い経営と自律的な行動が根づく企業風土の醸成に向け、継続的に取り組んでまいります。



社内規定の整備



社員へのヒアリング

重要課題	特に細心の注意を払うべき法律のリスト			
限りある資源を大切に	▶廃棄物の処理及び清掃に関する法律 ▶資源有効利用促進法(各種リサイクル法) ▶化学物質排出把握理解促進法 ▶電気事業法 ▶建設業法	▶道路運送車両法 ▶循環型社会基本法 ▶化学物質排出把握理解促進法 ▶循環型社会基本法 ▶千葉県環境基本条例	▶八千代市環境基本条例 ▶千葉県廃棄物の処理の適正化等に関する条例 ▶千葉県県外産業廃棄物適正処理に関する指導要綱 ▶高度化法(エネルギー供給構造高度化法)	
地球環境をクリーンに	▶地球温暖化対策推進法 ▶フロン排出抑制法 ▶NOx・PM法	▶大気汚染防止法 ▶PRTR制度 ▶ダイオキシン類対策特別措置法	▶高度化法(エネルギー供給構造高度化法) ▶千葉県大気汚染緊急時対策特別要綱	
地域社会との共存共栄	▶悪臭防止法 ▶水質汚濁防止法	▶湖沼水質保全特別措置法 ▶土壌汚染対策法	▶騒音規制法 ▶都市緑地法	
豊かな未来を創る組織の実現	▶労働基準法 ▶労働安全衛生法 ▶最低賃金法	▶男女雇用機会均等法 ▶高齢者雇用安定法 ▶育児・介護休業法	▶健康増進法 ▶道路交通法 ▶消防法	▶障害者雇用促進法 ▶職業安定法 ▶労働施策総合推進法
揺るがない経営基盤の確立	▶会社法 ▶金融商品取引法 ▶下請法 ▶計量法	▶暴力団等排除条例 ▶個人情報保護法 ▶建築基準法 ▶サイバーセキュリティ基本法	▶不正アクセス禁止法 ▶民法、刑法 ▶特許法 ▶著作権法	▶特定電子メール法 ▶電子署名及び認証業務等に関する法律 ▶千葉県廃棄物処理施設の設置及び維持管理に関する指導要綱

機密情報の取り扱いについて

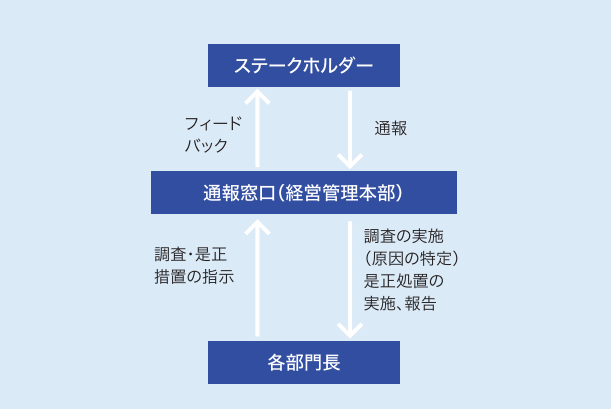
「情報セキュリティ管理規程」を設け、高い情報セキュリティレベルを維持する体制を構築し事業の安定継続を保っています。当社情報システム室には、資格を持った社員が常駐し、常に全社員のパソコンの監視をしています。また、ソフトウェアを常に最新の状態に管理し、不正アクセスを防いでいます。更に全パソコンにウイルス対策を導入することや、記憶媒体の持ち出しに関するルールを設定する等、情報漏洩対策を図っています。個人情報については「個人情報保護規程」に従い厳格な管理を行っております。

サプライチェーンマネジメント

協会社・パートナー企業のネットワーク拡充により、信頼関係の構築を図り相互の持続的成長につなげることで、安心・安全の提供を推進しています。今後はサプライヤーの皆様との協働をより一層推進させ、事業を通じて社会課題の解決を図り、社会の期待を越える価値を提供してまいります。

社内外の助言を求める制度および懸念を提起するメカニズム

当社が定めるMission(存在意義)には「当社は安全で健康な職場環境を形成するとともに、法令遵守を徹底し、広く地域、産業社会に貢献いたします。」と定めています。コンプライアンスに関する相談や不正行為等の通報の窓口として、社内の窓口と社外の弁護士を直接の情報受領者とする外部窓口を設置しております。これにより、通報者の保護を徹底した運用が可能です。通報のあった案件については調査を行い、通報対象者や案件への個別の対応だけでなく、社内のコンプライアンス・リスク管理委員会に報告をあげ全社的な再発防止策の検討を行っています。



マイナスのインパクトの是正プロセス

ステークホルダーの皆様からのお問合せやご相談、苦情等については、当社ホームページのお問合せ窓口とお電話にて承っています。お客様から頂いたご意見やご要望は、全て社内データベースに集約し、内容を分析し、役職員まで速やかに共有するとともに、社内で検討を行い、企業活動に反映させています。このように一つひとつ真摯に誠実に、かつ迅速に対応することでお客様のニーズをつかみ、新たな価値創造につなげ信頼関係を深めてまいります。

反社会的勢力との関係排除

健全な事業遂行の確保を図るため、定期的に千葉県公安委員会主催の講習に参加しています。契約や取引の際には継続的に反社チェックを実施すること、状況に応じて適切な対応策と外部専門家との連携を取ることであり、リスクの低減と社会的信用の維持を図っています。



	2022年度	2023年度	2024年度
環境違反罰金回数	0回	0回	0回
環境違反罰金額	0円	0円	0円
社会経済分野の法規制の違反	0回	0回	0回

社員や、取引先企業等ステークホルダーからの懸念や苦情を受け入れる窓口を用意しています。当社HPのお問合せ窓口のフォームへの記入又はお電話をご利用いただけます。いただいた情報は厳重な管理のもと、経営管理本部に提出され、各部門長に伝達されます。その後ガイドラインに基づきヒアリングを行い、是正処置を実施します。そして、相談者・通報者が容易に特定されるのを避け、不利益を被らないよう、『公益通報者保護法』に則って適切に対処いたします。今後はよりガバナンス機能を強化するための組織体制づくりを推進していきます。



稲葉総合法律事務所

小杉 祥代様

Third Party

貴社は「揺るがない経営基盤の確立」を掲げ、これまで内部統制システムの整備やリスクコンプライアンス委員会の活性化、内部監査機能の強化に向け、着実に取り組みを進めてこられました。私が担当する社外通報窓口においても、社員の皆様がコンプライアンス意識を持ちながら声を上げる環境が少しずつ醸成されていることを実感しています。廃棄物処理業界は、法令遵守が事業存続の前提条件であるだけでなく、地域社会の環境保全に直結する社会的責任の大きい業種です。不適切な管理や処理が重大な環境リスクや社会的信用の失墜につながりかねないことから、法的・倫理的観点からの不断のリスク管理が求められます。近年、法規制の厳格化や社会からの説明責任の要求が高まる中で、単に「ルールを守る」ことにとどまらず、「リスクを未然に察知し、先回りして対応する力」が企業価値に直結する時代となっています。貴社においては、これまで培ってきた内部統制の枠組みをさらに進化させ、「実効性のあるリスクマネジメント」と「現場レベルでの自律的なコンプライアンス文化」の醸成に向けた取り組みが、次のステップだと考えます。具体的には、以下のような取り組みに期待します。

- 現場の実態を反映したリスクアセスメントの定期的な見直し
 - 内部通報制度のさらなる信頼性向上と、利用しやすい風土づくり
 - 法改正や社会動向を踏まえた教育・研修の継続的な強化
 - 取引先・協力会社を含めたサプライチェーン全体でのコンプライアンス意識の向上
- 廃棄物処理業界が社会から求められる役割は年々大きくなっています。持続可能な社会の実現に向けて、法令遵守のその先、すなわち「社会的信頼のさらなる向上」に向けたガバナンス体制の深化を、第三者の立場から今後も期待しております。



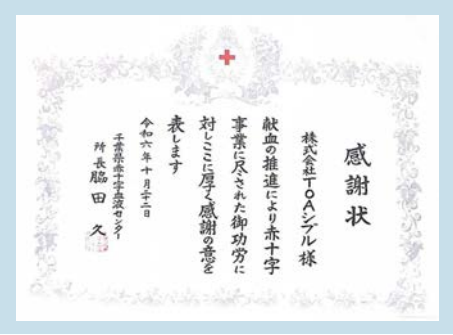
常務取締役(兼)CFO(兼)CHRO
経営管理本部長

安藤 大樹

Xible's Voice

当社は、環境に対するさまざまな課題に立ち向かう企業として注目されております。そのため、従業員、お客様、サプライヤー、投資家、地域社会などのステークホルダーとの関わり合いも広がりを見せております。特に企業活動がより透明性と社会的責任が求められる状況下で、ESG(環境・社会・ガバナンス)に対する取り組みを経営の基本方針とし、ESG経営を当社の事業に対する社会的信頼および当社の持続的な成長を支える礎としております。「揺るがない経営基盤の確立」は、ステークホルダーの皆様へ信頼されてこそなしえるマテリアリティであり、ステークホルダーの皆様より継続的にご支援をいただく体制構築が当社の喫緊の課題となっております。現在、ステークホルダーの皆様が安心・安全に当社とお付き合いいただくために、積極的な情報発信を行っております。例えば、本レポートのサステナビリティレポートを始め、ホームページやSNSによる情報発信およびTOA ACTIVITY REPORTの定期発行などを行っております。また、財務内容等につきましても、産廃情報ネットに掲載しております。今後も、様々な形でステークホルダーの皆様にご支援いただけるよう、積極的に情報発信を行っていきたいと考えております。社内に目を向けますと、社内体制を刷新し、内部管理体制の強化を行って参りました。当社では、コンプライアンスの徹底や透明性の高い意思決定に加え、内部統制の整備・運用を進めており、リスクの予防と早期発見・対応を可能にする仕組みを構築し、業務運営の妥当性や法令遵守の状況を継続的に検証しております。更に内部通報制度の運用体制も見直し、社員一人ひとりが声を上げやすい職場環境の整備にも努めております。「この人ならきっとやってくれる」、「この企業ならきっとやってくれる」と期待感のある人材・組織を醸成し、ステークホルダーの皆様への信頼にお応えできるよう邁進して参ります。「信無くんば立たず」。その思いを胸に、私たちはこれからも誠実な経営を貫き、ステークホルダーの皆様と共に、循環型社会の実現に貢献して参ります。

寄付等の社会貢献活動、その他特記すべき取組み



献血センターより感謝状受賞

当社敷地内での献血開始以降、数名だった参加者が年間120名以上になった広まりが認められ、千葉県赤十字血液センター様より『血液センター所長感謝状』をいただきました。当社としては初の受賞となりました。今後も「いのちのバトン」をつないでいくために、献血活動を継続してまいります。



初期消火大会初優勝

千葉県八千代市内の「自衛消防隊 初期消火活動競技大会」に参加し、初優勝を飾りました。毎年参加しているこの大会は、万が一火災が発生した際に行う、①的確な消防への通報②施設内への放送③消火栓を使用しての初期消火 に関して、そのスピードや手順の正確さを競うものとなっています。当社では、日々の安全パトロールや自主訓練、5S活動等の徹底など、「安全第一企業」を目指しています。今後も安全を守るための活動に積極的に取り組んでまいります。



飲酒撲滅宣言

「飲酒運転をしない、させない、許さない」という理念のもと、社会全体で事故をなくそうとする活動に参画しています。企業として、道路交通法規の遵守、飲酒運転を行う可能性のある人への車両提供や同乗の禁止、飲酒運転の目撃時の警察への通報などを徹底し、安心安全な地域社会の実現を目指します。



デコ活宣言

環境省の「デコ活」宣言企業に登録いたしました。デコ活とはCOOL CHOICEのあとに発足された2050年カーボンニュートラル及び2030年度削減目標の実現に向けて、国民・消費者の行動変容、ライフスタイル転換を強力に後押しするための宣言です。当社は事業を通じた資源循環はもちろんのこと、業務中の省電力化等を通じ、カーボンニュートラルに貢献してまいります。



おもてなし企画

年に3回、お客様に感謝の気持ちを伝える毎年恒例企画「おもてなし企画」を実施しています。当日ご来社されたお客様に感謝の気持ちを込めてささやかなプレゼントを社員からお渡しをしています。この企画は当社のCredoである「おもてなしの心で、最高のサービスを提供します」に基づいたもので、普段交流のないお客様ともコミュニケーションのきっかけにつながっています。



ひまわりプロジェクト

2024年度では3度目となるひまわりプロジェクト。環境の日である6月5日に社員で種まきをし、8月には満開のひまわりが咲きました。採れたひまわりの種は福島県のNPO法人シャローム様に返し、ひまわりオイル「みんなの手」を製造・販売されるという社会貢献活動につながっています。

グループ会社紹介

株式会社 アールズファクトリー



当社は、リサイクルの推進とCO2排出削減を目指し、産業廃棄物の収集運搬から処理、スクラップの再資源化などの事業を通して、資源循環型社会と低炭素社会の構築に向け一層の努力を続け、お客様と共に「環境」を創造する工場を更に発展させてまいります。



ロゴを一新しました！

TOAシブルの根幹となる「X」を取り入れています。Refuse（不要なものを買わない）・Reduce（減らす）・Reuse（再利用）・Recycle（再資源化）・Retrieve Energy（エネルギー利用）等の3Rを超えた様々な環境負荷低減への取り組みを示す言葉の頭文字「R」を重ね「R's」に、その実現を願うお客様のための工場として「FACTORY」と続け、「R's FACTORY」とし、当社の社名に決めました。

Overview 会社概要

社名	株式会社 アールズファクトリー
代表者	富田 聡
所在地	〒277-0872 千葉県柏市十余二230-14
事業内容	産業廃棄物の収集運搬及び中間処理 非鉄・鉄スクラップの買取及び加工製品の販売
創立	2012年(平成24年)6月
創業	2012年(平成24年)8月
資本金	1,000万円
加入団体	エコスタッフ・ジャパン株式会社
従業員数	28人(2025年4月現在)
売上高	5.3億円



株式会社 アールズファクトリー
代表取締役社長 富田 聡

当社は、産業廃棄物の収集運搬・中間処理、スクラップの買い取りから加工製品の販売まで、資源の循環と再生に取り組んできました。設立から14年。創業当初から一貫して「廃棄物に新たな価値を吹き込む」という使命を胸に歩んでまいりました。

近年、気候変動や資源の枯渇、生物多様性の損失といった地球規模の課題が顕在化するなかで、企業にはより一層の責任ある行動が求められています。当社はこれまでも法令を順守しながら、安全・確実な処理を通じて地域社会の信頼に応えてまいりました。今後はそれに加えて、環境への負荷低減や脱炭素社会の実現にも、積極的に取り組んでまいります。その一環として、当社では事業所に大規模な太陽光パネルを設置し、必要な電力の多くを自然エネルギーでまかなう体制を構築しました。これは、資源を「循環」させるだけでなく、エネルギーのあり方そのものも持続可能な形へと変えていこうとする、私たちの姿勢の表れです。

また、資源循環型社会の実現には、地域との共生や、多様なパートナーとの連携が不可欠です。私たちは地元企業や行政、教育機関とも協力しながら、次世代につなぐ持続可能な社会づくりに貢献してまいります。そのような企業活動を支えているのが社員です。社員一人ひとりが現場の最前線で感じている課題やアイデアには、会社をより良くするヒントが詰まっています。私たちのような規模の会社だからこそ、顔を合わせ、言葉を交わし、想いを共有することができます。今後とも「社員の声」に耳を傾けることにより、社員が安心して働き、誇りをもってお客様や地域と向き合える環境を作っていきたいと考えます。

これからも「環境と産業の橋渡し役」として、地域に、そして社会に貢献し続けてまいります。引き続き、皆さまの温かいご理解とご支援を、引き続きよろしくお願い申し上げます。

- ◆普通産業廃棄物処分業
- ◆特別管理産業廃棄物処分業
 - ・ 破碎施設 ×2基
 - ・ 圧縮施設 ×1基
 - ・ 油水分離施設 ×2基
 - ・ 切断施設 ×1基
 - ・ 溶融固化施設 ×2基

- ◆普通産業廃棄物収集運搬業
- ◆特別管理産業廃棄物収集運搬業
- ◆鉄・非鉄金属の買取(古物商許可)
- ◆フロン類回収(第一種フロン類充填回収業者登録)
- ◆計量証明事業登録(事業の区分:質量)

- ◆リサイクル家電手続き代行
- ◆廃棄物分析代行
- ◆データ破壊代行(PCハードディスク破壊証明)
- ◆機密書類溶融化処理代行
- ◆廃棄物処理トータルコーディネート

廃棄物におけるアールズファクトリーのビジネスモデル

当社は混合廃棄物や複合型廃棄物の処理を得意としており、建設業や設備業からの混合廃棄物や倉庫業からの商品廃棄物、及び学校関係からのイスや机など、様々な業種のお客様より廃棄物処理のご依頼をいただいております。ご依頼いただいた廃棄物は、人の手で種類ごとに分別したのち、当社の処理において中間処理を行っています。中間処理後物につきましては、マテリアルリサイクル・サーマルリサイクルを行っている事業者様へ納めており、リサイクル率の向上を図っております。また、1都7県から優良事業者として、産業廃棄物の収集・運搬の許可を得ており、さまざまなタイプの輸送車両を保有し、お客様の廃棄物種類や規模に応じた最善の収集運搬方法を提供いたします。



普通・特管産業廃棄物処分業



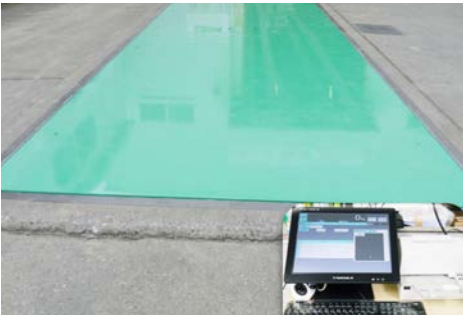
普通・特管産業廃棄物収集運搬業



鉄・非金属の買い取り



フロン類の回収（第一種フロン類充填回収業者登録）



計量照明事業登録（事業の区分：質量）

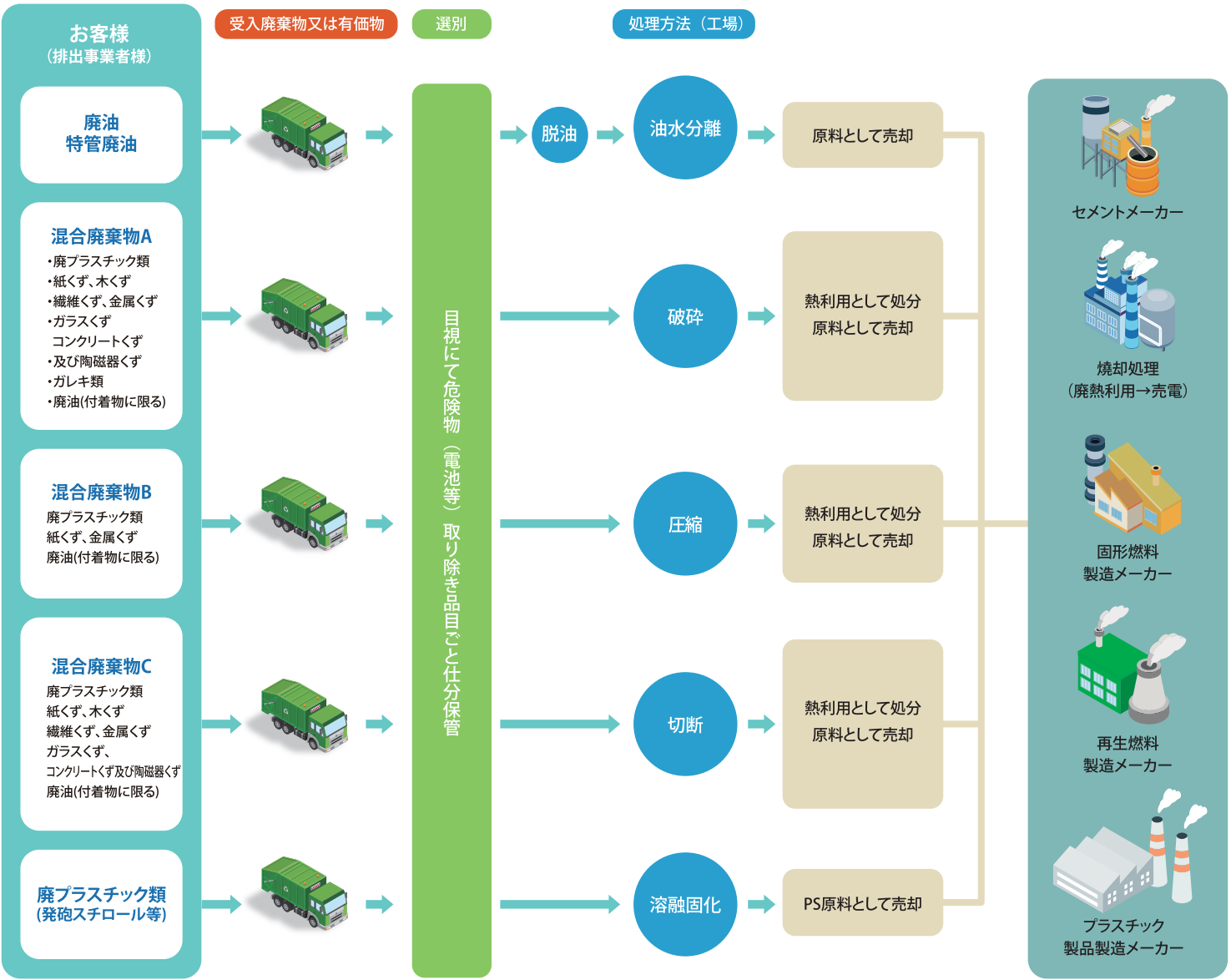
- リサイクル家電手続き代行
- 廃棄物分析代行
- データ破壊代行（PCハードディスク破壊証明）
- 機密書類溶融化処理代行
- 廃棄物処理トータルコーディネート

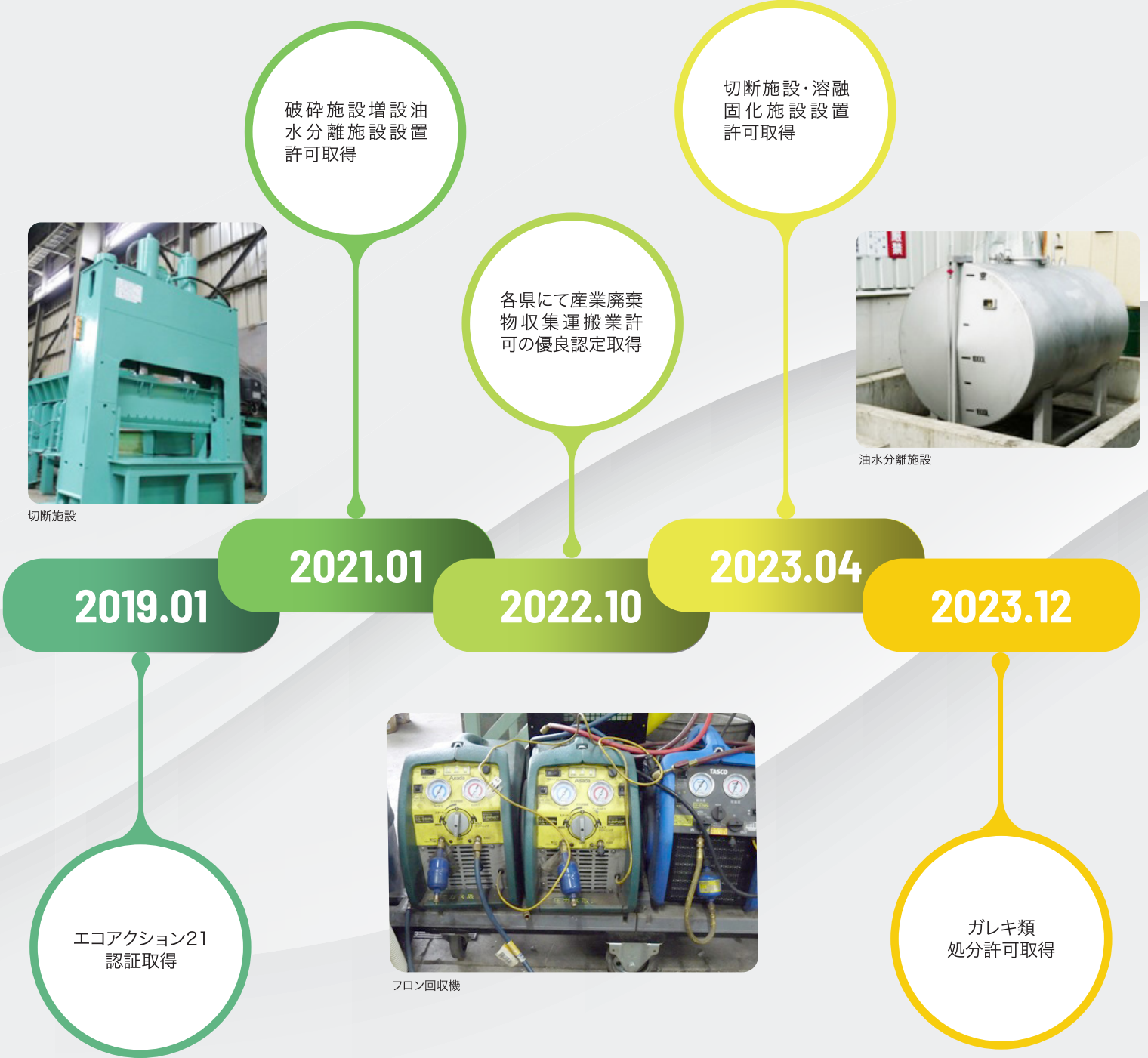
2024年度の実績と今後の方針

2024年度は、各事業所で処分に苦慮している蛍光灯類や充電式を含む電池類の回収・適正処分・処分場までの安全な運搬に注力しました。その結果、多くの企業から信頼をいただき、新規取引先の獲得にもつなげることができました。今後はさらに一歩踏み込み、現在受け入れている廃棄物を「ただ適正に処分する」のではなく、いかにしてマテリアルリサイクルやケミカルリサイクルへ転用できるかという観点から検討を進めます。これにより、廃棄物の価値を最大限に引き出し、循環型社会の実現に貢献することを目指してまいります。



廃棄物処理におけるアールズファクトリーのビジネスモデル





社会貢献活動・社内活動等



エコキャップ活動

使用済みペットボトルキャップを回収し、リサイクル資源として活用する「エコキャップ活動」に取り組んでいます。回収したキャップは再資源化され、売却益はワクチン支援など社会貢献に役立てられます。社員だけでなく協力業者の皆さまにも参加を呼びかけ、身近な行動から環境保全と地域貢献を目指しています。



出入り業者様へのおもてなし

廃棄物を持ち込まれる協力業者の皆さまに季節ごとのドリンクをお渡ししています。炎天下や寒冷時に屋外作業が続く中で、少しでも体調管理や安全運転の助けになればという想いから始めました。日頃の感謝を込めたこの取り組みは、業者の皆さまとの信頼関係を深める大切な機会にもなっています。



太陽光パネル設置

当社では事業所の屋根全体に太陽光パネルを設置し、自然エネルギーを積極的に活用しています。発電した電力は業務で使用し、CO₂排出削減やエネルギーの自給率向上に貢献しています。限りある資源に頼らない持続可能な事業運営を目指し、再生可能エネルギーの導入を通じて環境負荷の低減に取り組んでいます。



社員家族とのBBQ

社員とその家族が集まり、定期的にBBQを開催しています。部署や世代を超えて交流できる場として、普段の業務では見られない一面を知るきっかけにもなっています。家族同士のつながりも生まれ、社員が安心して働ける環境づくりや社内の一休感の醸成につながる大切なコミュニケーションの場となっています。



千葉ジェッツ応援自販機

地元千葉で活躍するプロバスケットボールチーム「千葉ジェッツ」を応援するため、売上の一部がチーム支援につながる寄付自販機を設置しています。地域の皆さまと共に千葉ジェッツを盛り上げ、スポーツを通じた夢や感動を次世代へつなげていきます。



地域清掃活動

今期より社員全員で近隣清掃活動を始めました。地域に支えられている感謝を胸に、社員一人ひとりが力を合わせて身近な環境をきれいに保ちます。地域と共に歩み、共に未来をつくる会社をめざしてまいります。



総務人事担当として、社内の円滑な運営を支える業務に日々取り組んでおります。備品管理、社内行事の運営、各種手続きのサポートなど多岐にわたる業務を通じて、社員が働きやすい環境づくりを目指しています。

当社は社員一人ひとりの働き方や価値観を尊重してくれる会社だと感じております。部署を問わず意見を交わせるオープンな風土があり、総務人事としても現場の声を直接拾いやすい環境が整っています。また、有給休暇をはじめ、計画的な休みが取りやすいため、プライベートとのバランスが取りやすいです。しっかり休んでリフレッシュできる環境は、長く働く上で非常に大切だと感じています。

今後も、自分自身のスキルアップはもちろんですが、縁の下の力持ちとして会社全体のサポートに尽力してまいります。

管理部 松葉 亜沙果

Employees' Voice



私は現在、営業部として既存顧客への定期訪問や新規顧客の開拓、廃棄に関するお問い合わせ対応を行っております。産業廃棄物8品目および特別管理産業廃棄物(廃油)の処理が可能な点を強みとし、事業系・建廃系を問わず、幅広い廃棄物のご相談に対応しています。

また、当社で処理出来ない廃棄物についても、協力会社との連携により最適な解決策をご提案できる体制を整えているので、「廃棄物で困ったらアールズファクトリー」と信頼いただける存在を目指し、日々尽力しております。近年、廃棄物への関心が高まる中で、その最前線ともいえるこの業界で働けることにやりがいを感じますし、分からないことも多くありますが、その分だけ日々学びがあります。

今後は、より専門的な知識や法令への理解を深め、お客様に安心と信頼をお届けするとともに、環境に配慮した持続可能な社会の実現に向けて貢献していきたいと考えています。

営業部 齋藤 直紀

株式会社 大池



昭和56年創業当時より、多岐にわたる石油製品（ガソリン、アルコール類及び各種溶剤、各種テスト用燃料、自動車用添加剤等）の配合、製造、充填、小分けを強みとし、これまで培った経験と技術により、多くのお客様から信頼をいただき、現在では幅広い種類の製品を手掛けております。これからも、年々多様化するニーズにお応えしてまいります。



ロゴを一新しました！



TOAシブルの根幹となる「X」を取り入れています。「池」は景観の中心でありながら、防災の役割や、生物達の命を育む場所です。さまざまな役割の中で、時代の変遷と共に、穏やかに広く皆を包み込む流れのような企業でありたいという想いを込めています。

Overview 会社概要

社名	株式会社 大池
代表者	澁谷 政明
所在地	〒341-0044 埼玉県三郷市戸ヶ崎3224番地
事業内容	石油製品の製造販売 石油化学製品の製造販売 防錆潤滑油の製造販売及び委託加工 各種溶剤の製造販売
創業創立	昭和56年12月8日
資本金	300万円
登録団体	三郷市防火安全協会
従業員数	11人(2025年4月現在)
売上高	8.3億円

2024	TOAシブルが全株式取得。完全子会社化。 同時に有限会社から株式会社に改組。
2024	TOAシブルより化成品事業を譲受。



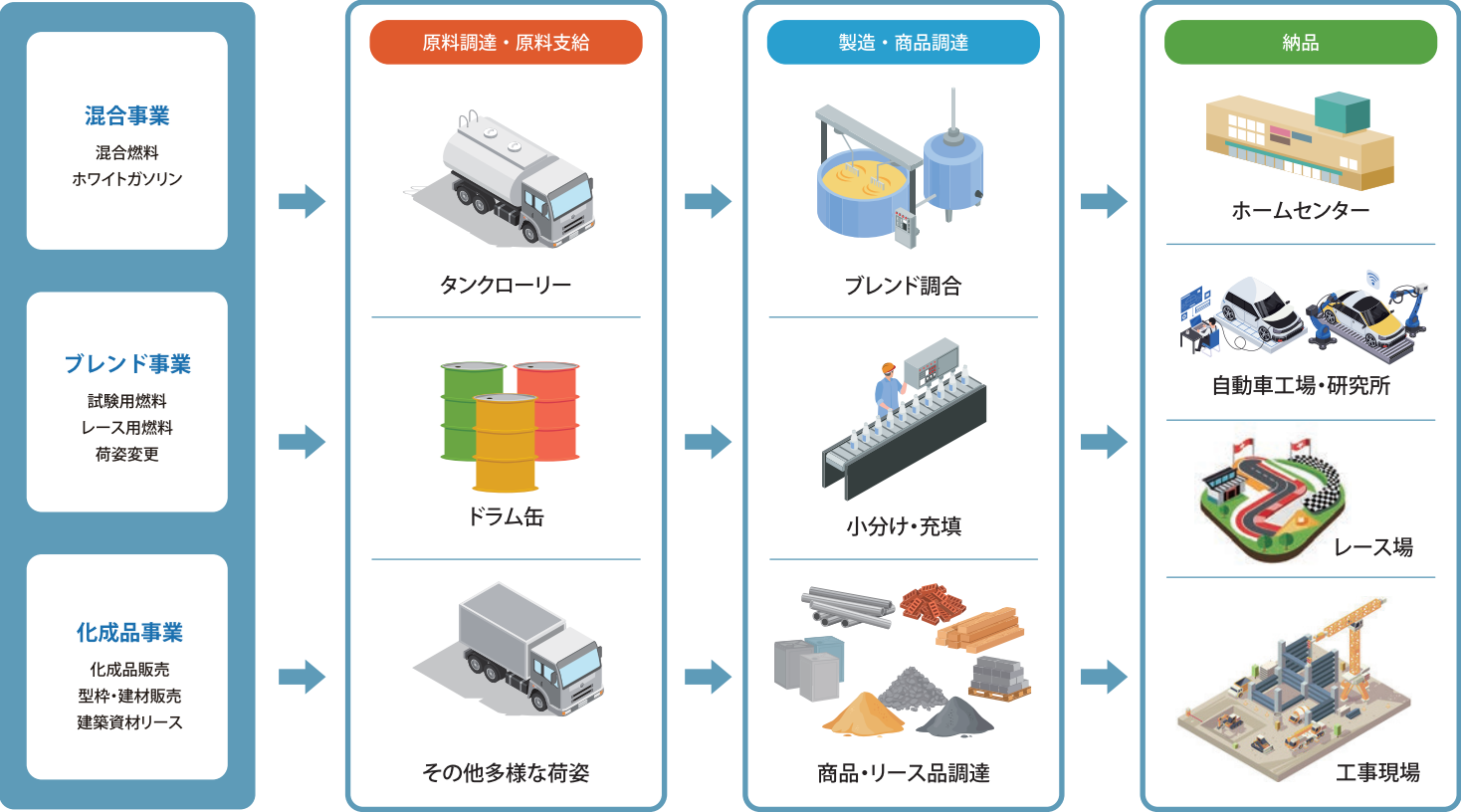
株式会社大池
代表取締役社長 澁谷 政明

当社は2年前、M&Aにより新しくTOAグループの一員となりました。その歴史は古く、昭和56年に創業、来年には創業45年を迎える老舗企業であり、各種石油製品や溶剤類の製造・調合・小分けなどを主な事業として展開しています。具体的には、草刈機や小型農機具で使用される2サイクルエンジン用混合ガソリンの製造、自動車用テスト燃料やレース燃料、アウトドア用ホワイトガソリンの調合・製造などです。このような石油製品や揮発性の高い溶剤などを取り扱うには、危険物の製造・取扱い・保管に関する許認可が必要であり、当社はそのすべてを保有する全国でも数少ない企業の一つです。加えて、当社の専門企業としての豊富なノウハウと技術、小規模企業ならではの機動力が評価され、この度、第2世代バイオ燃料製造の研究開発に参画させていただくことが決定いたしました。第2世代バイオ燃料は、非可食植物を原料とすることから、従来のバイオマス燃料のように食料と競合することがないため、現在、注目の再生可能エネルギーの一つです。日本を代表する大手企業とともに、地球規模の課題である「CO₂排出削減」に貢献できることを誇りに思うとともに、その責任の大きさに身が引き締まる思いです。当社が有する経験と技術力に一層の磨きをかけ、地球温暖化の防止に少しでも貢献できるよう、社員一同一丸となって取り組んでまいります。

事業紹介

- ①2サイクルエンジン用混合ガソリンの製造
- ②自動車用テスト燃料の調合・充填
- ③各種レース用燃料の調合・充填
- ④アウトドア用ホワイトガソリンの充填
- ⑤防錆剤や防凍剤等の建設、土木化成品の製造・販売
- ⑥型枠・仮設材等の建設、土木用資材の販売・リース
- ⑦その他、ガソリン、軽油、アルコール等、石油製品のブレンド・充填・小分け
荷姿変更

大池のビジネスモデル



2024年度の実績と今後の方針

事業の安定と拡大

2024年度は、混合ガソリン事業において原料仕入れ先の拡大を進め、リスクヘッジと価格交渉力の強化を図りました。また、TC納品への取り組みを推進するとともに、ガソリンスタンド向けに新たな販路開拓を進めることで、事業の安定と持続的成長につなげてまいりました。

ブレンド事業においては、新規案件を複数獲得し、事業基盤の拡充を実現しました。さらに、地下タンクの増設や分析機器の導入といった設備投資を計画的に進め、製造体制の強化にも着手しています。また、全社員がブレンド作業を担える体制づくりを進めることで、柔軟で安定した供給体制の構築を目指しています。

内部統制体制の強化

組織運営の透明性と効率性を高めるため、部門体制の整備を進めるとともに、販売管理システム等の導入に取り組みました。さらに、社内規定の整備を行い、内部統制体制の強化を図っています。今後も引き続き、業務プロセスの標準化と管理体制の充実を通じて、持続可能な事業運営の基盤を確立してまいります。



混合事業

大池では、刈り払い機やチェーンソーなどに使用される2サイクルエンジン用混合燃料を製造・販売しています。製品は1L・2L・4Lの3種類をラインアップし、主な納品先はホームセンターや農機具メーカーです。需要は春から秋にかけて集中し、多い時には1日あたり18KLを製造しています。燃料には特殊な酸化防止剤や添加剤を調合しており、長期保存が可能であるとともに、排気ガス中のCO₂削減効果も備えています。さらに、大手アウトドアメーカー向けにランタン用燃料も製造し、幅広いニーズに応えています。

ブレンド事業

主に自動車エンジン開発用のテスト燃料を製造しております。繊細な調合が要求され調合後の分析もppm単位で行っております。新規エンジンの耐久性等を確認するため、特殊燃料で性能調査を行います。また、レースで使う特殊燃料の製造も行っております。近年ではCO₂削減のため、植物由来の燃料に移管するべく、さまざまな特殊燃料の製造依頼を受注しております。

化成品事業

大池では、もともと一部の化成品を製造していましたが、2023年度にTOAグループに加わって以降は、防錆剤や防凍剤など建設・土木向け化成品「サムテックシリーズ」の製造・販売を展開しています。これらの製品は主に道路や橋梁などの施工に活用されています。さらに、新たな事業領域として、型枠資材や仮設建材の販売・リースにも取り組んでいます。

社会貢献活動・社内活動等



エコキャップ回収

TOAグループの一員として、ペットボトルキャップを回収し、リサイクル資源として活用する「エコキャップ活動」に取り組んでいます。社員の家庭や業務中の飲料のエコキャップはすべて回収し、社会貢献に対する社員の意識も向上しています。



多様な働き方実践企業ゴールド認定取得

埼玉県多様な働き方実践企業に挑戦し、ゴールド認定取得いたしました。この制度は、仕事と家庭の両立を支援するため、テレワークや短時間勤務など、多様な働き方を実践している企業等を県が認定するものです。



企業型確定拠出年金制度の導入

社員一人ひとりの将来設計を支援し、安心して働き続けられる環境を整えるため、企業型確定拠出年金制度「iDeCo+ (イデコプラス)」を導入しました。本制度は、社員が個人型確定拠出年金 (iDeCo) に拠出する掛金に対し、会社が上乗せ拠出を行うもので、長期的な資産形成を支援します。これにより、福利厚生のさらなる充実と、社員の持続的な生活基盤の確立を後押ししています。



遮熱シートの導入

製造所に遮熱シートを設置しました。近年の気候変動により製造所内の温度上昇が問題になっていました。室内温度上昇を抑えることで、機械や電気設備の負荷低減や、社員の働きやすい環境を提供しています。



健康診断項目の拡充

社員の健康維持と生活の質向上を目的に、定期健康診断の検診項目を拡充しました。年齢に応じたオプションメニューを追加し、50代向けの検査項目に加え、5歳刻みで必要となるオプション検査については会社が一部費用を負担します。今期より本制度の導入を決定し、社員が安心して長く働ける環境づくりと、予防医療の推進を図っています。



SDGsをゲームで体感

SDGsの研修を実施いたしました。社員に「SDGs」やサステナビリティの意識を根付かせる第一歩として、SDGsのカードゲームを実施しました。近年では環境に配慮した製品の依頼も多く、業務を通して取り巻く環境の変化を感じるなかで、社員の意識の変化の第一歩の研修となりました。



私は現在、管理部門および営業部門で、化成品の受発注業務や事務全般を担当しています。大池は、化成品の製造・販売や、多品種・少量生産への柔軟な対応を強みとする会社です。洗浄剤や混合燃料など、ニーズに応じた製品づくりを通して、持続可能なものづくりに取り組んでいます。入社後は、これまで経験のなかった業務にもチャレンジすることができ、自分のスキルを広げる良い機会となりました。日々の業務の中で製品や工程への理解が深まり、仕事のやりがいも増えています。また、社員同士が気軽に意見を交わせる風通しの良い職場環境も大池の魅力のひとつです。安心して挑戦できる雰囲気のなかで、前向きに日々の業務に取り組むことができています。現在は、さらに業務の幅を広げるために、簿記や秘書検定、危険物取扱者などの資格取得にもチャレンジしたいと考えています。今後も学びを重ねながら、大池の一員として成長してまいります。

管理部門 廣部 志緒里

Employees' Voice



私は現在、混合事業や備品の受発注業務に携わっています。入社してまだ日が浅く、日々学びながら仕事を進めているところですが、周囲の先輩方の温かいサポートのおかげで、安心して業務に取り組んでいます。社内はアットホームな雰囲気で、部署を越えて連携し合える団結力があります。分からないことがあっても気軽に相談できる環境が整っており、少しずつですが自分自身の役割や業務への理解が深まってきました。今はまだ学ぶことばかりですが、一日も早く一人前として信頼されるよう、基礎を大切にしながらスキルを磨いていきたいと考えています。

業務部門 穂積 愛香

グループ会社紹介

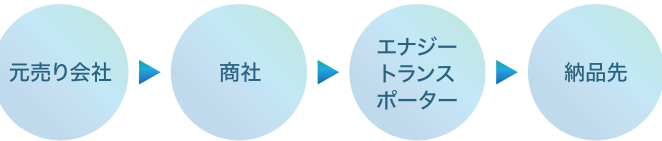
2025年4月よりTOAグループに参入
株式会社 エナジートランスポーター



ビジネスモデル

石油製品の専門輸送において、信頼を構築

- 一般貨物自動車運送業として、安全性と効率性を最優先に多年培ったノウハウと技術を通して安定した輸送を実現しています。
- 主要取引先は大手優良企業



Overview 会社概要

社名	株式会社 エナジートランスポーター
代表者	栗原 等
所在地	本社：千葉県浦安市北栄4-10-11 北関東営業所：栃木県河内郡三上町大字上三川4489-6
事業内容	ガソリン・灯油・軽油・石油など石油製品の配送
創立	2012年(平成24年)9月
資本金	300万円
従業員数	17人(2025年4月現在)
車両保有台数	17台

安全管理の徹底	業界基準の安全管理システムを超える厳格な基準を維持。それに基づいた、独自の安全確認書を使用し、事故ゼロを目指しています。
効率的な物流	最適なルート計画とリアルタイム追跡技術を活用しています。
長年の信頼構築	設立依頼の豊富な経験と実績により、多くのお客様に選ばれ続けています。



株式会社 エナジートランスポーター
代表取締役社長 栗原 等

当社は、ガソリン・軽油などの石油関連製品をタンクローリーで安全かつ確実にお届けする一般貨物自動車運送事業の会社です。設立した当初からのお客様も多く、継続したご依頼をいただくことで関係性を築き、信頼にお応えしてまいりました。その信頼を支えているのは、長いキャリアを誇るドライバーたちと、共に働く仲間を大切にしよう職場環境です。安心して働ける環境づくりこそ、お客様に喜ばれる仕事の基盤であると考えています。当社の経営の基本方針は『共に歩む』社会とともに、社員とともに、お客様とともに、そしてTOAグループとともに未来を創りたいという想いを込めています。私自身、かつて石油を販売する立場にあった経験から、お客様が受注を獲得するまでにどれほどのご苦労があるかを熟知しており、ご担当者さまから相談をうけることもあります。その職務の質とお客様満足度を同時に高めることを使命としています。社員一人ひとりには、会社を「人生の相棒」と思い、プロとして誇りをもって働いてほしいと願っています。どうすれば、お客様に心から喜んで対価を支払っていただけるか。その問いに正面から向き合いながら、これからも信頼と安心を運び続け、地域社会に貢献してまいります。



今後は、安全・確実な物流を守りつつ、社会や環境への貢献にも力を注いでまいります。まずはエコキャップ回収や献血活動など身近にできる活動から始め、地域とのつながりを大切に育んでいきます。持続可能な未来に向け、一歩ずつ着実に行動し地域社会に言頼される企業を目指します。

A vertical image featuring a weathered wooden door on the left, slightly ajar, revealing a bright, sunlit path leading into a dense forest. Sunlight rays (crepuscular rays) stream through the trees, creating a magical atmosphere. The forest floor is covered in green grass and small white flowers. The right side of the image is dominated by the text 'Keep Doing!' and its Japanese translation.

Keep Doing!

緑豊かな明日を創るために



株式会社 TOA シブル

〒276-0022 千葉県八千代市上高野1728-5
TEL.047-485-7189 FAX.047-482-7090



＊オフィシャルWEB
toaxible.com



＊アンケートに
ご協力お願いします



GRIスタンダード

利用に関する声明	株式会社TOAシンプルは、51期(2024年5月～2025年4年)までの期間について、GRIスタンダードを参照して報告する	
利用したGRI 1	GRI:基礎2021	
該当するGRIセクター別スタンダード	該当なし	
GRI スタンダード / その他の出典	開示事項	掲載場所
一般開示事項		
GRI 2：一般開示事項 2021	2-1 組織の詳細	P9
	2-2 組織のサステナビリティ報告の対象となる事業体	P9
	2-3 報告期間、報告頻度、連絡先	P4
	2-4 情報の修正・訂正記述	—
	2-5 外部保証	P28
	2-6 活動、バリューチェーン、その他のビジネス関係	P9～12、73、74、81、82、87、88 ※1
	2-7 従業員	P65、66、73、81、87
	2-8 従業員以外の労働者	—
	2-9 ガバナンス構造と構成	P15
	2-10 最高ガバナンス機関における指名と選出	—
	2-11 最高ガバナンス機関の議長	—
	2-12 インパクトのマネジメントの監督における最高ガバナンス機関の役割	—
	2-13 インパクトのマネジメントに関する責任の移譲	—
	2-14 サステナビリティ報告における最高ガバナンス機関の役割	—
	2-15 利益相反	—
	2-16 重大な懸念事項の伝達	—
	2-17 最高ガバナンス機関の集合的知見	—
	2-18 最高ガバナンス機関のパフォーマンス評価	—
	2-19 報酬方針	—
	2-20 報酬の決定プロセス	—
	2-21 年間報酬総額の比率	—
	2-22 持続可能な発展に向けた戦略に関する声明	P1,2
	2-23 方針声明	P15

GRI スタンダード / その他の出典	開示事項	
一般開示事項		
GRI 2：一般開示事項 2021	2-24 方針声明の実践	P16
	2-25 マイナスのインパクトの是正プロセス	P70
	2-26 助言を求める制度および懸念を提起する制度	P70
	2-27 法規制遵守	P68、69
	2-28 会員資格を持つ団体	P27、28
	2-29 ステークホルダー・エンゲージメントへのアプローチ	P16
	2-30 労働協約	P15 ※2
マテリアルな項目		
GRI 3：マテリアルな項目 2021	3-1 マテリアルな項目の決定プロセス	P17～26
	3-2 マテリアルな項目のリスト	P18、25、26
【エネルギー】		
GRI 3：マテリアルな項目 2021	3-3 マテリアルな項目のマネジメント	P36～42
GRI 302：エネルギー 2016	306-1 組織内のエネルギー消費量	P41、42
	306-2 組織外のエネルギー消費量	P41、42
	306-3 エネルギー原単位	P42
	306-4 エネルギー原単位	P42
	306-5 製品およびサービスのエネルギー必要量の削減	P41、42
【水と廃水】		
GRI 3：マテリアルな項目 2021	3-3 マテリアルな項目のマネジメント	P43
GRI 303：水と廃水 2018	303-1 共有資源としての水との相互作用	P43
	303-2 排水に関連するインパクトのマネジメント	—
【生物多様性】		
GRI 3：マテリアルな項目 2021	3-3 マテリアルな項目のマネジメント	P43～45
GRI 304：生物多様性 2016	304-1 保護地域および保護地域ではないが生物多様性価値の高い地域、もしくはそれらの隣接地域に所有、賃借、管理している事業サイト	P44
	304-1 活動、製品、サービスが生物多様性に与える著しいインパクト	P40

【大気への排出】		
GRI 3：マテリアルな項目 2021	3-3 マテリアルな項目のマネジメント	P39～42
GRI 305：大気への排出 2016	305-1 間接的な温室効果ガス(GHG)排出量(スコープ1)	P42
	305-2 間接的な温室効果ガス(GHG)排出量(スコープ2)	P42
	305-3 間接的な温室効果ガス(GHG)排出量(スコープ3)	—
	305-4 温室効果ガス(GHG)排出原単位	P41
	305-5 温室効果ガス(GHG)排出量の削減	P41
	305-6 オゾン層破壊物質(ODS)の排出量	—
	305-7 窒素酸化物(NOx)、硫黄酸化物(SOx)、およびその他の重大な大気排出物	P40
【廃棄物】		
GRI 3：マテリアルな項目 2021	3-3 マテリアルな項目のマネジメント	P29～P37
GRI 306: 廃棄物 2020	306-1 廃棄物の発生と廃棄物関連の著しいインパクト	P30
	306-2 廃棄物関連の著しいインパクトの管理	P30
	306-3 発生した廃棄物	P30～P38
	306-4 処分されなかった廃棄物	P30～P38
	306-5 処分された廃棄物	P30～P38
【雇用】		
GRI 3：マテリアルな項目 2021	3-3 マテリアルな項目のマネジメント	P52～64
GRI 401：雇用 2016	401-1 従業員の新規雇用と離職	P66
	401-2 正社員には支給され、非正規社員には支給されない手当	P66
	401-3 育児休暇	P55、56

【労働安全衛生】		
GRI 3：マテリアルな項目 2021	3-3 マテリアルな項目のマネジメント	P52、59～64
GRI 403: 労働安全衛生 2018	403-1 労働安全衛生マネジメントシステム	P52
	403-2 危険性(ハザード)の特定、リスク評価、事故調査	P59
	403-3 労働衛生サービス	P60、62～64
	403-4 労働安全衛生における労働者の参加、協議、コミュニケーション	P60
	403-5 労働安全衛生に関する労働者研修	P61
	403-6 労働者の健康増進	P62～64
	403-7 ビジネス上の関係で直接結びついた労働安全衛生の影響の防止と緩和	P59、60
	403-8 労働安全衛生マネジメントシステムの対象となる労働者	P65
	403-9 労働関連の傷害	P61
	403-10 労働関連の疾病・体調不良	P62
【研修と教育】		
GRI 3：マテリアルな項目 2021	3-3 マテリアルな項目のマネジメント	P52、57、58
GRI 404：研修と教育 2016	404-1 従業員一人あたりの年間平均研修時間	P58
	404-2 従業員スキル向上プログラムおよび移行支援プログラム	P57、58
	404-3 業績とキャリア開発に関して定期的なレビューを受けている従業員の割合	—(100%)
【ダイバーシティと機会均等】		
GRI 3：マテリアルな項目 2021	3-3 マテリアルな項目のマネジメント	P55、56
GRI 405：ダイバーシティと機会均等 2016	405-1 ガバナンス機関および従業員のダイバーシティ	P65、66
	405-2 基本給と報酬総額の男女比	—
【地域コミュニティ】		
GRI 3：マテリアルな項目 2021	3-3 マテリアルな項目のマネジメント	P46～51、72、79、85
GRI 413：地域コミュニティ 2016	413-1 地域コミュニティとのエンゲージメント、インパクト評価、開発プログラムを実施した事業所	P9、73、81、87
	413-2 地域コミュニティに著しいマイナスのインパクト(顕在的、潜在的)を及ぼす事業所	P9、73、81、87

※1 詳細は、産廃情報ネットで開示している「優良産廃処理業者認定制度に係る公表事項」を参照。「さんばいくん TOAシブル」で検索、あるいは以下URLでご覧いただけます。
https://www2.sanpainet.or.jp/zyohou/index_u2.php?UserID=005637

※2 安全衛生委員会の中に社員代表が所属しています。